を進め、諸門に題榜せんと請ふ。皆許さず。○王疑ひて、敢て下らず。王曇首・王華・到彥之、行かんことを勸む。○彥之謂ふ、兵を領して前驅するも恃むに足らず。更に嫌隙の端を開かんと。○王、傳亮に二王の薨廢の本末を問ひ、號哭嗚咽す。○王、嚴衞して下る。朱容子、刀を抱き、累句、帶を解かず。○傳亮謂ふ、王は晉の文・景以上の人なりと。○王、帝位に卽き、赦す。○蔡廓謂ふ、謝晦、人の二兄を殺し、上流の重きに據る。自ら免ること難しと爲すと。○晦、石頭を顧み、自ら脫することを得と謂ふ。○帝、華林に訟を聽く。辭して曰はく、政刑、未だ悉さざる所多しと。○王曇首・王華、侍中と爲る。○帝、到彥之を召して中領軍と爲す。彥之、謝晦に詣りて深く誠款を布く。晦是に由りて自ら安んず。○袁后を立つ。○吐谷渾阿柴、其子緯代を捨てて、同母弟慕璝を立つ。○阿柴、子弟に命じて箭を折らしめて曰はく、孤なれば則ち折れ易く、衆ければ則ち折れ難しと。

	旃蒙赤奮若	二	徐傳、上表して政を歸す。始めて萬機を親らす。○徐羨之、位を遜れんと欲す。徐佩之等固く之を止む。○魏始めて步堆を遣はして來聘す。○楊盛卒す。子玄立つ。○盛、義熙の年號を改めず。○王弘、司空を固辭す。○孔寧子・王華等、執政を帝に構ふ。帝、密に、之を討たんことを謀る。
三	柔兆攝提格	六	叱盧犍等、河西の沮渠白蹄を臨松に襲ひ、之を擒にす。○吉毗等、黑水羌丘檐を擊ち、之を破る。○檐、衆を將ゐて來降す。
何承天、謝晦に勸む、			
七		夏主昌	武烈帝殂す。太子昌、位に卽く。
莫者胡を			
二		十三	秦の叱盧犍、臨松を襲ひ、沮渠白蹄を擒にす。
呼盧古・			
十四			
秦人、西			
十七		十六	女子有り、化して男と爲る。傅權、以て臣將に君と爲らんとする の兆と爲す。
太子永卒			
三		二	保母竇氏を尊びて、保太后と爲す。○步堆を遣はして宋に聘せしむ。○帝自ら將として五道より柔然を伐つ。柔然北に走る。
秦の莫者胡來りて、夏			

正、辛亥。二、庚戌。五、己卯。七、戊寅。十、丁丑。九、丙子。一、閏正月。二、春分。○一日、魏志、正月を張に食す。

○境外に、全きを求めよと。顏邵、藥を飲みて死す。

○周超謂ふ、三千の徒、城に非ずして、以て守るべし。超、卞庚に登りて之を卽ち司馬に授く。○解き廢王弘・褚の謀に預かり、召して之を本より以て殺さざるを使ふ。

○徐羨之・傅亮を誅す。○到彥之・檀道濟に命じ、晦を討たしむ。○道濟曰はく、晦、臣の智を悉す。臣の勇を悉す。

○晦、檀道濟が來り上る。晦、慄慄として計無し。道濟、艦を列して江を過ぐ。晦の軍大に潰ゆ。晦、走りて江陵に還る。

○劉粹、江陵を襲ふ。周超、擊ちて之を破る。○帝、蕪湖より東に還る。

○晦、周超に愧謝し、弟を攜へて北に走る。安陸に至り、之を獲。

○晦の女、晦に謂ふ、當に戮場に橫たふべし、尸奈何ぞ都市に狼藉せんや。○延陵蓋、晦に隨ひて、捨てず。帝、之を賞す。○魏の王慧龍、項城を圍む。

○道琳、帝に賞遇せられ、遂に權要に參す。之を黑衣宰相と謂ふ。帝、每歲三たび獄を訊す。○王敬弘自ら謂ふ、訊牘を解せずと。

○王華謂ふ、宰相、頓に數人有り、何に由りて治を得んやと。○殷景仁・王曇首・王華・劉湛、俱に侍中と

○境外に、全きを求めよと。顏邵、藥を飲みて死す。

○周超謂ふ、三千の徒、城に非ずして、以て守るべし。超、卞庚に登りて之を卽ち司馬に授く。○解き廢王弘・褚の謀に預かり、召して之を本より以て殺さざるを使ふ。

○徐羨之・傅亮を誅す。○到彥之・檀道濟に命じ、晦を討たしむ。○道濟曰はく、晦、臣の智を悉す。臣の勇を悉す。

○晦、檀道濟が來り上る。晦、慄慄として計無し。道濟、艦を列して江を過ぐ。晦の軍大に潰ゆ。晦、走りて江陵に還る。

○劉粹、江陵を襲ふ。周超、擊ちて之を破る。○帝、蕪湖より東に還る。

○晦、周超に愧謝し、弟を攜へて北に走る。安陸に至り、之を獲。

○晦の女、晦に謂ふ、當に戮場に橫たふべし、尸奈何ぞ都市に狼藉せんや。○延陵蓋、晦に隨ひて、捨てず。帝、之を賞す。○魏の王慧龍、項城を圍む。

○道琳、帝に賞遇せられ、遂に權要に參す。之を黑衣宰相と謂ふ。帝、每歲三たび獄を訊す。○王敬弘自ら謂ふ、訊牘を解せずと。

○王華謂ふ、宰相、頓に數人有り、何に由りて治を得んやと。○殷景仁・王曇首・王華・劉湛、俱に侍中と

洲に敗る。○晦、檀道濟が來り上る。晦、慄慄として計無し。道濟、艦を列して江を過ぐ。晦の軍大に潰ゆ。晦、走りて江陵に還る。

○劉粹、江陵を襲ふ。周超、擊ちて之を破る。○帝、蕪湖より東に還る。

○晦、周超に愧謝し、弟を攜へて北に走る。安陸に至り、之を獲。

○晦の女、晦に謂ふ、當に戮場に橫たふべし、尸奈何ぞ都市に狼藉せんや。○延陵蓋、晦に隨ひて、捨てず。帝、之を賞す。○魏の王慧龍、項城を圍む。

○道琳、帝に賞遇せられ、遂に權要に參す。之を黑衣宰相と謂ふ。帝、每歲三たび獄を訊す。○王敬弘自ら謂ふ、訊牘を解せずと。

○王華謂ふ、宰相、頓に數人有り、何に由りて治を得んやと。○殷景仁・王曇首・王華・劉湛、俱に侍中と去る。○吉毗、南蠻に鎭す。辛濟、城に據りて之を逐ふ。濟の師衆、楊玄に奔る。

○紬繭羅穀戶を罷む。

爲る。帝謂ふ、後世、繼ぎ難からんと。○謝弘微、精神端審にして、時に然る後言ふ。家人、之を敬すること、神の若し。○謝混謂ふ、弘微は異なれども物を傷らず、同すれども正を害せずと。○王曇首、封を辭す。○范泰、謝晦の嬀女を赦さんと、請ふ。○徐佩之、反を謀りて誅せらる。○張太妃卒す。

強圉單閼	四	正、乙亥。三、甲戌。六、癸卯。八、壬寅。十、辛丑。十二、庚子の朔。○宋志に、六、癸卯朔、食す。○魏志に、五月辛酉、太白、西方に合す。
	八	京陵に謁し、高祖の耕具を見る。○杜弘文、疾を輿して路に就く。
	三	
	十五	
	十八	
	四	

を執ふ。○吳漢、羌に攻められ、枹罕に還る。

山羌叛き、左丞相曇達を南吉に敗る。執へ、征北王、枹罕に還る。○渥頭等を遣はして魏に入れ、貢す。○氐の楊玄、赤水を出て連圍輔政

可き吾が非す。斤を禽にして待ち、內外之を擊つ。萬克蔑克たばさるん。○夏主、言を聽き、降人の出て戰ひ、魏に敗られ、城に入れず、及ばず、遂に奔る。上邽に奔る。魏、統萬に克つ。○平原公之を定、亦、開き、長安より上邽に奔る。○安定、魏に降る。

平原公定、魏の斤を長安に擊つ。○魏主、來りて統萬を攻む。○夏主、定の軍を召さむ。曰はく、定統峻、堅に萬にして拔く猝

○崔浩、趙倪を叱して曰はく、風道、人に在り、豈に常有らんや。○帝、馬より墜ち、幾ど夏の兵に獲られんとす。拓跋齊、之を救ひ、免るる得たり。○帝、奔る。逐ひて城に入る。○帝、夏人、門を閉ぢ、乃ち出づ。○夏主、上邽に奔る。○遂に統萬城に克つ。○統萬は以て刀斧を屬ぐ。可く、宮室壯麗なり。帝曰はく、民を用ふること此の如し、亡びざらんとするも得んやと。○崔浩謂ふ、趙逸の文章、夏を譽むること實に過ぐるは、罪するに足らずと。○帝、娥清丘堆を遣はし、地を關右に略せしむ。赫連定、統萬已に破るると聞き、亦、上邽に奔る。○帝、奚斤に命じて師を班さしむ。斤、固く、兵を益して以て上邽を攻めんと請ふ。○柔然、雲中に寇す。○帝親ら矢石を犯す。

夏の赫連定、兵を引き、○帝、長安に向ふ。○萬帝、虛に乘じて復た襲ふ。○統帝、輕騎步兵三萬を以て留攻具を行ふ。○帝、倍して兼ねて其の道を抵む。城を攻むること、三日なり。城下に誘ひて出で戰はしむ。○吾が士卒、去るに若かず。○則ち二千里、窮に入る。○帝、破る。

著雍執徐		二、己亥。四、戊戌。六、丁酉。七、丁卯。八、丙申。十二、乙未。十二、甲子の朔。十一、○閏十。十一日、冬至。○一月魏志に、十一月乙未朔、五食す。又、月癸未、太白、天街を犯す。
五		范泰、王弘に勸む、位を遜れ、彭城王義康を徵して、入りて政を輔けしめよと。○弘、號を衞將軍に降す。○謝靈運、朝政に參せざるを恨み、憤怨して官を免す。
秦王末 永弘元		姚濬叛き河西に據て、王弘、州錄を解きて以て彭城王義康に授けんと。帝、義康を以て南徐州の刺史を領し、弘を尚書の事を錄し、南豫州の刺史を領し、弘を尚書の事を錄し、南豫州の刺史を領し、弘を尚書の事を錄し、南豫

十、己未。十二、戊午の朔。○宋志に、五月壬辰朔、食す。十一月己丑朔、又食し、盡きざること鉤の如く、星見ゆ、晡方に沒す。河北の地闇し。

と共に朝政を輔けむ。弘、事毎に之に讓る。○帝、書を以て江夏王義恭を戒む。○太子劭を立つ。○帝、外祖母蘇氏に奉ずること甚だ謹む、而も追封せず。○王敬弘、東に歸る。○楊玄卒す。弟難當、自玄の子保宗を廢して自立す。

載を立つ。○辛進、彈を以て五族を誅せらる。○河西王、王定連を入寇す。王、枹罕、河西保を世子興に至り、興、國を連れて定めし攻めむ。○王妹、渠を以て國に沮む。○叔父什寅、反して什寅の腹、謀を刳き、王の弟、妻を興す。

を取らんと欲し、侯尼城に至りて還る。○夏主、苛山に登りて泣く、光帝、日ばく、今日有らんや。

興り、世子國を以て定連を攻めむ。○禽に秦せらにし、許す。秦、國贖を以て興に三十萬斛、穀乃ち世子立を菩提つ。○王、禽る。

ぶるを言はざるを詰る。○浩料る、宋、蠕蠕自ら寬にすること日久しく、夏は則ち散牧す。之を掩はば、以て盡く滅す可からんと。○浩、寇謙之に語る、恐らくは諸將顧慮して、全く擧ぐる能はざらん。○帝、宋の、河南を取らんと欲するを聞きて曰はく、先づ蠕蠕を滅ぼさずんば、則ち是れ、坐して寇の至るを待ちて、腹背、漠南を受けん。○帝、漠南に至り、輜重を捨て、輕騎、柔然に襲ふ。柔然の民畜を燒き散し、大檀、走る。○夏主、統萬に寇し、西に走る。○侯尼城に至る。○帝、軍を分ちて柔然の境內に東西五千里・南北三千里を搜討す。降る者、三十餘萬落、馬百萬、雜畜數百萬。○帝、弱水に循ひて西行し、涿邪山に至る。伏兵有らんこと、諸將、帝に勸めて還ふ、降る者を言はしむれ。

上章敦牂

二、丁巳。五、丙戌。七、乙酉。九、甲申。十一、癸未の朔。○宋志に、三月、太白・歲、奎に合す。六

之を河に投ず。

七

帝、河南の地を復せんと欲し、到彥之等に命じて魏を伐たしむ。彥之等、淮より泗に入る。泗水滲し、日に行くこと纔に十里。泗より河に入り、西上す。魏の碻磝・滑臺・虎牢・

三

什寅の弟白養・去列を殺す。○吐谷渾慕璝入寇す。段暉ち等、擊

三

夏主、其弟謂以代遣はし、魏の鄜城を伐たむ。敗れ夏主、其弟還る。

三

二十一

太祖、疾病なり。太子翼に命じて兵政を勒し、聽かむ。宋夫人、其子

三

宋將に入寇せんとし、先づ田奇を遣はして來りて河南の地を求めしむ。帝曰はく、我、當に褻を戍に合すべしと。河冰に入れば、相避けて更に之を取るべしと。

紇升蓋を去ること百八十里、前行二日にして則ち之を盡さんと。○紇升蓋、憤邑して卒す。○帝、安原等をして高車を巳尼陂に襲はしむ。復た數十萬落を降す。○新民を漠南に徙す。馬・牛・羊、之が爲めに價賤し。○崔浩、銅鍭を以て天文を記す。○帝、之が爲めに立ちて疏食を嘗む。○帝、浩に命ず、規諫して隱すこと無かれ。終に久しく深く卿の言を思ふと。○帝、浩を指し、高車の帥に示して曰はく、曾の中の懷く所、兵甲に過ぐと。

月、熒惑、東井・輿鬼・軒轅に入る。○魏志に、三月より十月に至るまで、太白・歲・再び合す。

金墉、去る。皆、城を棄てて彥之等に守らし、兵を分て西諸軍に憂へ、皆喜ぶ。河上の關を渡り、列戍を徹し、獨り兵を斂めて曰はく、王仲德完く來れり。必ず將に夫、治阪を攻め、復た來らんとす。

○姚聳に敗られる。○魏、虎牢を拔く。尹沖降る。○到彥之、南に走らんと欲す。○彥之、王仲德と諫む。○還り、舟を歷城に至り、彭城を焚き、南に奔る。○蕭承之、濟南を偃せ、寇を開く。○魏の叔孫建、竺靈秀、湖陸に敗る。○魏の安頡、滑臺を攻む。○長沙王義欣、壽陽に鎮し、宜しきに隨ひて南安を保つ。○魏、夏を擊ちて破り、平涼を攻め、南安を奉じて、羌を以て、焦亮を奉じて、南安を攻む。○魏、楊難當を遣て、廣寧を攻む。○楊難當、攻し難を救ふ。○王仲德、焦亮を說き、誅せて降る。○夏の赫連謂、公陵、鄜城に寇す。始平公陵、擊ちて之を破る。○夏主、自ら將として隴を歸る。○到彥之、北伐するとき、資實盡なりしが、委棄、蕩盡す。顧琛、詭りて對ふ。十萬人の仗有り。○王曇首、兄弘に勸む、府兵の半を減じて、以て彭城王義康に授けよと。

孤社干戈洛平涼を守て、自ら將と、奔突し、急圍中の如ばち、徙さん、と。○劉絜、救勒を河西に帝曰はく、請ひて翼と欲す。上曰に、謂ひて、翼を立て受居を

の疾を將に奈何とせん。○南宋浩、宋に代り、天下に臨む。○自ら定まる。○宋の武、遽に交を約す。○鎮、先に南を以て、南に入る。○崔浩、夏に請ふ。○魏、宋に欲す。○翼、素より弱し。○乃ち、東宮に入る。○南司馬楚之を招誘せんと欲す。○公卿、兵を發し船を遣て、浩以爲へらく、如し秋涼に疾を發せば、是れ虛聲を受けだけ止む。○宋の姚聳夫、治阪を攻む。○宋の安頡、河を濟りて金墉・虎牢を拔く。○夏主、遷りて平涼を救ひ、鶉觚原に敗る。魏の兵、之を圍む。○夏主、兵潰えて上邽に奔る。○魏、進みて安定を取る。○赫連乙斗、長安を掠めて上邽に奔る。○叔孫建、宋の竺靈秀を湖陸に敗る。○夏の隴西、來降す。○安頡、宋の滑臺を攻む。○帝、崔浩の手を執り、河西の使者に示す。○庫結、秦王を迎へしむ。○平涼降る。○癸丑、膝行して

○夏の赫連謂、公陵、鄜城に寇す。始平公陵、擊ちて之を破る。○夏主、自ら將として隴を歸る。○夏主、邀へ擊つ。○魏、河北を中分せんことを約す。○崔浩、宋が河に據ざるを料り、帝に勸めて自ら固むるに過ぎざるを、帝、伐たしむ。統萬より平涼を襲ふ。○安頡、河を濟りて金墉・虎牢を拔く。○夏主、還りて平涼を救ひ、鶉觚原に敗る。魏の兵、之を圍む。○夏主、兵潰えて上邽に奔る。○魏、進みて安定を取る。○赫連乙斗、長安を掠めて上邽に奔る。○叔孫建、宋の竺靈秀を湖陸に敗る。○夏の隴西、來降す。○安頡、宋の滑臺を攻む。○帝、崔浩の手を執り、河西の使者に示す。○庫結、秦王を迎へしむ。○平涼降る。○癸丑、膝行して

經理し、遂に盛藩と爲る。

○隴西、降に奔る。○魏、降る。○秦の楊略、顯に降る。○平涼、降る。○魏に降る。○長安の將、關中に走る。魏に入る。

翼、戰ひ敗れて死す。太祖、子百餘人、弘、之を殺す。

○夏の赫連謂、公陵、鄜城に寇す。始平公陵、擊ちて之を破る。○夏主、自ら將として隴を歸る。○夏主、邀へ擊つ。○魏、河北を中分せんことを約す。○崔浩、宋が河に據ざるを料り、帝に勸めて自ら固むるに過ぎざるを、帝、伐たしむ。統萬より平涼を襲ふ。○安頡、河を濟りて金墉・虎牢を拔く。○夏主、還りて平涼を救ひ、鶉觚原に敗る。魏の兵、之を圍む。○夏主、兵潰えて上邽に奔る。○魏、進みて安定を取る。○赫連乙斗、長安を掠めて上邽に奔る。○叔孫建、宋の竺靈秀を湖陸に敗る。○夏の隴西、來降す。○安頡、宋の滑臺を攻む。○帝、崔浩の手を執り、河西の使者に示す。○庫結、秦王を迎へしむ。○平涼降る。○癸丑、膝行して

重光協洽	正、壬午。三、辛巳。五、庚辰。閏七、己酉。九、戊申。十一、丁未の朔。○八、一日、秋分。○宋志に、四月辛未、太白、月に在り。五月、天關・東井を犯す。六月、庚子、熒惑、東井に入る。丁丑、太白、上將を犯す。八月癸未、太白、右披門に入り、左執法を犯す。乙未、熒惑、積尸を犯す。十月丙辰、太白・塡、須女に合す。	
八	檀道濟、滑臺を救ひ、魏の乙旃眷を壽張に敗り、悉煩庫結を高梁に斬る。○道濟進みて濟上に至り、魏の叔孫建に拒がれ、連戰すること二十餘日。○魏人、滑臺を拔き、朱脩之を執ふ。○道濟、食盡きて引還る。夜、籌を唱へて沙を量る。魏、降者を以て妄と爲して之を斬る。○道濟、常服して輿に乘り、兵を引きて徐に出づ。魏、敢て逼らず。八月、軍を全くして返る。○蕭思話、青州を弃つ。○魏來りて昏を求む。帝、依違して之に答ふ。○殷景仁、劉湛を薦めて共に政事に參せしむ。○謝述、張邵の死を救はんとして手詔を焚く。○林邑、九德に寇す。	
玄黓涒灘	正、丙午。三、乙巳。五、甲辰。七、癸卯。九、壬寅。十二、辛未の朔。	
九	王弘卒す。○吐谷渾慕璝來りて捷を告げ、南國の將士の夏に沒せし者を歸す。○臨川王義慶、宗室の暮末及び宗族五百人を殺す	
四	夏主大に秦の軍を破り、遂に南安を圍む。王暮末、食盡きて出で降る。上邽に送る。○焦楷、廣寧に奔り、其父遺に勸めて兵を擧げて夏を拒がしむ。會〻楷遺卒す。河西の夏主、奔る。	
四	夏主、秦を伐ち、大に姚獻を破り、北平公韋伐を南安に擒にして王暮末を殺す。○其族を降る。○夏主、魏の逼る。秦隴の十餘萬口を擁し、治城より河西を擊ちて其地を奪ひ、之を遂へて擊つ。○魏、封延等を沒利慕璝を執へて歸る。吐谷渾慕璝、夏主を定めて以て	
義和元	王、子安周を遣はして魏に入り侍せしむ。○魏、王を封じて涼王と爲す。	
燕昭成帝弘 太興元	暮容后を立つ。	
四	宋の檀道濟、滑臺を救ひ、乙旃眷を壽張に敗り、悉煩庫結を高梁に斬る。○叔孫建等、道濟を上に拒ぐ。安頡等、滑臺を拔き、朱脩之を執ふ。○道濟、食盡きて引き去る。○宋の蕭思話、青州を弃てて走る。○宋人、卒に崔浩の料る所の如し。帝謂ふ、公卿、皆、及ばずと。○司馬楚之、宋を伐たんと請ふ。帝、兵の勞せるを以て、許さず。○宋、反間を以て王慧龍を誣ふ。帝、其の王慧龍を明かにす。然らざるを宋の刺客を得て而も之を赦す。	酒を執りて、豆代田に奉ぜしむ。○夏の關中悉く平ぐ。守將走る。○癸斤を以て宰士と爲し、酒食を負ひて以て從はしむ。○王斤、食縱なり。斬りて以て徇ふ。

九	暮末及び宗族五百人を殺す	
	其地を奪ひ、吐谷渾慕璝、南國の將士の歸す。	
二	禿髮保周、魏に奔る。○魏の李聆、來順	
二	暮容后・太子王仁を立つ。○魏主入寇す。	
延和元	寶太后を尊び、赫連后・太子晃を立つ。○吐谷渾慕璝、赫連定を平城に送る。之を殺す。○帝、柔然の遷者を獲、衣服を賜ひて遣り還す。柔然、感悅して入貢す。○吐谷渾慕璝、赫連定を送らんと請ふ。西秦王に封ぜらる。○帝、歌を作りて曰はく、智は道生の若し、廉は崔浩の如く、○李順を使として河西王を册拜して涼王と爲す。○詔して世胄・遺逸・盧玄・李靈・高允等を徵す。○崔浩、流品を整へ族姓を辨ぜんと欲す。盧玄、之を止む。○崔浩に命じて律令を更定せしむ。官爵を以て刑を除くことを得。孕婦は百日を過ぎて乃ち決す。○敕勒、鹿を驅り、帝を漠南に迎ふ。	

○宋志に、正月庚午、熒惑、興鬼に入る。四月、歲、羽林に入る。己丑、太白、積尸に入る。五月辛酉、熒惑、右拔門に入り、右執法を犯す。八月、癸未、太白、心の前星を犯し、乙酉、明堂星を犯す。

令美なるを以て、荆州と爲るを得。陰平に寇す。司馬飛龍、劉道濟、擊ちて之を斬る。○趙廣等反して成都を攻む。○燕王、朱脩之をして來りて救を求めしむ。○趙廣、道人程道養を劫して蜀王と爲す。○裴方明、賊を擊つ。○劉道濟病む。梁儁之、散じて復た合す。給使を遣りて外に出さんことを勸む。○謝弘微、晉陵公主の爲めに財を守ること九年、故の如し。○弘微曰はく、內人すら尚ほ能く言無し。豈に之を導きて爭はしむ可けんやと。

○石城等の十郡、流民を求む。公卿議して與へず。○祁識、代を改めて萬年と爲さんと請ふ。崔浩、議して不可とす。○帝、燕を伐ち、太子をして倘書の事を錄せしむ。○燕の石城等の十郡降る。○帝、和龍を圍む。○營丘等六郡の民を幽州に徙す。○朱脩之、亂を作さんことを謀り、果さず。○燕に出奔す。○燕の馮崇、遼西を以て來降す。○詔して、徵する所の名士、其進退に任せ、逼遣する無からしむ。○李順、涼に聘し、涼王が拜せざるを責む。○順謂ふ、涼王は猶ほ一世を終ふるに足らんも、復た年せざらん。牧犍繼き立たば必ず亡びんと。

○墓瓚、廓土・賞財及び流民を求む。公卿議して與へず。○祁識、代を改めて萬年と爲さんと請ふ。崔浩、議して不可とす。○帝、燕を伐ち、太子をして倘書の事を錄せしむ。○燕の石城等の十郡降る。○帝、和龍を圍む。○營丘等六郡の民を幽州に徙す。○朱脩之、亂を作さんことを謀り、果さず。○燕に出奔す。○燕の馮崇、遼西を以て來降す。○詔して、徵する所の名士、其進退に任せ、逼遣する無からしむ。○李順、涼に聘し、涼王が拜せざるを責む。○順謂ふ、涼王は猶ほ一世を終ふるに足らんも、復た年せざらん。牧犍繼き立たば必ず亡びんと。

○魏主、曇無讖を徵す。王、遣らすし之を殺す。魏、是に由りて怒る。

昭陽作噩

二、庚午。四、己巳。六、戊辰。八、丁卯。十、丙寅。十二、乙丑の朔。

十

魏來りて晉を求む。○劉道濟卒す。梁儁之・裴方明、其喪を祕す。儁之等、擊ちて之を郊に敗る。臨川王義慶、周籍をして成都を救はしむ。○趙廣等、廣漢及び郫に屯す。籍之・方明等、擊ちて之を破る。○帝、徒中より蕭思話を起して梁州の刺史と爲す。○林邑、交州を領せんことを求む。許さず。○裴方明、程道助を禽にし、嚴遐を斬る。趙慶等皆奔り散ず。○蜀法祟、成都に至る。程道養等逃れて鄠山に入る。○楊難當襲ひて漢中に據る。○謝靈運、弃市せらる。

涼哀王 牧犍 永和元

武宣王、寢疾に、國人、世子菩提を廢し、菩提の兄、牧犍を立つ。宣王卒す。牧犍、西河王の事を策りて即位す。魏人、李順を立てて王と爲す。劉妹夫を迎へ、且つ王の妹を以て妻とす。

遼西を以て叛き降る。魏に封羽を圍ましむ。

三

魏の拓跋健等入寇す。封羽、凡城を以て魏に降る。

二

帝、崔徽・張黎佐・樂安王範をして長安に鎭せしむ。關中遂に和す。○馮崇を封じて遼西王と爲す。○休居の金崖・羌の狄子、安定に反す。○陸俟討ちて之を獲。○專ら郎孤、以て高車を待ふ。寬恕にして高車慢なり。復た法を以て之を裁す。必ず叛を致すと。○晉宋に求む。○司馬天助來降す。帝、李頃が涼の事を策りて驗有る。○永昌王健等、燕を伐つ。○燕の封羽、凡城を降す。○魏人、燕を稱す。刁雍を以て黃鎭せしむ。

閼逢閹茂		二、甲子。四、癸巳。六、壬辰。八、辛卯。十、庚寅。十二、己丑の朔。○閏三。四、一日、小滿。十一、七日、冬至。○宋志に、七月十六日の四更、二唱丑の初、月始めて食し、四唱、營室に食し、十五度末に在り。十五度半に在り。丙辰、太白、三月丙辰、又、太白、閏三月戊寅、太白、閏五諸侯を犯す。
十一	楊難當引き去り、趙温等を留めて漢中を守らしむ。蕭思話、蕭成之等を遣はし、擊ちて之を破る。○承之、斧椎槊を以て楊和を破る。○思話、漢中の故地を復し、遷りて南鄭に治す。○楊難當、罪を謝す。詔して之を赦す。○河西王來りて喪を告ぐ。詔して爵位を加ふ。	
二	喪を宋に告ぐ。宋、王に爵位を加ふ。	晒を以て國師と爲し、親らこれを拜す。
四	王、使を遣はして魏に藩と稱し、罪を請ひ、女を以て和親を請ふ。魏主、太子を入朝せしむ。○太子、遣はす。劉洁、諫む。滋之、拔魏等の殺す。○使を遣はして師を宋に乞ふ。魏の拓跋丕等、入寇し、大に掠めて去る。○王人、入寇し、徙る。民を去る。	
三	楊難當、流民の、漢中に在る者を送る。○西海公主、柔然可汗に妻はし、其妹を納れて昭儀と爲す。○赫連昌、追ひ獲て、諸弟を并せて走げ亡る。○之を殺す。○燕王、藩と稱し、罪を請ひ、女を以て太子を入朝せしむ。○燕帝、薦て其子を徵して請ふ。○于門、入朝せ、節を屈せず。○常山、素、休屠の金當、川を擊ち、太子之を斬る。○燕王、永昌王、徙子を遣はして永を伐たし、徙等に命じ、民を徙して還る。○帝、山胡白龍を西河に擊ち、胡に窘められて以て建に賴り、遂に之を破り、白龍を斬る。	

旃蒙大淵獻	二、戊子。四、丁亥。七、丙辰。九、乙卯。十一、甲寅の朔。○十八日、冬至。○宋志に、十一月十五日、景極めて長し。又、正月己未朔、食す。又、七月壬戌、熒惑、積尸を犯し、上將を掩ふ。十二月、甲申、太白、羽林を犯す。○魏志に、九月、熒惑、上將を犯し、又、左執法を犯す。	
十二	燕王入貢す。封じて燕王と爲す。○劉湛、殷景仁の位遇、本、己に踰えず、而して一旦にして前に居る。以て、漸く猜隙を構ふ。乃ち深く司徒義康に結び、以て景仁を傾けて獨り朝政を專らにせんと欲す。○義康、景仁を毀る。帝、之を待つこと益〻隆なり。○殷・劉の門下の人、相往來せず。○燕王來りて師を乞ふ。○大水を以て酒を禁ず。○蕭摹之請ふ、銅像を鑄及び塔寺を造るは、皆、言を列して報を須たんと。	
三	神有り、書を投じて曰はく、三十年若しくは七年、慎德政を脩めんことを勸む。	
五	使を遣はして宋に入貢す。○湯燭、辭す。○穆壽、辭する。未だ錄せざるを以て、魏に入貢す。○西域の九國入貢す、帝以爲へらく、之に通ずるも益無しと、報使を遣はさざらんと欲す。○高麗來りて諱を請ふ。○樂平王丕等、燕を伐ち、大に掠めて還る。○安原、坐して誅せらる。	
太延元	燕の湯燭、入貢す。○東を加へて遼海を征するに梁脊の勳を以て、爲へらく、之に報使を遣はさざらんと欲す。○高麗來りて諱を請ふ、銅像を造るは、皆、言を列して報を須たんと。○使を遣はして師を宋に乞ふ。○王人、入寇し、大に掠めて去る。○魏の拓跋丕等、燕を伐ち、大に掠めて還る。○安原、坐して誅せらる。	

柔兆困敦	正、癸丑。三、壬子。五、辛亥。七、庚戌。九、己酉。十二、戊寅の朔。○閏十二。十一、十九日、○宋志に、十冬至。一月二十六日、景極めて長し。又、十二月十六日、月始めての初食し、一更三唱、食既に在り。鬼の四度に牛の六度半に在り。又、十一月辛亥、歲、十積尸を犯す。十二月戊子、熒惑、羽林に熒惑犯す。八月、左執法を及び上將を犯し、丁亥、歲、	劉湛、檀道濟の威名を忌み、司徒義康に說きて、帝の疾むに因りて、亟かに道濟を召して入朝せしめ、之を誅せしむ。道濟且に死せんとして曰はく、乃ち汝の萬里の長城を壞ると。○蕭汪之、程道養を破り、晉の帛氏奴を降す。○錢樂之、銅渾儀を鑄る。
四		
六	王、侍子を送らんことを求む。帝、許さず。○魏、許さず。	燕王、侍子を送らんことを求む。帝、許さず。○娥清・古弼等、燕を伐つ。○楊難當、自ら大秦王と稱し、后を立て、百官を置く。○娥清等、燕の白狼城を拔く。燕王、東のかた高麗に奔る。清等、追擊せず。帝怒り、黜けて門卒と爲す。○楊難當、上邽に據る。樂平王丕等に詔して之を擊たしむ。難當懼れて戍を徹し、豪帥を誅し及び豪斂めて地を獻ず。高允の諫めて止む。○高麗、燕王を送らず。帝、秦隴の兵を發して之を擊たんと欲す。劉潔・樂平王丕諫めて止む。○野馬苑を置く。○柔然、和親を絕ち、邊を犯す。○谷渾、慕璝卒す。弟慕利延立つ。

	積尸を守る。十一月辛亥、又、鬼を犯す。	
强圉赤奮若	正、丁丑。三、丙子。五、乙亥。七、甲戌。九、癸酉。十一、壬申の朔。○正、一日、雨水。十一月、十一日、冬至。○宋志に、十一月十六日、二更唱、月始めて食し、一更唱、食三更し、井の三度に在り。八、斗の十二度半に在り。又、四月丁未、太白、興鬼を犯す。五月丙午、太白、太微に在り。七月辛卯、歲、軒轅に入る。八月庚申、上將を熒惑、九月丙	
十四	帝將に女を魏に嫁せんとす。○趙廣等降る。程道養を斬る。	
五	魏主の妹を娶りて爲し、故の李氏を徙して泉に酒す。李氏、其の母尹氏、吾に奔る。○世子封壇を遣はして魏に入し侍せしむ。○雜書を求む。	
三	詔して、吏民、守令を興し、守令、告げて得る。猾民を畏る。而して縱自若たり。○董琬・高明、西域に使す。入貢する者十六國。○帝、妹を以て河西王に妻す。○帝、河西を伐たんと欲す。李順、它年を俟たんと請ふ。	

戊、左執法を犯す。

著雍攝提格

十五

王白駒等を遣はし、馮弘を迎へしむ。高麗、弘を殺す。白駒等、高麗の將高仇を殺す。○儒・玄・史・文の四學を立つ。○帝、寬恭勤儉にして、江左の政、元嘉を稱す。

十六

七

五

高麗の政刑、沙門の五十以下の者を罷む。○帝、柔然を伐ち、白阜に至る。柔然を見ず、北豐に遷る。漠北旱し、人馬多く死す。

四

屠維單閼

二、乙未。四、甲午。七、癸亥。九、壬戌。十、辛酉。十二、庚申の朔。○閏九。十月一日、小雪。十一、二日、冬至。○宋志に、十月二十九日、景極めて長し。又、二月、歲、逆行して左執法を犯す。五月、太白、畢を犯し、八月、軒轅を犯す。熒惑、太微の西上將を犯し、太白、九月、翼に在り、左執法を犯し、熒惑、右執法を犯す。十月、歲・熒惑、十一月、合して白微に入り、左執法を犯す。熒惑、房北の第一星を犯す。

衡陽王義季に謂ふ、若し農の時を奪はずんば、則ち境內、皆、王の食に飽かんと。○魏の葛那、上洛を取る。○太子劭、意の欲する所、上必ず之に從ふ。東宮、兵を置くこと羽林と等し。○南豐の太妃司馬氏卒す。

王氏の嫂李氏、公主を魏に嫁す。○魏の李烏、魏を遣はして王を徵す。○魏、自ら將となり、入寇す。姚興、國を定めて、自ら援を固めて、城に嬰る。出で迎へ、計を用ひず。遂に敗る。董來、王に求む。然ひ出て魏に降る。○王の子、萬年、兄の姑臧王に降る。面縛して、魏に降る。

葛那、宋の上洛を取る。○楊保宗來奔す。之を上邽に置く。○涼州を擊たんと欲す。奚斤等、皆以て不可と爲す。獨り崔浩、必ず克たんと爲す。李順、謂ふ、姑臧、水草無し。浩、言ふ、金を受く。○順帝、涼州を伐つ。穆壽を留めて太子晃の事輔を決せしむ。○帝、壽を以て兵を漠南に伏し、壽を以て柔然を擊たしむ。○卑源賀、先づ四部の鮮卑外援を招き、既に降服せんと請ふ。孤城、取り易からんと。○帝、沮渠來を擊破し、遂に姑臧を圍む。○帝、水草豐饒なるを見、姑臧降る。○帝、始めて李順を衡む。河西王牧犍の弟慶に、牧犍を無諱・宜得・敦煌に奔り、周・谷渾に奔る。安吐・伊敵が見ること、乃ち崔公に謂ふ。○帝、奇と、穆壽に敕して柔

○魏志に、六月甲午、月、西方に見はる。

釋して之を禮す。

然に備へしむ。柔然入寇して七介山に至る。壽、太子たしてを避けて南山を保たしめんと欲す。寶太后、可かず。○魯敬等、柔然を陰山の北に破り、柔然乞列歸を禽にす。○禿髮保周、張掖に叛く。

○涼州の官屬、皆、爵を賜ひ官に拜す。○胡叟、牧犍が將に亡びんとするを知る。○索敞・常爽、平城に教授し、魏の儒風始めて振ふ。

○高允謂ふ、爽は剛克、文翁は柔勝、成人たるは一なりと。○崔浩に命じて高允・張偉と同じく史を修めしむ。○允、十月五星聚まるとは漢史の謬なるを知る。○允、游雅に謂ふ、天下の妙理至つて多し。何ぞ必ずしも災異を問はんやと。○吐谷渾慕利延、西に遁れて漢を踰ゆ、帝、之を召還す。○楊難當、上邽に寇す。帝、之を責めて退く。

上章執徐

二、己未。四、戊午。六、丁巳。八、丙辰。十一、乙酉の朔。

○十三日、冬至。○宋志に、十日、景極めて長し。又、四月戊午朔、食す。又、九月十五日、食す。二更一唱、月始めて食し、三唱、十五分の十一を食し、昴の一、氐の十三度半に在り。日、氐の十三度半に在り。

宋太祖元嘉十七

司馬義康、專ら朝權を總べ、自ら謂ふ、至親は心に率ひて行ふ。君臣の禮無しと。○東府の甘、供御の者よりも大なること三寸。○劉湛、義康に黨附し、之を推崇す。上浸く平からず。

○湛、入る毎に、上、日の早晩を視る。○殷景仁、密に言ふ、相王の權重し。宜しく裁抑を加ふべしと。○劉斌等、義康に諂附す。上、疾篤し。湛謂ふ、天下難なり。詎ぞ幼主の御する所ならんやと。○孔胤秀等、晉の康帝の舊事を索め、遂に邀へて朋黨を結び、禁省を窺伺し、主・相の勢分る。秋より、東府に往かず。○上、去の憂に遭ひて曰はく、今年必ず敗れん。○湛、母の憂に遭ひて曰はく、常日、正に口舌に賴りて之を爭へりと。○太子劭、京陵を拜す。○袁后殂す。○劉湛及び親黨を誅し、義康を黜けて豫章に鎮せしむ。

○殷景仁、疾と稱して家居すること五年、而して密信往來すること、日に十數。○上、景仁を輿して殿に入らしめ、委ねるに誅討を以てす。○劉湛の論薦を受けず。○沈慶之、急裝して帝に見ゆ。○慶之、納布の衫襆を以て子孫に示す。○高祖、王履が利に進むを責めて曰はく、阿父在り、何をか憂へんと。○王球、王履に疎んぜらる。○江湛早く自ら義康に疎んぜらる。○慧琳、義康に謂ふ、恨むらくは數百卷の書を讀まざるをと。○義康曰はく、謝述は唯だ吾に退かんことを勸め、

魏世祖太平眞君元

沮渠無諱、元絜を執へ、酒泉を拔き、張掖に寇す。○禿髮保周、刪丹に屯す。永昌王健等、之を討つ。○保周を番禾に敗る。○寶太后殂す。○禿髮保周、自殺す。○沮渠無諱降る。○呂玄伯、王慧龍の墓を守る。○伊馥、尚書を辭し、中祕を求む。

劉班は唯だ吾に進まんことを勸む。班は存し、述は死せり。其の敗ること宜なるかなと。

○江夏王義恭、尙書を錄し、文書を奉行するのみ。

○股景仁卒す。

○何尙之謂ふ、范曄の志趣、常に異なり。請ふ之を出さんと。

重光大荒落

正、甲申。三、癸未。五、壬午。十、辛巳。九、庚辰。十一、己卯の朔。

○二十五日、冬至。

○宋志に、十一月、景極めて長し。

○魏志に、六月壬子朔、月、西方に見はる。

十八

扶令育、義康を召還せんと請ひ、坐して死を賜ふ。

○楊難當入寇し、蜀土に據らんことを謀る。劉眞・道錫拒ぎて之を却く。裴方明等に詔して難當を討たしむ。

二

沮渠無諱を以て涼州の牧・酒泉王と爲す。

○新興王俊、怨望するに坐して死す。

○沮渠無諱、沮渠唐兒を敦煌に擊ち、之を殺す。

○癸眷、酒泉を攻め、沮渠天周を獲、之を殺す。

○無諱、沮渠安周を遣はして鄯善を攻めしむ。克たず。

○寇謙之、帝に請ひて符書を受けしむ。

玄黓敦牂

正、戊寅。四、丁未。閏五、丙午。七、乙巳。九、甲辰。十一、癸卯の朔。六、大暑。十一、一日、六日、冬至。

○宋志に、十一月三日、景極めて長し。又、七月、甲戌晦、食す。

十九

劉眞道・裴方明、難當を擊ちて之を破り、遂に仇池に克つ。難當、魏に奔る。魏の古彌・皮豹子等、入寇す。

○沮渠無諱、敦煌に據る。

○李寶入りて敦煌に據る。

○唐契、闕爽を高昌に攻む。柔然、契を追擊し、之を殺す。

○楊難當來奔す。古彌・皮豹子等を遣はして宋を伐たしむ。

○李寶來降す。李順に死を賜ふ。

三

帝始めて親ら道壇に詣りて籙を受く。

○太子晃、靜輪宮を築くを諫む。

○沮渠無諱、敦煌を棄て、西のかた鄯善を滅ぼして之に據る。

○李寶、闕爽を高昌に攻む。柔然、契を追擊し、之を殺す。

○唐契、高昌に攻む。

○楊難當來奔す。古彌・皮豹子等を遣はして宋を伐たしむ。

○李寶來降す。李順に死を賜ふ。

昭陽協洽

正、壬寅。三、辛丑。六、庚午。八、己巳。十、戊辰。十二、丁卯の朔。

○十一、十六日、冬至。

二十

魏の古彌等、仇池に克つ。胡崇之、戰沒す。

○楊文德、來降す。

○姜道盛、文德を助け、魏の濁水を攻め、敗れ死す。

四

古彌等、仇池に克ち、宋の將胡崇之を禽にす。

○楊保宗、叛を謀る。河間公齊、執へて之を殺す。

○楊文德、白崖に據りて反す。

○古彌、文德を擊ち、之を走らす。

○古彌、皮豹子に說きて、留まりて宋の兵至るを待ちて之を擊たしむ。

○帝、柔然を襲はんとして石水に至る。太子晃、急に柔然を擊たんことを請ひて曰はく、柔然を襲はんこと、是れ其の驚擾するなりと。

○司馬楚之、軍中、驢耳を失ひ、賊將に至らんとするを知り、冰柳城を作りて以て之を却く。

○宋の姜道盛、濁水に寇し、敗れ死す。

○詔して、太子晃をして百揆を總べしめ、功臣、皆、爵を以て第に歸らしむ。

閼逢涒灘

二、丙寅。四、乙丑。六、甲子。八、癸亥。十一、壬辰の朔。

二十一

南譙王義宣、荆州と爲る。帝、中詔を以て之を戒敕す。

○何承天、元嘉曆を撰す。

五

太子始めて政を聽く。穆壽・崔浩・張黎・古彌を以て共に之を輔けしむ。

○帝が奏事を聽かざるを以て劉樹を毆つ。既にして罪を請ふ。帝曰はく、社を築くの役は、寒暑を冒して之を築き、端晃して之に事へ、神、之に禍を降すと。

○太子、民に稼穡を課し、人の牛を借りて之が爲に耕す。

○勤惰を知る。

○私に沙門・巫覡を養ふを禁じ、又、私に學校を置くを禁ず。

○中山王辰等の八將、柔然を擊ちて期に後る。都南に斬らる。

○劉絜、詔を矯めて期を更め軍を驚かし、帝に坐して、

旃蒙作噩

宋初めて元嘉曆を用ふ。○正、辛卯。三、庚寅。五、己丑。六、戊子。八、丁亥。十、丙戌。十二、乙酉の朔。閏五、一日、六、

二十二

○錢樂之、京房の律法を演べ、何承天、之を改む。○帝、關河を經略せんと欲し、武陵王駿を以て襄陽に鎮せしむ。○沈慶之、討ちて緣沔の諸蠻を破る。○元景、兵を募りて叛蠻を討ち、大に之を破る。○柳諸子、苦有るを知らしむ。○帝、飢を以て、范曄・孔熙先等、仕へて志を得ざるを以て、曄に據りて、帝を弑して彭城王義康を立てんことを謀る。○徐湛之、之を告ぐ。○帝、熙先の才を愛し、何尚之を責む。誅に伏す。○謝綜、謂ふ、曄殊に夏侯の色に及ばずと。○謝約、兄綜が熙先と遊ぶを諫む。

に輕還を勸め、樂平王丕を立てんと謀るに坐して、族誅せらる。○高允謂ふ、董道秀、樂平王に對へて、宜しく高くして民無しと云ふべしと。○吐谷渾慕利延、其兄の子緯世を殺す。緯世の弟叱力延、來奔す。○沮渠無諱卒し、弟安周立つ。○崔浩奏して、非禮復重の祭及び胡俗の小神を罷む。○古弼、弱馬を以て獵に供し、肥馬を軍に供す。○帝、民の車を發して麋鹿を載せんとす。弼、秋收を妨ぐるを以て、與へず。○晉王伏羅を遣はして吐谷渾を伐たしむ。○帝將に柔然を襲はんとす。吳提遠く遁る。乃ち止む。○吳提卒し、子吐賀眞立つ。○伏羅、吐谷渾を襲ふ。慕利延、白蘭に奔る。○降る者萬三千落。○李寶、來朝す。之を留む。

六

初めて中書に令して經義を以て疑獄を決せしむ。○高涼王那等を遣はし、吐谷渾慕利延を白蘭に攻めしむ。○渾・鄯善、西域の使者を閉絕す。萬度歸を遣はして之を擊たしむ。○吐谷渾什歸走る。○封敕文、枹罕に克つ。○萬度歸、鄯善に克ち、其王眞達を虜にす。○詔して諸州の兵三分の一を發し、戒嚴して以て命を俟たしめ、雜民五千家を北邊に徙し、○高涼王那、吐谷渾慕利延を擊ち、其兄の子

丁亥。十、丙戌。十二、乙酉の朔。閏正、二、一日、春分。○宋志に、二月、太白・熒惑・歲、東井に合す。四月、六白、軒轅に入る。○魏志に、六月戊子朔、食す。

柔兆閹茂

宋。三、甲寅。五、癸丑。七、壬子。九、辛亥。十一、庚戌の朔。○魏、同じ。○宋志に、六月癸未朔、食す。又、正月、太白・熒惑、合す。

○綜の母、子弟自ら逆亂を蹈むを以て、出でて視す。○義康を成安に廢徙す。○義康、淮南の厲王の事を讀み、自ら謂ふ、宜しく罪を得べしと。○南郊に始めて登歌を設く。○兗州、魏の移に僑置の州名及び具區に佃するを答ふ。

二十三

魏の薛安都、來奔す。○蓋吳來りて援を求む。帝、雍梁に命じ、兵を境上に屯し、遙に摩勢を爲さしむ。○檀和之、林邑を擊つ。○宗慤、長風に乘じて萬里の浪を破らんことを願ふ。○顏白鹿、私に魏の境に入り、詐りて杜驥と稱し、降を請ふ。魏の拓跋仁・拓跋那、青・兗・冀の三州に寇す。○何承天、邊を安んずる四策を陳す。○宗慤、師子の像を爲り、林邑の象陳を破る。○杜坦謂ふ、金日磾、馬を養ひて暇あらず、何ぞ見知を辨ぜんやと。

被囊・什歸等を禽にす。慕利延、西のかた于闐に入り、其王を殺し、其地に據る。○蓋吳、杏城に反す、衆十餘萬有り。拓跋紇、河東に敗死す。蜀の薛永宗、之に應す。○裴駿、鄉豪を帥ゐて、薛永宗を破る。

七

帝自ら薛永宗を擊ち、之を滅ぼす。○崔浩、帝に渭北より蓋吳を擊たんことを勸めて曰はく、蛇を擊つには、先づ首を斷つと。○帝、浩の言を用ひて、悉く州郡の沙門を誅し、經像を焚毀す。太子晃、詔書を宣するを緩くす。故に沙門、匿するを得。○永昌王仁・高涼王那、宋の青・兗・冀の三州を擊つ。○邊固・梁會、上邽に據りて反す。封敕文、討ちて之を平ぐ。○永昌王仁・高涼王那、蓋吳を討つ。○民を發して隴上の塞圍を築かしむ。○隨俟、蓋吳の二叔を獲、之を縱ちて、吳を斬らしむ。○劉超反す。俟、其女を誘納し、親ら其營に入り、之を襲殺す。○吐谷渾、舊土に還る。

強圉大淵獻

宋。正、己酉。三、戊申。六、丁丑。八、丙子。十、乙亥。十二、甲戌の朔。○魏。正、己酉。三、戊申。六、丁丑。八、丙子。十、乙亥。十一、甲戌の朔、閏十。十一、一日、冬至。

二十四

帝、大錢一を以て兩に當てんと欲す。何尙之曰はく、泉布は貨を估ふを以て本と爲す。豈に多く鑄る假らんや。況んや虛價を崇ばんやと。○衡陽王義季、酒を縱にして死を取る。○豫章の胡誕世反し、前の彭城王義康を奉ぜんことを謀る。檀和之、擊ちて之を斬る。

八

沮渠牧犍を誅す。

著雍困敦

宋。二、癸酉。三、壬申、五、辛未。七、庚午。十、己亥。十二、戊戌の朔、閏二、三、一日、穀雨。○魏。正、癸酉。三、壬申。五、辛未。七、庚午。十、己亥。十一、戊戌の朔。○宋志に、正月、辰・熒惑、羽林に入る。

二十五

氐王楊文德、魏に破られ、來奔す。○庾炳之、官を免ぜらる。○大錢の、兩に當るを罷む。

九

皮豹子、氐王楊文德を擊ちて之を破る。文德、宋に破る。楊公主に死を賜ふ。○雗拔を以て部善王と爲す。○般悅國、共に柔然を擊たんと請ふ。帝之を許す。○萬度歸、焉耆を破る。○帝、癸斤の佐命なるを以て、其爵を復し、而して其子を黜く。○萬度歸、龜茲を擊つ。○帝、柔然を擊ちて受降城に至る。柔然を見すして還る。

屠維赤奮若

宋。二、丁酉。四、帝、丹徒に如く。

十

帝、柔然を伐つ。吐賀眞遁れ去る。

丙申。六、乙未。八、甲午。十、癸巳。十二、壬辰の朔。○魏、同じ。○魏志に、四月丙申朔、食す。

上章攝提格

宋。三、辛酉。五、庚申。七、己未。九、戊午。閏十、丁巳。十二、丙辰の朔。十一、一日、冬至。○魏。二、辛酉。五、庚申。七、己未。八、戊午。十、丁巳。十二、丙辰の朔。閏七。八、二日、秋分。九月、○宋志に、歲、合す。十月、太白・熒惑、太微に入る。○魏志に、六月庚寅朔、食す。十月甲辰、熒惑、太微に入る。十二月辛未、癸卯、再び太微を犯す。

二十七

慶之大に山蠻を破り、悉く建康に還して營戶と爲す。○魏主、淮泗に寇し、懸瓠を圍み、積尸に登りて以て城を陵ぐ。陳慧、拒ぎて之を却く。○劉泰之、汝東に敗死す。○魏主、帝に書を遺りて侮慢す。劉康祖・沈慶之・蕭思話、魏を伐つを諫む。○慶之謂ふ、國を伐ちて而も白面の書生と之を謀る。何に由りて濟らんやと。○魏主復た帝に書を與へ、遺るに馬及び藥を以てす。○蕭斌・王玄謨等に詔して魏を伐たしめ、碻磝・○樂安を拔き、滑臺を圍む。○崩季明、盧氏に入る。○胡盛之、長社を拔き、劉康祖、虎牢に逼る。○王玄謨、貪復を以て人心を失ふ。○魏主、滑臺を救ふ。玄謨敗れ走る。○垣護之、石濟に屯す。斧を以て鐵鎖を斷ち、備を完くして返る。○沈慶之、蕭斌が玄謨を斬るを諫む。○又碻磝を守るを諫む。○廬法起等、盧氏及び弘農を拔く。○魏主、鄒山に寇し、崔邪利を禽にす。○薛安都、鎧冑を去り、單騎、魏と戰ふ。○安都、曾方平と約す、進まざる者は更る相斬らんと。

十一

帝、宋を伐ち、懸瓠を圍み、克たず。宋の兵を汝東に敗り、劉泰之を斬る。○崔浩、才を恃みて政を專らにす、士數十人を薦め、家より起りて郡と爲る。太子、違ふ能はず。高允、其の免れざらんことを知る。○閔湛・郗標、浩が撰する所の國記を石に刻せんと請ふ。允曰はく、湛・標の營む所、分の間、崔門の萬世の禍と爲らんと。○北人、浩の實錄を忿り、浩を帝に譖し、其五族及び僚屬・僮吏を誅せしむ。○高允、翟黑子に實を以て對ふるを勸む。○太子、允を導き、過を浩に歸せしむ。允自ら言ふ、著述すること浩よりも多しと。帝特に之を赦す。○帝、允を召して詔を爲らしめ、祕書官吏百二十餘人を族す。允言ふ、浩の罪は死に及ばず。帝曰はく、斯の人無くんば、當に更に數千口の死有るべしと。○允謂ふ、浩、私欲を以て其廉絜を沒し、愛憎、其公直を蔽ふと。○允曰はく、我、東宮の指導を奉ぜざるは、翟黑子に負かんことを恐るればなりと。○帝謂ふ、崔司徒は惜む可く、李宣城は哀む可しと。○沮渠安周、車伊洛を破り、焉耆に奔る。○宋の蕭斌・王玄謨等入寇し、碻磝・

○帝曰はく、王玄謨が陳ぶる所を觀るに、狼居須に封ずるの意有りと。○帝、魏を伐たんと欲し、先づ襄陽の資力を廣む。○沈慶之、雍州の山蠻を討つ。

○帝、柔然を伐つ。○高涼王那、大に吐賀眞を破り、奔るを追ふこと九日九夜。柔然、是に由りて衰弱し、塞を犯さず。

○安都等、大に魏の張是連提を破り、之を斬る。○柳元景、陜城を拔き、潼關に據る。○帝、元景等を召して還らしむ。關中の夷夏響應す。○劉康祖、魏の永昌王仁と、尉武に戰ひ、力闘して死す。王羅漢、魏に禽にせらる。仁、遂に壽陽を圍む。○太尉義恭、彭城を弃てて歷城及び鬱洲に奔らんと欲す。張暢以爲へらく、必ず至る能はざらんと。乃ち止む。○魏主、彭城に至る。暢、李孝伯と、語を交ふ。○楊文德、陰平・平武を拔く。○魏の燕王譚、胡崇之等の三營を破る。賊質走りて盱眙に入る。○沈璞預め守備を爲し、門を開きて賊質を納る。○魏主、瓜步に至り、江に臨み、濟らんと欲す。○帝謂ふ、江湛の北伐の計は予の過なりと。又、檀道濟を思ふ。○魏主、昏を求め好を結ばんと欲す。○太子劭、江徐を斬りて以て天下に謝せんと請ふ。是に由りて平かならず。

重光單閼

宋。二、乙卯。五、甲申。七、癸未。九、壬午。十一、辛巳の朔。○魏、同じ。○宋志に、五月、太白、哭星を犯す。

二十八

○魏の師退く。○故の彭城王義康を殺す。○王玄謨、碻磝を棄てて歸る。○魏主、盱眙を圍む。○魏主、力攻す。○賊質、溲便を封じて之に與ふ。○沈璞、魏の師を追はずして去る。○魏、南兗・徐・兗・豫・青・冀の六州を破る。鷺林木に集ふ。○上、師を出す毎に、授くるに成律を以てす。故に多く敗れ、邑里遂に蕭條たり。

樂安を拔き、滑臺を圍む。○胡盛之、長社を拔き、虎牢に逼る。○帝、緣河の穀帛を救はず、曰はく、展べて十月に至らば、吾、憂無からんと。○帝自ら將として滑臺を救ふ。王玄謨敗走す。○帝、宋の龐法起等、盧氏及び弘農を拔く。○帝、宋を伐ちて鄒山に至り、崔邪利を禽にす。○宋の柳元景等、陜城を拔き、潼關に據る。尋ぎて自ら退く。○永昌王仁、宋の兵を尉武に敗り、劉康祖を斬り、胡盛之を禽にし、遂に壽陽を圍む。○帝、彭城に至り、甘蔗・甘橘を求め、博具を借る。○宋の楊文德、陰平・平武を拔く。○燕王譚、宋の胡崇之等を盱眙に破る。○帝、瓜步に至りて江に臨む。○帝、宋の黃甘を得て卽ち之を噉ひ、手を舉げて天を指す。

正平元

○帝引き還る。○宋の碻磝を取る。○宋の盱眙を圍み、士馬の死、半に過ぐ。國人、之を尤む。○師還る。○魯爽、宋に奔る。○游雅等、律令を更む。○高允、太子晃が田宅を營み利を收め及び左右を寵信するを諫む。○宗愛、晃を譖す。晃、憂を以て卒す。

○王孝孫、江夏王義恭が麥を芟るを諫む。魏の魯爽來奔す。○司馬順則、梁鄒に據りて反す。○何尚之、書の事を以て徐湛之に讓る。○蕭斌、司馬順則を討ち、之を斬る。○沈慶之曰はく、自ら歸して而も死せざれば、將に逃散に至らんとすと。○王僧綽、沈深にして局度有り、帝、機密に與りあずかせしむ。前後委任する所、凡そ十二人。

玄黓執徐

正、庚辰。三、己卯。五、戊寅。七、丁丑。十、丙午。十二、乙巳の朔。○魏、初めて玄始曆を用ふ。朔同じ。

二十九

帝、魏の世祖。殂すと聞き、更に蕭思話等を遣はして北伐せしむ。○劉興祖、河南の荒殘するを以て、直に中山に抵り敵に因りて資を取らんと請ふ。帝、志、河南に在り、從はず。○帝、徐爰をして軍に隨ひ、中旨を銜みて方略を授けしむ。○太子劭・始興王濬、過失多し。上、之を聞かんことを恐れ、巫蠱を爲して上を祝詛せしむ。事覺はれ、道育亡命す。帝、劭・濬を廢するに忍びず。○蕭思話等、之を攻め、拔けず。退きて歷城に怒るも、碻磝を社。○蕭道成、武興・阜蘭の二戍を拔く。○帝、諸將を責めて曰はく、虜脫し死を送らば、自ら之に當らんのみと。沈慶之、之を討つ。○西陽蠻反す。○江夏王義恭、朝に還る。

○帝尋ぎて其の罪無きを知り、之を悔ゆ。○帝、皇孫濬を愛し、常に左右に置く。

魏高宗濬興安元

○帝尋ぎて其の罪無きを知り、之を悔ゆ。○帝、皇孫濬を愛し、常に左右に置く。世祖、太子を追悼して、已まず。宗愛、誅せられんことを懼れ、遂に世祖を弑し、蘭延等及び秦王翰を殺し、南安王余を立つ。○赫連太后を尊ぶ。○愛、太師と爲り、中外を都督す。○宋の蕭思話等、碻磝に寇し、克たず。○魯爽、虎牢に逼り、柳元景、洪關に據り、蕭道成、武興・阜蘭を拔く。○吐谷渾慕利延卒し、兄の子拾寅立つ。○南安王余、宗愛の權を奪はんことを謀る。愛復た余を弑し、更に、改め立てんことを謀る。○劉尼・源賀・陸麗・長孫渴侯、共に太子晃の子濬を立て、愛を執へて之を誅す。○拓跋壽樂・長孫渴侯、事に坐して誅せらる。○帝の母閭氏卒す。○古弼・張黎、事に坐して誅せらる。○景穆帝を追尊し、保太后常氏を立つ。○屠各王景文反す。南陽王惠壽等、討ちて之を平ぐ。○佛法を復し、帝親ら沙門と爲り、髮を下す。○陸麗、爵賞を固辭す。

昭陽大荒落

二、甲辰。四、癸卯。六、壬寅。七、辛丑。九、庚子。十一、己亥の朔。閏六、一日、處暑。○魏・朔同じ。二日、處暑。○宋志に、十月辛丑朔、食既す。星暈く見はる。

三十

蕭道成等。魏の武都を攻め、克たず。○武陵王駿、西陽蠻を討ち、五洲に屯す。○太子劭・始興王濬、殿道育を嶽し、事覺はる。上、劭を廢し、濬に死を賜ひ・建平王宏を立てて太子と爲さんと欲す。江湛、南平王鑠を立てんと欲す。議久しく決せず。○徐湛之、隨王誕を立てんと欲す。王僧綽曰はく、建立は仰ぎて聖懷に由る。唯だ宜しく速かに斷じて義を以て恩を割くべし。事を千て泄れて難をして慮表に生ぜしむる勿れ。笑を能くし載に取らんと。又曰はく、人言ふ、陛下唯だ江湛に弟を裁するも、兒を裁する能はずと。又、江湛に謂ひて曰はく、弟も亦君が直ならざるを恨むと。上、謀を以て劭に告ぐ。劭遂に淑妃に逆を謀る。○帝、宗室を防ぎ、東宮の兵を加へて萬人に至る。○袁淑、劭に謂ふ、風を患ふと。又曰はく、既に克つの後、天地の容るる所と爲らじと。劭、之を殺す。○劭、朱衣を以て朝服に加へ、宮に入る。傳士超之、帝を合殿に弑し、徐湛之を殺す。江湛・卜天與、相戰ひて死す。○劭、濬を召さんとす。朱法瑜・王慶諫めて之を止む。○濬、潘淑妃の死せしを聞きて曰はく、之を願ふこと久しと。○劭、位に卽き、江徐弑逆すと稱す。○劭、武陵王駿、沈慶之と、兵を五洲に起す。○南譙王義宣・臧質・魯爽・蕭思話・張永、皆、○源賀、南北未だ賓せざるを以て、重賞を辭し、戎馬を取る。○高允、身を終ふるまで、功を言はず。

二

宋の蕭道成等、武都に寇す。荀萇于、拒ぎて之を却く。○杜元寶・建寧王崇・濟南王麗を殺す。○保太后を尊びて皇太后と爲す。○赫連太后を殂す。○永昌王仁・閻若文、事に坐して誅せらる。

兵を起して駿に應す。○劭、諸王・大臣を城內に聚む。○劭、殷后を立つ。○顏延之謂ふ、竣尙ほ老臣を顧みずと。○江夏王義恭・何尙之、劭が三鎭の士民の家口を誅するを諫む。○蕭斌、劭に勸めて自ら上りて決戰せしむ。義恭、南軍の舟艦の精ならざるを以て、劭に說き、逸を以て勞を待たしむ。○劭謂ふ、我、石頭を守らば、誰か當に救はるべきと。○劭、太子偉之を立つ。○龐秀之、南に奔る。人情大に震ふ。○王僧達、駿を鵲頭に見る。○柳元景、道を倍して先づ江寧に至る。○駿、元景を得、顏竣代りて軍政を決す。舟人、知らず。○劭、水陸より、元景を新亭に攻む。○元景曰はく、鼓繁ければ氣衰へ易く、叫ぶこと數〻すれば力竭き易しと。○劭の兵、克つに垂んとして、魯秀、退鼓を擊つ。○元景大に劭の兵を新亭に破る。○駿、南に奔る。○恭、位に卽く。○隨王誕、燕欽を奔牛に敗る。蕭斌等皆降る。○諸軍、臺城に克ち、劭・濬を禽にして之を誅す。○路太后を尊ぶ。○王后を立つ。○臧質、柳元景を召して州に還らしむ。元景、從はず。○周朗謂ふ、重車・弱卒は、肥馬・悍胡と相逐ふ能はずと。○又謂ふ、漢氏の權制は、禮を敗りて身に安し。遽にして之を奉ずと。○又謂ふ、檳、寶を帶び、筍、衣を著ると。

○又謂ふ、侈麗の源は實に宮闈を先にすと。
○又言ふ、官は事に稱ひて立ち、人は官に稱ひて置くと。
○又言ふ、王侯の識未だ務に堪へざるは、應に强仕すべからずと。
○又言ふ、俗好みて毀を以て人を沈む。而して毀を致す所以を知らずと。
○又言ふ、世として令を下さず事を言はざる無し。而も實に非ずと。郡縣、三周を以て滿と爲す。宋の政、是に於てか衰ふ。

○南平王鑠を毒殺す。
○蕭簡、廣州に據りて反す。鄧琬、一道より攻め、克たず。沈法系、四面より攻め、之に克つ。
○東宮の官を省く。

閼逢敦牂

宋。二、戊辰。四、丁卯。六、丙寅。甲子。八、乙丑。十、癸亥の朔。十二、

○魏、同じ。
○宋志に、七月丙戌朔、食既し、列宿粲然たり。又、九月壬寅、熒惑、左執法を犯し、十月乙丑、進賢を犯す。

宋世祖 駿 孝建元

四銖錢を鑄る。
○太子子業を立つ。
○丞相義宣、賊質・魯爽と謀り、今秋を以て兵を舉げ、狼狽して之に應ず。爽、狂醉して、卽日、反す。義宣・質、爽、義宣を板補して天子と爲す。
○魯秀、嘗を拊して曰はく、兄、癡人と賊を作す。
○今年、敗れんと。
○帝、義宣を迎へんと欲す。竟陵王誕、可かずと。
○王玄謨、秀が來らざるを聞き、喜びて曰はく、賊質は易きのみと。
○明胤、徐遺寶を破り、兗州に克つ。
○薛安都、魯爽を小峴に破り、之を斬り、遂に壽陽を拔く。
○太傅義恭、義宣に書を與へて諭す。義宣、是に由りて疑兵を仲堪・桓玄に假す。
○質、直に石頭に趣かんと欲す。劉諶之、義宣に

興光元

勸めて之を止めしむ。
○質、攻めて西壘を拔く。
○朱脩之、急に魯秀を追はず。
○王玄謨、退きて姑孰に就かんと欲す。柳元景、許さず。
○垣護之、元景が前みて玄謨に就くを諫め、兵を分ちて之を援けんことを勸む。
○質、自ら東城を攻めんと欲す。顏樂之、義宣に說き、劉諶之を遣りて與に俱にせしむ。
○薛安都・宗越、質の陣を陷る。垣護之、義宣の紅營を燒く。
○質・義宣、皆、敗走す。
○義宣、蓬賞を嗾ひ、武昌に死す。
○義宣、竺超民に囚へらる。
○魯秀、江陵に死す。
○東楊・郢州を置く。
○錄尚書を省く。
○朱脩之、義宣を殺す。

旃蒙協洽

宋。二、壬戌。五、辛卯。七、庚寅。九、己丑。十一、戊子の朔。
○魏。二、壬戌。四、辛酉。七、庚寅。九、己丑。十一、戊子の朔。
○宋志に、五月乙未、七月甲辰、熒惑、再び南斗に入る。

二

沈慶之曰はく、何公が往きて而して復た返るに效はずと。
○武昌王渾、元を改め、百官を置き、戲笑を爲す。坐して徙されて死す。
○郊廟初めて備樂を設く。
○王公の車服器樂を節損す。
○王玄謨、楊頭を以て西秦州と爲し漢川を藩扞せんと請ふ。

太安元

柔兆涒灘

宋。正、丁亥。三、丙戌。四、乙酉。六、甲申。九、癸丑。十一、壬子。閏三、朔。小滿。正、丁亥。四、乙酉。六、丙戌。四、閏二、癸酉。九、甲申。十一、壬子。朔。穀雨。三、一日、戊戌。四月、戊志に、白、興鬼を犯し、八月、甲午、心に入る。

三

宗慤、典籤と共に州に臨む能はず。○大傅義恭、楊州を以て西陽王子尚に讓る。○沈懷文、西州を廢する能はず。○青・冀を移し、井せて城に鎮す。○朝議、費小錢を鑄て以て公私を豐にせんとす。○竣謂ふ、費を簡にして華を去るに如かずと。○顏延之、竣の子の資供を受けず、布衣・茅室、蕭然として故の如し。

強圉作噩

宋。正、辛亥。三、庚戌。五、己酉。七、戊申。九、丁未。十一、丙午。朔。○魏、同じ。○宋に、三月癸亥。○南に合す。歲、六月丙申、月、熒惑を東壁に掩ふ。○魏志に、四月、熒惑、太白を犯し、

大明元

魏、兗州に寇す。因りて請ひて任城を擊つ。復た功無し。○沈慶之、坦を抱きて市に哭す。○顏竣、舊を恃みて直を好む。上、之を許す。竣始めて懼る。○民間訛言す、王玄謨反すと。○玄謨、內外を解く。曇然たるを忌み、海行多く、竟陵王誕が民譽を得せしめ、腹心劉延孫に命じて京口に鎮して之を防がしむ。

二

冯后を立つ。○太子弘を立て、李貴人に死を賜ふ。○丁零、井陘に匿れて盜を爲す。陸眞等、討ちて之を滅ぼす。○源賀、死罪を宥して以て邊に戍せしめんと請ふ。○人、「賀、反を謀る」と告ぐ。帝、然らざるを知る。○許宗之、「馬超、上を謗訕すし」と誣ふ。帝曰はく、朕、何ぞ超に惡しくして、此言有らんやと。

三

宋の兗を侵す。

十一月、鉤鈐を犯す。

著雍閹茂

宋。二、乙亥。四、甲戌。六、癸酉。八、壬申。十、辛未。閏十二、庚午の朔。閏十二、乙亥。○魏。四、甲戌。六、癸酉。八、壬申。十、辛未。閏十一、庚午の朔。十二、一日、大寒。○宋志に、三月辛未、熒惑、東井に入り、四月己亥、北軒轅の第二星を犯し、十一月庚戌、房及び鉤鈐を犯し、壬子、又、鉤鈐を犯す。○魏志に、六月癸酉朔、月、西方に生ず。又、三月、房を犯す。八月、白、熒惑、畢を守る。

二

吏部尚書二人を置く。蔡興宗謂ふ、主意、輕重せんと欲すと雖も、人心、變じ難しと。○高閭、反を謀りて誅せらる。○魏王僧達殺す。封敗文、清口に寇す。殷孝祖等、拒ぎて之を破る。○魏の皮豹子、復た青州に寇す。○帝、大臣に任ぜずして、戴法興等と政事を議す。皆、當時に重く、家、千金を累ぬ。○顧覬之、獨り意を法興等に降さず、定命論を著して以て之を釋く。

大淵獻

宋。正、己巳。二、庚午。閏十二、己巳の朔。○魏。二、庚午。六、己巳。十、己亥。○宋志に、三月己巳、東井に熒惑、南に合す。歲、六月己巳、月、熒惑を東壁に掩ふ。○魏志に、四月、熒惑、太白を犯し、

大明二

魏、冠を改む。○帝、謂ふ、「天下、允の諫を知る莫し。其の過を聞けども、允、而陳すること甚だ切なり。朕、忠と謂はざる可けんや」と。○允、郎と爲ること二十七年にして、遷らず。○帝、擢でて中書令と爲す。游雅謂ふ、允、崔公を辨じ、宗愛に揖す。始めて其の矯矯たるを見ると。○帝、北巡して雪に遇ひ、還らんと欲す。尉眷諫む。○封敕文、宋の清口を攻め、克たず。皮豹子を遣はして之を助けしむ。○帝、柔然を擊ち、大漠を度る。虛羅遠く遁る。

三

酒禁を設く。釀酤して飲む者は、皆、之を斬る。又、多く候官を置き、內外を伺察せしめ、律七十餘條を增す。○帝、或は聞くに忍びず、命じて扶けて出でしむ。○高允切諫す。

屠維大淵獻

宋。正、己巳。三、戊辰。六、丁酉。八、丙申。十、乙未。十二、甲午。一日、雨朔。正、雨水。○魏、朔同じ。二日、雨水。○宋志に、九月、食既して胃に在り。二月、塡星、牛を守り、四月、諸侯を犯す。太白、五方に合す。○辰、西方、東井に鉞を犯す。八月、太白、房を犯す。○熒惑、畢を犯す。九月、太白、南斗を犯す。十月、太白、哭星を犯す。○魏志に、二月、熒惑、東井に入る。六月、太白、鉞を犯す。

三

兗州の兵、魏の皮豹子と戰ひ、高平に敗らる。○楊州を以て王畿と爲す。東楊州を揚州と爲す。○江智淵、應に有るべきは盡く無し。○或るひと竟陵王誕反すと告ぐ。帝、桓閎をして之を襲はしむ。誕、擊ちて閎を殺し、廣陵に據りて自ら守る。帝、沈慶之をして之を擊たしむ。鄭瑗、劉季之を殺す。○誕、表して宮帷を斥す。帝、誕の左右恭親千餘人を誅す。○誕出で走り、十餘里にして復た還る。所の食を焚き、表函を受けず。○沈慶之、誕が餉るに坐して誅せらる。○顏竣、怨謗するに坐して誅せらる。○慶之、久しく雨ふるを以て、攻むるを得ず。上怒り、自ら江を濟らんと欲す。○賀弼、誕を諫むれども聽かず。又、叛くに忍びず、藥を飲みて死す。○范義謂ふ、必ず何康之の若くにして活くるは、吾、爲さずと。○慶之、廣陵を拔き、誕を斬る。城中の男子三千餘人、皆、面を鞭ち首を斬る。○呂曇濟、誕の世子景粹を匿す。五幹始めて蓋を加ふ。○郊壇を午位に徙し、

五

皮豹子、宋の兗州の兵を高平に敗る。

上章困敦

宋。二、癸巳。四、壬辰。六、辛卯。十一、庚申。九、己未の朔。魏同じ。

四

皇后弟ら桑とる。○沈慶之、蠻を討つ。○周朗、事を言ふこと切直なるに坐し、徙されて死す。

和平元

樂安王良、河西の叛胡を討つ。○常太后殂す。○陽平王新成等、吐谷渾を擊つ。○復た史官を置く。

○宋志に、六月、太白、井鉞を犯す。七月、歲、積尸を犯す。○魏志に、九月庚申朔、食す。又、正月丁未、歲、鬼を犯す。四月、太白、東井を犯す。○顏師伯、詔を以て幸を得。

重光赤奮若

宋。正、戊午。三、丁巳。五、丙辰。七、乙卯。九、甲寅。十、癸丑の朔。閏九。十二日、小雪。○魏。正、戊午。三、丁巳。五、丙辰。七、乙卯。閏八、甲寅。十、癸丑の朔。九、一日、霜降。○宋志に、九月甲寅朔、食す。又、正月、歲、積尸を犯す。四月、太白、東井・北轅を犯し、又、興鬼を犯す。八月、熒惑、東井に入る。十月、歲、太微の上將を犯す。太白、亢に入りて南の第二星を犯す。

五

太宰義恭、卑詔を以て禍を脫す。海陵王休茂の左右張伯超、罪あり、休茂に勸めて雍州に據りて反せしむ。○沈懷文曰はく、陛下既に管蔡の誅を明かにす。願はくは唐衞の寄を崇べと。○謝莊、墨敕を須ちて門を開く。○沈慶之、朝賀に非ざれば、門を出でず。○張岱、四王府の事を行ひ、籤師と事を共にし、事舉りて情得。曰はく、我、政を爲すこと端平、物を待つに禮を以てす。悔吝、由りて及ぶ無しと。○詔して士族の雜役する者、將吏に補す。多く逃亡して盜を爲す。

二

大に旱す。諸廢寺を復す。

○柔然、沮渠氏を滅ぼし、闕伯周を立てて高昌王と爲す。

し、十月、氐中に入る。熒惑、井中に入る。十二月、太白、西建の中央に星を犯す。○魏志に、二月、熒惑、鬼に入る。九月、太白、南斗を犯し、十一月、塡を犯す。

玄默攝提格

宋。正、壬午。三、辛巳。五、庚辰。七、己卯。九、戊寅。十一、丁丑の朔。○魏、同じ。○宋志に、三月、熒惑、輿鬼に入る。五月、熒惑・歲、上將に犯す。○魏志に、二月、壬子朔、熒惑、積尸に合す。九月、熒惑・歲、太白を犯す。十月、太白を犯し、軒轅を守る。十一月、歲を犯す。

六

帝、顧法秀の策を地に投ず。○沈懷文を殺す。○殷貴妃卒す。○沙門に制して、敬を人主に致さしむ。○祖沖之、表して曆法を上つる。

三

昭陽單閼

宋。正、丙子。三、乙亥。六、甲辰。八、癸卯。十、壬寅。十二、辛丑の朔。○魏、同じ。○宋志に、熒惑・太白、婁に合す。六月、太白、東井に入る。七月、熒惑、東井に入る。太白、輿鬼を犯す。八月、又、軒轅の少民を犯し、又、太微に入り右執法を犯す。十月、輿鬼を犯す。太白・辰、合し、熒惑、軒轅の第二星を守る。十一月、歲、氐に入る。

七

江智淵、嘲戲せず及び殷貴妃の謚を議するを以て責められ、憂を以て卒す。○詔して、軍に臨むに非ざれば、專殺するを得ざらしむ。○又、軍を興すには、皆、手詔を須ひしむ。○蔡興宗、獨り慢辱を免る。○劉德願、殷貴妃を哭し、豫州を得。○帝、高祖の陰室を見て謂ふ、田舍公、此を得るは、已に過ぎたりと爲すと。

四

閼逢執徐

宋、二、庚子。四、己亥。閏五、戊戌。八、丁卯。十、丙寅。十二、乙丑の朔。六、一日、大暑。○魏。二、庚子。四、己亥。五、戊

八

帝殂す。太宰義恭・柳元景・沈慶之・顏師伯、遺を受けて政を輔く。○太子、璽を受けて哀容無し。蔡興宗曰はく、國家の禍、將に此に在らんとすと。義恭等、盡く孝以來の制度を改む。興宗曰はく、有識將に此を以て人を窺はんとすと。○義恭、身を引き事を避く。戴法興・巢尙之等、朝權を專制し、多く選事を回改す。興宗謂ふ、知

五

柔然の吐賀眞卒す。子子成立つ。○帝、高車に如き、天を祭るを觀る。

戊。八、丁卯。十、丙寅。十二、乙丑の朔。閏四、五、一日、夏至。

○宋志に、四月、太白、東井に入り、又、太微に入り、歲執法を犯す。六月、歲、氐を犯し、七月、又、氐に入る。十月、太白、房を守る。

○魏志に、七月丁未、歲、心を守る。九月丁酉、熒惑、軒轅に入る。冬、熒惑、太微に入り、上將を犯し、十二月、遂に之を守る。

らず是れ何の天子の意ぞと。

○王玄謨、殿直なるを以て、出でて南徐州と爲る。

○王太后殂す。

○廢帝謂ふ、病人は問ふ鬼多し。那ぞ往復す可けんやと。

○宋の境、凡そ州二十二有り。

○東方、連歲旱饑し、餓死する者、什に六七。

卷の第十四

旃蒙大荒落

宋。二、甲子。四、癸亥。六、壬戌。八、辛酉。十、庚申の朔。

○魏、同じ。

○宋志に、正月丁酉、太白、牽牛を掩ふ。六月庚午、熒惑、東井に入る。九月丁酉、熒惑、軒轅に入り、十月、太微に入り、西上將を犯す。十一丁未、太白、哭星を犯す。十二月己巳、太白、羽林に入る。

○魏志に、四月、太白、五諸侯を犯す。

宋太宗彧泰始元

永光と改元す。

○二銖錢を鑄る。

○戴法興、權を專らにす。廢帝に謂ふ、營陽と作らんと欲するかと。帝、之を殺す。

○柳元景・顏師伯、帝に因りて、奚顯度を殺すと欲す。帝、之を廢して太宰義恭を立てんこと謀る。沈慶之、之を告ぐ。帝、義恭を殺し、其眼睛を挑りて鬼目粽と爲し、井に元景・師伯を殺す。景和と改元す。帝、山陰公主の爲めに面首三十人を置く。

○帝、新安王子鸞及び其弟妹を殺し、殷貴妃の墓を發く。又、景寧陵を發かんと欲す。太史、帝に利ならずと言ふ。乃ち止む。

○謝莊、貴妃の誄を作るに坐して、尚方に繫がる。帝、卽位してより以來未だ嘗て戒嚴せざるを恨み、義陽王昶を激して反せしめ、而して之を討つ。昶、魏に奔る。

○蔡興宗、袁顗に謂ひて曰はく、汝は外に在りて全を求めんと欲す、我は中に居りて禍を免れんと欲すと。

○民に錢を私鑄することを聽す。錢益〻薄小なり。鵝眼・綖環十萬にして、一掬に盈たす。

○新蔡長公主を納れ、之を謝貴嬪と謂ふ。主婿何邁、廢立を謀り、誅せらる。蔡興宗・沈文秀、沈慶之に廢立せんことを勸む。從はず。

○帝、慶之を殺し、而して之を隱す。

○興宗、又、王玄謨・劉道隆に廢立せんことを勸む。

○路后を立つ。

魏高宗和平六

帝、殂す。世祖、四方を經營し、國頗る虛耗す。帝、靜以て之を鎭し、中外復た安し。太子弘、位に卽く。年十二。乙渾、詔を矯めて楊保年等を殺す。陸麗曰はく、安んぞ君父の喪を聞きて而も赴かざる有らんやと。既に至れば、渾、又、之を殺す。

○渾、丞相と爲り、國事を專らにす。

○宋の劉昶、來奔す。

○帝、諸父湘東王彧等を禁中に幽し、毆極陵曳し、彧を謂ひて猪王と爲し、殺さんと欲する者、十を以て數ふ。

○劉曜の子を以て皇子と爲す。

○帝、使を遣はして晉安王子勛を尋陽に殺さしむ。

○鄧琬、子勛を奉じて兵を起す。

○帝、南平太妃江氏を鞭つこと一百、其三子を殺す。帝、將に荆湘を巡らんとし、先づ諸父を殺さんと欲す。阮佃夫・壽寂之等、帝を弑し、湘東王彧を立つ。

○豫章王子尙・會稽公主を殺す。

○蔡興宗謂ふ、廢帝の喪禮、足らず。四海必ず將に人に乘ぜんとす。

○宗越、帝位に卽く。

○路太后を尊び立つ。

○王后を立つ。

○崇憲太后と爲す。

○鄧琬・袁顗、兵を罷むるを肯ぜず。荆・郢・會稽、皆、之に應ず。

○細錢を罷む。

柔兆敦牂

宋。正、己丑。三、戊子。五、丁亥。七、丙戌。九、乙酉。十一、甲申の朔。

○魏、同じ。

○宋志に、正月甲午、熒惑に逆行して昴に在り。四月壬午、太微に入り、右執法を犯す。七月乙卯、熒惑、因を犯す。十月辛巳、太白、氐に入り、十一月癸巳、太白、房を犯す。

二

○王玄謨、南のかた琬等を討つ。

○沈攸之、共に一號を用ひんと請ふ。

○子勛、帝位に卽く。

○徐州の會稽の薛安都・袁顗・益州の蠻惠開・梁・雍州の崔道固・青州の沈文秀・廣州の何慧文・遠・尋陽の柳元怙、皆、子勛に應じ、四方の貢計、皆、歸す。

○宜しく宗興の親戚、布きて宮省に在り、蔡興宗謂ふ、叛者の罪相及ぶ。情、既に明かにし、待つに至信を以てすべし。物、定まらば、人、戰心有らんと。

○豫州の殷琰、臣子勛に應ず。

○蔡興宗謂ふ、所は、更に事後に在り。

魏顯祖弘天安元

乙渾、其妻の爲めに公主と稱せんことを求む。賈秀曰はく、寧ろ死を今日に取るも、笑を後世に取らじと。馮太后、乙渾を誅し、朝に臨み制を稱す。

○高允・李訢之の言を用ひて、初めて郡學を立つ。

○宋の薛安都・常珍奇、來降す。尉元等を遣はして彭城を救ひ、西河公石等をして懸瓠を救はしむ。

○元、無鹽に至る。畢衆敬、兗州を以て降る。

○鄭羲、石に勸めて速かに懸瓠に據らしむ。

○薛安都謂ふ、京都の地は百里無し、拍手笑殺すと。

○葛僧韶、兗州の殷孝祖に說きて、兵を將ゐて入可しと。

○魏志に、正月戊子、太白・歲・合す、熒惑、鬼を犯す。六月、熒惑、逆行して東のかた孔頭を犯す。八月丁亥。

○劉勔等を遣はし、西のかた殷琰を討たしむ。

○帝、諸軍に宣示す、順を助くると逆に同するとは、一に從ふ所を以て斷と爲す。親戚を憂ふる勿れと。

○叛く者の親黨、皆、職に居ること故の如し。

○路太后殂す。

○巴陵王休若、令を宣して言ふ、退く者は斬らんと。

○集尙之の謂ふ、吳喜は刀筆の吏と雖も、勇決にして戰に習ふと。

○喜、性寬厚にして、東人、風を望みて降り散す。

○任農夫、義興に克つ。

○吳喜、庾業を破る。

○沈懷明等、晉陵に克つ。

○吳喜、吳興に克つ。

○任農夫、吳郡に克つ。

○會稽、平げ、庾業・孔顗を斬り、顗琛等の軍七十六人を斬す。

○吳喜、陳に於て十七人を斬り、餘は皆、之を宥す。

○孔顗、王曼に罪を委れて活を求むるは、是が、翼が、申令行なはれざるなり。

○薛君兒が、孫を下さしめ、井せて之を斬る。

○鄧琬、鄱陽を斬る。

○琬、貪吝にして、內外、心を離す。

○沖之等を遣はして、前鋒と爲し、赭圻に據らしむ。沖之、直に建康に趣かんと欲す。琬、止亮を遣はして之に繼がしむ。亮、幹略無く、陶洲に屯す。

○殷孝祖、衆心を失ひ、沈攸之、將士を撫諧す。

○孝祖、赭圻を攻めて戰死す。
○沈攸之、都督を江方興に讓り、再び赭圻を攻めて之を破る。
○軍食少く、民を募りて錢穀を上らしめ、荒郡縣に補す。
○建安王休仁、將士を巡撫し、其豐儉を均しくす。
○薛索兒、淮を渡りて南侵す。張永・蕭道成に命じて奉陽王子房を討たしむ。
○劉順、節制、專らならず、劉勔を破る能はず。
○沈攸之、赭圻を圍み、劉胡を擊破し、其蠶米を奪ふ。
○薛常寶等、圍を突きて走る。遂に赭圻に克つ。
○赭淵、虎檻に詣り、就きて官を選除す。板無く、始めて黃紙を用ふ。
○明僧暠等、沈文秀を攻め、克つ能はず。
○呂安國、劉順の米を奪ふ。順走る。遂に壽陽を圍む。
○蕭道成、薛索兒を破り、之を斬る。
○傅靈越、苟くも活きず。
○鄧琬、濃湖の兵久しく決せざるを以て、袁顗を遣はし、卒二萬を將ゐ、來りて諸軍を督せしむ。顗、語、戰に及ばず。唯だ詩を賦し、義を談じ、諸將を撫接せず。劉胡恚恨す。又謂ふ、建康、米貴し。必ず攻めずして自ら潰えんと。甲を擁して之を待つ。
○田益之、龐定光を義陽に圍む。龐孟虬、擊ちて之を破る。
○蕭頴等、兵を起して朝廷に應ず。
○何慧文、王應之を殺す。
○劉嗣祖、李萬周の使と詐り、袁曇遠を攻めて之を殺す。
○任叔兒、白帝に據る。
○楊僧嗣、梁州を斷つ。張興世、奇兵を以て錢溪に壁し、其糧道を斷つ。賊の上流に據り、

○興世謂ふ、劉胡、氣盛にして矢驟しと。禁じて擊つ勿らしむ。
○建安王休仁、沈攸之をして濃湖を攻めしめ、以て錢溪の勢を分ち、營柴を成すを得しむ。
○龐孟虬敗れ死す。
○崔道固降る。
○劉胡謂ふ、步戰は數萬人の中に在りと。水戰は一舸三十人の中に在りと。
○張興世、沈仲玉を擊破し、其來三十萬斛を奪ふ。
○劉胡屢〻敗れ、袁顗も亦走りて道に死す。
○胡、尋陽より、夜、沔口に趣く。
○張悅、鄧琬を誘ひて其首を斬りて以て降る。蔡道淵、鎖を脫して晉安王子勛を囚ふ。
○沈攸之、張淹、子勛を殺す。衣冠多く流離す。人、蔡興宗の先見に服す。
○費曄、諸將を遣はして分ちて荆・郢・雍・湘の四州を討たしむ。
○劉胡・劉道憲・張沈・孔道存・何慧文、皆死し、四州平ぐ。
○司徒休仁、帝に勸めて永嘉王子仁等を殺さしむ。
○世祖の二十八子皆盡く。馬を以て王廣之に與へ、合肥を攻めしむ。
○劉勔、晉熙を拔く。
○沈靈寶、
○薛安都・蕭惠開・柳元怙・畢榛、皆降る。
○帝、沈攸之・張永に命じて兵を將ゐて薛安都を迎へしむ。蔡興宗・蕭道成、皆、諫めれども聽かず。
○太子昱を立つ。
○薛安都、徐州を以て、常珍奇、豫州を以て、畢衆敬、兗州を以て魏に降る。
○蔡興宗、手詔を以て殷琰を諭さんと請ふ。
○琰、魏に降らんと欲す。夏侯詳、琰に勸めて劉勔に降らしむ。
○勔、壽陽に克ち、一人を戮せず、士民の資財、

失ふ所無し。○蕭惠開、東兵二千を以て、蜀の民十餘萬を破る。○惠開曰はく、臣唯だ逆順を知り、天命を識らずと。○張永等、進みて彭城に逼る。魏人、之を救ふ。

彊圉協洽

宋。正、癸未。二、壬午。五、辛亥。七、庚戌。九、己酉。十、戊申の朔。閏正。二、二日、春分。○魏。朔・閏同じ。二、三日、春分。○宋志に、六月、熒惑、輿鬼を犯す。○魏志に、十月、己卯朔、食す。又、十月、己巳、參に食す。又、四月、合す。六月壬寅、太白、鬼を犯す。

三

張永等、呂梁に敗れ、大雪に値ひ、士卒、手足を凍斷するもの、什に七八。帝、蔡興宗に謂ふ、朕、卿に愧づること甚だしと。遂に淮北の四州及び豫州・淮西の地を失ふ。○魏の拓跋石、汝陰に寇す。張超、拒ぎて之を却く。○劉懷珍、海に浮びて青州を討つ。沈文秀・崔道固、皆降る。魏に附かす。魏の慕容白曜、之を攻む。○慕容白曜、遂に肥城・垣苗・麋溝及び升城を取る。○清泗の人、詐りて薛安都と稱して降る。沈攸之、迎へず。○帝復た攸之をして彭城を討たしむ。攸之以へらく、清泗方に涸る、行く可からずと。帝、之を彊ふ。○蕭道成、淮陰に戍し、豪傑を收養す。○垣崇祖、朐山に據りて來降す。垣榮祖謂ふ、人、自ら全くする技無くば、何ぞ犬羊に異ならんと。○沈攸之、下邳に至り、魏の孔道恭に敗らる。房法壽、磐陽を以て魏に降る。○魏の慕容白曜、歷城を攻め、長孫陵・東陽を攻む。○徐爰を交州に徙す。○劉休賓、魏に降らんことを謀り、果さず。

皇興元

尉元等、大に宋の張永・沈攸之を呂梁に破り、始めて淮北の四州及び豫州・淮西の地を得。○東平王道符、長安に反す。段太陽、討ちて之を斬る。○宋の沈文秀・崔道固、來降し、且つ兵を請ふ。○河西公石、宋の汝陰を攻め、克たず。○郟義、石が退きて長社に屯するを諫む。○慕容白曜、無鹽を攻め、申纂を獲。○酈範、無鹽を襲はんことを勸め、其人を以て軍賞と爲すを諫む。又、飛書して肥城を諭降せんと請ふ。○白曜、旬日にして四城に克つ。○韓麒麟、升城を屠るを諫む。○盧度世、百口、豐儉を同じくす。○酈範、沈文秀が必ず降らざるを料る。○尉元、先づ下邳等の戍を平げんと請ふ。○大像を作る。銅を用ふること十萬、金六百斤。○宋の沈攸之、入寇す。孔道恭、擊ちて之を破る。○宋の房法壽、磐陽を以て來降す。○慕容白曜、宋の歷城を攻め、長孫陵、東陽を攻む。○子宏生る。○馮太后、政を歸す。○劉昶、宋に書を與ふるを辭す。○常珍奇、懸瓠に叛く。

著雍涒灘

宋。正、丁未。三、丙午。五、乙巳。八、甲戌。十、癸酉。十一、壬申の朔。○魏。同じ。○宋志に、四月丙子朔、食す。十月癸酉朔、食す。又、六月壬寅、太白、興鬼を犯す。○魏志に、正月、太白、熒惑、合す。十一月、太白、氐を犯す。

四

劉勔言ふ、賈元友の計は、從ふ可からずと。○張謐、圍城を以て魏に降る。○魏の慕容白曜、歷城を拔き、崔道固を擒にす。○劉休賓、梁鄒を以て魏に降る。○常珍奇、容白曜、來奔す。○魏の慕容白曜、東陽を圍む。○明僧祐、魏に降る。○交州の李長仁反す。○廣州の劉思道反し、刺史羊希を殺す。○討ちて之を斬る。李長仁、降を請ふ。○魏人、其を拔き、沈文靜を殺す。○路太后の陵を發き、之を改葬す。○阮佃夫等、事を用ふ。捉車、中郎將と爲り、馬士、員外郎と爲る。

屠維作噩

宋。二、辛未。四、庚午。六、己巳。八、戊辰。十、丁卯。十二、丙申の朔。閏十一。十二、二日、大寒。閏。○魏、朔同じ。閏十一、二日、冬至。○宋志に、十月丁卯朔、食す。又、十月丙申、太白、亢を犯す。○魏志に、十月丁酉朔、食す。

五

魏、東陽を拔く。○柳欣慰、盧江王禕を立てんことを謀る。禕、南豫州に左遷せらる。尋ぎて官爵を免じ、逼りて自殺せしむ。魏、和親を脩む。○建安王休仁、寵寄甚だ隆にして、朝野輻湊す。○帝、漸く悅ばず。休仁表して楊州を解く。○孫謙、兵を募るを辭し、恩信を以て蠻獠を懷く。

二

宋の張謐、圍城を以て來降す。○慕容白曜、宋の歷城を拔き、崔道固を擒にす。宋の劉休賓、梁鄒を以て來降す。○常珍奇、宋に奔る。○慕容白曜、宋の東陽を圍む。○宋の崔僧祐、來降す。○宋の不其を拔き、沈文靜を殺す。

三

宋の東陽を拔く。○帝、租調を寬減し、民稍や贍給す。○平齊郡を置き、以て青・齊の民望を處く。○彗曜、請ひて僧祇の戶粟及び寺奴を置き、州鎮に徧し。○太子宏を立つ。○復た宋と和親す。

上章閹茂

宋。二、乙未。四、甲午。六、癸巳。八、壬辰。十、辛卯。十二、庚寅の朔。○魏、同じ。○宋志に、八月壬辰、熒惑、南斗を犯す。

六

太子の爲めに江妃を納る。○王后謂ふ、外舍の樂は、雅より此に異なりと。○蕭道成、遷りて淮陰に鎮す。○總明觀、學士を置き、儒・玄・文・史・陰陽の五部に分つ。○子智隨を立てて孝武の後と爲す。

四

長孫觀、吐谷渾王拾寅を曼頭山に敗る。○柔然の子成入寇す。張白澤謂ふ、萬乘の尊を以て、城に嬰りて自ら守るは、四夷を威服する所以に非ずと。○帝、柔然を女水に敗る。旬有九日にして、往返すること六千餘里。○張白澤、人をして尚書以下を糾告せしめ卽ち其官を授くるを諫む。○慕容白曜に誅す。○李敞及び弟弈の陰事を告ぐ。○李訢、臧質に坐し、李敞、訢、死を免る。○柔然、弈・訢・誅に坐し、于闐を攻む。險遠なるを以て、救ふ能はず。

重光大淵獻

宋。二、己丑。五、戊午。七、丁巳。十一、九、丙辰。十一、乙卯の朔。同じ。○魏、同じ。○魏志に、十二月辛卯、熒惑、鉤鈐を犯す。乙巳、塡、井を犯す。

七

帝、晚に鬼神を好み、忌諱多し。○器用必ず九十枚を造る。○它人の子を取り、寵姬をして之を子とせしむ。○太子の幼なるを以て、諸弟を忌む。○雉を射るに因りて、晉平王休祐を殺す。○王敬先、巴陵王休若、荆州に據りて詔を受けざるに勸め、之を殺す。○帝、安陸王休仁を殺す。休仁曰はく、我已に今一日出でず。雨、壽寂之を殺す。○帝、巴陵王休若の和厚なるを以て、物情之に向はんことを恐れ、死を賜ふ。○帝、蕭道成に銀壺酒を賜ふ。吳喜、道成に勸めむ。帝、吳喜が計數多くして好みて人情を收むるを以て、之を殺す。

魏高祖宏延興元

西部の敕勒、胡莫寒を殺して叛く。汝陰王天賜、○顯祖の討ち、利有らず。○顯祖、聰睿にして善く斷す。釋老を好み、富貴を薄んじ、位を叔父京兆王子推に禪らんと欲す。○羣臣、太子に傳へんと請ふ。之を許す。○太子生れて五年にして帝位に卽く。悲泣して自ら勝へず。○顯祖、太上皇帝と爲す。北苑に居り、○朱椽を賜ふ。○蠕蠕土階を賜ふ。大事は以て聞す。○源賀請ふ、敕勒の叛者を討ち、大に之を破る。○賀毎歲の漠南の戍軍を罷め、三萬人を募りて築城屯田せんと。○宋の垣崇祖、蒙山に寇す。于洛侯、拒きて之を却く。

○蕭道成、入朝す。○垣崇祖、魏を侵して蒙山に至る。○帝、湘宮寺を作り、自ら功德を矜へらく、皆百姓が兒を賣り婦を貼するの錢にして、罪、浮圖よりも高しと。○又謂ふ、堯、桀を以て丹朱に敎ふ。人主の宜しく好むべき所に非ずと。○楊州を解かんことを求む。帝以爲へらく、○王景文、禍を避くるに心有るは、運に任するに心無きに若かずと。

玄黓困敦

宋。正、甲寅。三、癸丑。五、壬子。閏七、辛巳。九、庚辰。十一、己卯の朔。八、一日、秋分。○魏。正、甲寅。三、癸丑。五、壬子。七、辛巳。九、庚辰。十一、己卯の朔。閏六。七、一日、處暑。

泰豫元

帝、王景文に死を賜ひて曰く、卿の門戶を全くせんと欲すと。景文、客と棊し畢り、乃ち藥を飲む。○帝、大漸なり。劉愔を殺す。○帝、景文に顧命を受く。淵、蕭道成を引きて、同じく顧命を受けしむ。○帝、殂す。太子、位に卽く。○帝、阮佃夫等、事を用ふ。桑等、禁ずる能はず。○王太妃と爲す。○王道隆、蔡興宗を惡み、其荆州を罷む。○道隆、興宗を見て、敢て坐せず。○沈攸之、荆州に徙り、桑を聚め兵を治め、陰に異志を蓄ふ。○阮田夫、敕と稱して、其の親む所を用ひて郡と爲す。袁粲等、敢て執せず。

二

大陽蠻酋桓誕、八萬餘落を帥ゐて來降す。韋珍をして之を安集せしむ。○柔然入寇す。將を遣はして擊ちて之を走らす。○東部の敕勒、叛きて柔然に降る。上皇、追ひて石磧に至り、及ばず。○初めて比丘が移牒無くして村落に遊ぶを禁す。○柔然の无盧眞、敦煌に寇す。尉多侯、擊ちて之を走らす。○柔然入寇す。上皇、之を討ちて漠南に至る。○有司奏す、諸祠、歲に牲七萬五千を用ふと。上皇詔す、天地・宗廟・社稷に非ざれば、皆、酒脯を用ひよと。

昭陽赤奮若

宋。正、戊寅。三、丁丑。五、丙子。

宋蒼梧王昱元徽元

桂陽王休範、宰輔と爲るを得ざるを怨み、尋陽より建康を襲はんことを謀る。朝廷、陰に之が備を

三

令して、民の同部にして牛を借さざる者は、一門、仕へざらしむ。

七、乙亥。九、甲戌。十二、癸卯の朔。○魏、同じ。○宋志に、十二月癸卯朔、食す。○魏志に、戊午、月、七星に食す。

爲す。

閼逢攝提格

宋。二、壬寅。四、辛丑。六、庚子。八、己亥。十、戊戌。十二、丁酉の朔。○魏、同じ。○魏志に、正月癸酉朔、食す。又、七月丙申、太白・歲、合す。

二

○蕭道成謂ふ、晝夜、道を取る。○休範反し、遠く出づるに宜しからず。請ふ新亭・白下に據りて以て之を拒がんと。○休範、新林に至る。孫千齡、梁山に據らんと請ふ。道成、之を折く。道成、衣を解きて高臥し、以て衆を安んず。○丁文豪、直に臺城を攻めんと請ふ。休範、許さず、留まりて新亭を攻む。道成謂ふ、賊多しと雖も亂る、尋ぎて破れん。○休範、臨滄觀に登り、輕兵自ら衞る。黃回・張敬兒詐りて降り、直に前みて之を斬る。○陳靈寶、休範の首を送りて臺に還らんとし、賊に遇ひ、水に棄つ。○杜墨驟、新亭を攻め、東城を陷る。道成、拒ぎて之を却く。○城中驚き亂る。道成、燭を乘りて正坐して之を呵す。○墨驟、丁文豪と、朱雀桁を攻む。劉勔、桁を開かんと欲す。王道隆、聽かず。勔・道隆、皆、敗れ死す。○蕭勔謂ふ、災眚は避く可からずと。○蕭道成、勔に謂ふ、宜しく深く從容を尙び、羽

○守令の能く盜を靜むる者は、二三郡縣を兼ねて治めしむ。○吐谷渾、洮河に寇す。拾寅、之を破る。拾寅降る。○上皇、南のかた懷州を巡る。

四

○門房の誅を罷む。○奏事、皆、律に據りて名を正し、口敕を改めて墨詔を用ふ。○顯祖曰はく、滯獄は猶ほ倉猝にして濫するに愈る。人幽苦すれば則ち善を思ふ。故に囹圄を謂ひて福堂と爲すと。又、數〻赦せず。○柔然、敦煌に寇す。尉多侯、擊ちて之を破る。○尙書、敦煌に徙らんと請ふ。韓秀、以て不可と爲す。

○翼を廢省すべからずと。○張永、白下に潰え、沈懷明、石頭に潰え、褚澄、東府を開きて南軍を納れ、杜墨驟、杜姥宅に屯す。○士民、新亭に詣り、刺を投ずるもの、千を以て數ふ。○陳顯達、墨驟を擊破し、餘黨悉く平ぐ。○百姓謂ふ、道成、國家を全くすと。○袁粲・褚淵・劉秉・蕭道成、更〻直して事を決す。○號して四貴と曰ふ。馮景祖、尋陽に克ち、江州平ぐ。○執政、太后の令を以て沈攸之を徵す。攸之、入るを願はず。○蕭惠明、褚澄が郡と爲るを訐く。

旃蒙單閼

宋。二、丙申。四、乙丑。六、甲子。八、癸亥。十、壬戌。十二、辛酉の朔。閏三、四、一日、小滿。○魏。朔・閏同じ。四、二日、小滿。○宋志に、七月丙申、太白・歲、角に合す。丁巳、太白、氐に入り、八月己巳、房北の第二星を犯し、九月癸卯、南斗の第三星を犯す。十月丙戌、歲、氐に入る。○魏志に、三月癸未、太白・熒惑、羽林に合す。

三

張敬兒、自ら、襄陽に鎭して以て沈攸之を防がんと請ふ。○王季符、建平王景素が反を謀るを告ぐ。

五

柔兆執徐

宋。二、庚申。四、己未。七、戊子。九、丁亥。十一、丙戌の朔。○宋志に、九月甲辰、塡、太微の西蕃を犯す。○魏志に、四月甲戌、月、尾に食す。又、五月癸亥、太白・熒惑、軒轅に合す。

四

景素、灣に宿衛の才力の士に結ぶ。垣祇祖、京口に奔る。景素遂に反す。殷佛榮等を遣はし、討ちて之を斬る。○沈攸之、峽中の兵を召して建康に赴かしむ。攸之、疑ひて命を拒む。攸之、諭して之を下し、攸の兵を待つこと舊の如し。

彊圉大荒落

宋。正、乙酉。三、甲申。五、癸未。七、壬午。九、辛巳。十二、庚戌の朔。閏十二、庚戌の朔。○魏。甲申。正、乙酉。三、壬申。五、癸未。七、壬午。九、辛巳。閏十一、庚戌の朔。十二、一、大寒。○宋志に、四月丁巳、熒惑、輿鬼の

宋順帝準昇明元

蒼梧王、遊戲、度無く、好みて左右數人と、市里門を單戸晝閉ぢ、人畜に遇へば、輒ち之を擊刺す、民間、右往行し、道に行人無し。鉞・椎・鋸・鑿、左右に列す。殿省憂惶し、食息だも保せず。阮佃夫、廢立を謀り、坐して死す。○蕭道成、事を寰劉に讓る。王敬則、刀を拔きて之を叱す。寰欒、敢て言はず。道成乃ち議を下して安成王準を迎ふ。○劉韞、兄乘に謂ふ、肉中詎ぞ血有らんやと。○劉道成、東府に鎭す。寰劉、手を閣く。○大權、悉く道成に歸す。寰劉、即時、旨に順ふ。○寰欒、石頭に鎭す。○陳太妃、道成が素と己の下に出で、朝政を專制するを以て、心、平かならず。○沈攸之、道成が、文を飾ぶ。攸之、江陵に反す。○攸之、道成が、羣公と共に太后に白して昏を廢し明に立てず。而して左右と密に弑逆を謀りたるを貫む。○劉懷珍、道成に勸め、人を擇びて夏口を守らしむ。○蕭賾、入朝し、柳世隆を薦めて自ら代る。○賾、世隆に謂ふ、攸之をして留まりて郢城を攻めしめば之を破らんこと必せりと。賾、晉熙王燮を奉じ、留まりて湓城に鎭す。○周山圖、謂ふ、衆心齊壹ならば、江山、城隍と爲す可しと。○寰欒・劉秉、王蘊・黃回・卜伯興等と、道成を誅せんことを謀る。○欒、道成を見ず。○欒、恒擾し、晡後、東裝して石頭に奔る。○欒敬則、伯興を誅す。○戴僧靜等、欒・秉を攻め殺す。○道成、莫嗣祖・承伯を敕して之を用ふ。○張瑾、劉遐を誅す。○道成、黃回に付し、前驅せしめて曰はく、能く、重兵を以て黃回に成す無しと、賊寅、攸之が郢城を攻むるを諫む。○柳世隆、職を挑み、焦度、攸之を罵る。攸之、

承明元

馮太后、李弈の死を以て顯祖を怨み、人をして之を弑せしめ、復た朝に臨み制を稱す。○有司奏す、神主を廟に祔し、事を執るの官、皆、爵を賜はらんと。程駿諫む。太后、之を賞し、曰はく、事を議するに、當に古典に依りて正言すべし。豈に但だ故事に循ふを得んやと。○太后、聰察儉素、而も猜忍にして權數多し。○帝、性孝、政事、皆、成を太后に仰き、關豫する所無し。○宦官張祐等、事を用ひ、官、僕射に至る。○王公を封するに鐵券を賜ふ。○王叡、幸を太后に得、政事に干豫す。○太后、性嚴にして、左右、寵有りと雖も、小過有れば、輒ち笞箠す。然れども尋ぎて復た之を待つこと初の如く、或は更に富貴を得。○李訢、徐州に出づ。

太和元

初めて令して、工・商・賤族・役有る者は、本部の丞に止まらしむ。勳勞有れば此制に從はず。○楊文弘、仇池を陷る。○李奕、其兄訢が范瀏を親信するを諫む。○瀏、太后が訢を怨むるを知り、其の叛を謀る。○張白澤、訢、坐して誅せらるを告ぐ。太后が盡く重山の民を誅するを諫む。○皮歡喜、楊文弘を擊ちて之を走らす。○歡喜、葭蘆を拔き、楊文度を斬る。楊文弘、降を請ふ。以て武都王と爲す。

西北星を犯す。丙子、太白、又、之を犯す。九月丁亥、太白、翼に在り。○魏志に、十月辛亥朔、食す。又、五月戊辰、月、尾に食す。案ずるに戊辰は四月望なり、月、昴に食す。又、五月十月乙丑、月、昴に食す。○宋志に、太白・熒惑、庚子に合す。壬申、張・塡、翼に合し、辰皆、太微に入る。

計を改めて城を攻む。
○沈文季、沈登之を誅す。
○江淹謂ふ、道成、五勝有り、攸之、五敗有りと。
○劉善明謂ふ、攸之險躁にして、而も果旬、進まず。必ず將に自ら潰えんとす。
○周山圖も亦攸之が必ず敗れんことを知る。

著雍敦牂

宋。正、己酉。三、戊申。五、丁未。七、丙午。九、乙巳。十一、甲辰。正、一日、雨朔。
○魏。朔同じ。二日、雨水。
○宋志に、九月乙巳朔、食す。
○魏志に、二月己酉晦、食す。九月庚申、月、昴に食、熒惑、又、九月、興鬼を犯す。

二

○范雲、沈攸之の爲めに書を送る。
○張謨、公孫方平を破り、復た西陽を取る。黃回進みて之に據る。
○攸之、諸將を罪せんと欲す。逃るる者益〻衆く、敢て發舉する莫し。
○劉攬の兵、營を燒き、柳世隆に降る。攸之の將士皆潰ゆ。
○臧寅曰はく、其成を幸とし、而して其敗を弃つるは、忍びざるなりと。
○攸之走りて江陵に還らんとし、水に投じて死す。未だ至らず、張敬兒已に其城に據ると聞き、自經して死す。
○蕭榮、邊邕之と同じく死す。
○蕭道成に長史と爲す。
○攸を以て尉を加へ、十六州を都督せしめ、王儉、庾佩玉・任候伯を殺す。
○桓康を殺さしむ。
○道成、公私の奢侈なるを以て、更めて制度を立つ。
○謝朏、道成に從ふを肯ぜず。
○王儉、道成に謂ふ、推遷せば則ち人望去らんと。
○任遐謂ふ、褚淵は身を惜む。遐能く之を制せんと。
○道成に太傅を加ふ。
○謝后を立つ。

二

宕昌、入貢す。
○士民が非類と昏偶するを禁ず。
○馮太后、李惠を忌み、誣ひて、叛すと云ひ、而して之を殺す。

屠維協洽

齊。正、癸卯。四、壬申。六、辛未。八、庚午。十、己巳。十二、戊辰の朔。
○魏、同じ。
○宋志に、三月癸卯朔、食す。
○齊志に、七月辛亥、太白、軒轅の大星を犯し、九月癸丑、塡と軫に合す。五月己未、熒惑、太微の西東上將を犯す。
○魏志に、三月、塡、逆行して太微に入り、左掖門內に留まる。九月庚子、太白、左執法を犯す。

齊太祖 道成建元元

蕭嶷、荆州に至り、兵役を罷遣し、刑を輕くし斂を薄くす。
○謝朏謂ふ、晉文必ず身を終るまで北面せんと。
○臨川王綽を殺す。
○位を相國に進め、齊公に封ぜらる。
○褚淵、齊の官と爲らんことを求む。
○公、爵を進めて王と爲る。
○宋の禪を受く。
○謝朏、璽を解くを肯ぜず。王琨、獺尾を攀ぢて泣く。
○王、帝位に卽く。
○宋の公侯、皆、國を除かる。
○褚炤、彥回が早く死せざるを歎ず。
○裴顒、冠を挂けて徑に去る。
○帝、謝朏を殺さず。
○劉瓛謂ふ、政は孝經に在りと。
○劉善明、大明・泰始の苛政を除かんと請ふ。
○又、交趾を討つを停めんと請ふ。
○崔祖思、無員の官たして文武二學に就かしめんと請ふ。
○又、清素を進め驕奢を退けんと請ふ。
○聞喜公子良、臺使の勞擾を論ず。
○劉思效言ふ、山澤の民、敢て水草を采食せずと。
○二宮の諸王に詔して、屯邸を營み山湖を封ずるを得ざらしむ。
○諸將の、部曲を募るを斷つ。
○何點謂ふ、褚淵・王儉、舅氏に賴らず、邉ありて國家を恤ふと。
○衞卒、馬を走らすを聞きて、汝陰王を殺す。
○姚道和、盡く宋の宗室を誅す。
○太子隨を立つ。

三

宜都王目辰等、贓に坐して誅せらる。
○候官を省く。
○梁郡王嘉等を遣はし、劉昶を奉じて以て齊を伐たしむ。齊の謝天蓋、降を請ふ。韋珍を遣はして之を迎へしめんとし、果さず。
○柔然入寇し、塞に至りて還る。
○高允に絲竹牛酒を賜ふ。

上章涒灘

齊。二、丁卯。四、丙寅。七、乙未。九、甲午。十二、癸巳。十、壬辰。二朔。閏九。十、壬辰。小雪。○魏。二、丁卯。四、丙寅。七、乙未。閏八、甲午。十二、癸巳。十、壬辰。霜降。日。九、一朔。九月甲午。齊、志に、九月甲午朔、食す。又、十月辛酉、熒惑、太微を守る。○魏、志に、二月壬午、月食す。又、九月壬戌、太白、左執法を犯す。

○王儉、符伍を立つるを諫む。○李叔獻を以て交州に刺とす。○楊廣香來降す。胡諧之、范柏年を譖し、之を殺す。○李烏奴、叛きて氐に入る。○王玄邈、烏奴を破る。○玄邈、帝が異志有ることを宋の明帝に言ふ。帝、以て恨と爲さず。○魏の拓跋嘉等、劉昶を奉じて入寇す。○謝天蓋、司州を以て魏に附かんことを謀る。蓋景先、擊ちて之を破る。○王敬則、鎭を弄てて南に遁る。○王洪範、柔然に約して共に魏を伐つ。

二

魏の拓跋琛、馬頭を拔く。○崔文仲、魏の茌眉を拔く。○羣蠻、秦遠等、反す。豫章王嶷、討ちて之を平ぐ。○拒跋嘉等、壽陽に寇す。垣崇祖等、擊ちて之を破る。○帝、虞玩之等に命じて黃籍を校定せしむ。○巴州を置く。齊の境、州二十三有り。○西陽侯鸞、早く孤なり。帝、之を養ひ、恩、諸子に過ぐ。○宮外の牆を築きて竹籬に易ふ。○魏崔慧景、拓跋嘉等、李烏奴を破る。復た入寇し、朐山を圍む。玄元度、擊ちて之を破る。○帝、何戟に常侍を加へんと欲す。褚淵以爲へらく、三貂有るも、可からずと。○魏の馮熙等、邊に寇す。○王僧虔、湯に上せて囚を殺すを斷たんと請ふ。○楊後起を以て武都王と爲す。○劉祥謂ふ、淵、面のあたり人を見るを羞づ。扇鄣は何の益有らんやと。

四

○隴西公琛、齊の馬頭を拔く。○齊の崔文仲、茌眉を拔く。○梁郡王嘉等、壽陽を攻め、齊の垣崇祖に敗られ、引き還る。○齊の角城來降す。嘉を遣はして之を迎へしむ。○遂に齊を擊つ。玄元度に敗らる。○馮朐山を圍み、○馮熙等、復た齊を擊つ。○徐・兗の民起りて盜を爲す。○王叡、爵を中山王に進めらる。官屬、皆、名士なり。

重光作噩

齊。二、辛卯。四、庚寅。六、己丑。八、戊子。十一、丁巳の朔。○魏。同じ。○齊、志に、七月己未朔、食す。又、十月癸丑、塡、逆行して氐を守る。○魏、志に、七月庚申、食す。又、九月辛巳、塡・辰、軫に合す。

○沈文季謂ふ、淵死して何の面ありて宋の明帝に見(ゆ)るかと。○豫章王嶷、司空楊州と爲る。

玄默閹茂

齊。正、丙辰。二、乙卯。五、甲寅。九、壬戌、癸丑。十一、辛亥の子。

三

魏、淮陽に寇し、成買を殺す。○周盤龍父子、魏の數萬の衆を築援す。○魏、下蔡に寇す。垣崇祖、擊ちて之を却く。○王奐、南蠻校尉の官を龍む。○淮北の民桓標之等、援を請ふ。帝、李安民等を遣はして之を迎へしむ。安民、時に進まず。標之等、皆、魏に滅ぼさる。魏、三萬餘口を虜にして去る。○楊文弘、降を請ふ。○車僧朗、魏に聘し、○柔然、帝に書を與へ、共に魏を伐たんことを約す。

四

帝、殂す。太子、位に卽く。○帝、玉導を以て病源と爲し、之を碎く。○帝曰はく、我をして天下を治むること十年ならしめば、當に金と土とをして價を同じくせしむべ

五

齊の淮陽を攻め、成買を殺す。李安民等と戰ひ、利あらずして還る。○法秀、亂を謀る。荀顗、討ちて之を擒にす。○鐵鎖自ら解く。○齊の下蔡を攻め、克たず。○王叡、法秀の餘黨を宥さんと請ふ。○馮太后の爲めに壽陵を方山に營む。○淮北の民桓標之等、兵を擧げて齊に應す。討ちて之を滅ぼす。○諸將、齊の三萬餘口を虜にして還る。○王叡卒す。詩誄を爲る者、百餘人、義孝と爲る者、千餘人。叡の子襲を以て尙書令と爲す。○解奉君、齊の使者車僧朗を殺す。○薛虎子、資絹を以て牛を市ひ・彭城に屯田せんと請ふ。○邵安等、「虎子、叛を謀る」と告ぐ。帝、其の然らざるを知る。○吐谷渾、拾寅卒す。子度易侯立つ。○高閭等、新律を更定す。高車、高昌王首歸を殺す。國人、馬儒を立てて王と爲す。

六

帝、虎圈に臨み、四方の捕貢を龍む。○氐の楊文弘卒し、從子後起立つ。○李崇、荆州と爲る。敕して兵を發して之を逐らんとす。辭して曰はく、邊人、和を失ふ

朔。○魏、同じ。七月戊辰、○齊志に、月食して危に在り。又、六月庚子、太白、東井に入り、八月戊子、軒轅の女主星を犯し、甲辰、少民星を犯し、九月己卯、太微を犯しの西蕃の上將を犯し、辛酉、戊辰、太微に入り、壬子、左執法を犯す。十二月、氐に合す。○太白、房・北丙辰、太白、星を犯し、閉星を犯し、丁卯、一の第一捷閉星を犯す。又、六月戊子、熒惑、東井に、入り、丁丑、太白と合し、積尸を犯し、十月甲戌、太微に入る。癸未、太微に入る。又、正月己卯、歲・太白、婁度に合す。又、七月戊辰、塡、氐に入る。○魏志に、正月辛未、月食す。七月丁卯、又、食す。十一月辛亥朔、寅に東方に見はる。

○○太子長懋を立つ。○○王妃を立つ。司徒を解く。○○褚淵、謐、怨望し、私に豫章王に結ぶ。坐して誅せらる。○褚淵卒す。子賁、墓下に屏居す。

は、刺史を怨むに本づく。詔を奉じて之に代らば、自然に安帖せん。兵を發して自ら防がば、適に疑懼せしめんと。○崇、邊戍に命じて、掠得せる齊人、皆、之を還さしむ。○○崇、兗州に在り、鼓樓を置き、盜を逐ふ。○帝、始めて親ら七廟を享し、服器、皆、古制に依る。

昭陽大淵獻

齊。二、庚辰。四、己卯。閏五、戊寅。七、丁丑。九、丙子。十一、乙亥の朔。六、一日、大暑。○魏。二、庚辰。四、己卯。五、戊寅。七、丁丑。九、戊丙寅。十一、乙亥の朔。閏四。夏至。五、一の日、○齊志に、十二月乙巳朔、食す。又、六月己酉、太白、太辛酉、左執法を犯し、八月甲申、南斗の第四星を犯し、九月、乙酉、壬第三星を犯し、熒惑と合し、十月丁卯、哭星を犯す。又、正月己亥、熒惑、逆に上相を犯し、辛亥、角を守り、庚子、逆に太微に入り、三月丁卯、太白と合し、六月戊申、亢を犯し、己巳、氐を犯し、七月戊寅、治民官の田秩を復す。○豫章王嶷、朝務に參せざれども、時に謀畫を獻す。○楊炅を以て陰平王と爲す。○治民官、皆、三年を以て小滿と爲す。○帝、天文を讓はず。○袁劉及び沈攸之を葬る。○荀伯玉曰はく、豈に死を畏れて官の耳目を蔽ふことを得んやと。白して張景眞を誅す。○王敬則、太祖を驅びて東宮を慰釋せしむ。○太祖、廢立の意有り。而して豫章王嶷、太子に事へて愈〻謹む。○帝、宿嫌を以て垣崇祖、荀伯玉を殺す。○帝、猜忌を以て張敬兒を殺す。又、馬に上り鞬を屬けて兄の使を見る。○張恭兒、輕慢を以て死す。○謝超宗、井に袁彖、坐して禁錮せらる。○王曾虔、開府を固辭す。○王儉、長梁齋を作る。曾虔、入らず。○王弘、三兒の戲を觀て、其の至る所を知る。

齊世祖蹟永明元

七

李安世、劉纘に謂ふ、聖朝は金玉を貴ばず。故に賤しきこと瓦礫に同じと。○初めて同姓の昏を禁ず。○于洛侯、殘酷に坐す。帝、命じて、人を刑する處に於て之を斬らしむ。○韓麒麟、劉普慶に謂ふ、必ず若し斷斬して威を立つるならば、當に卿を以て之に應ずべしと。

塡と合し、丁亥、房を犯し、八月乙丑、天江を犯し、甲戌、南斗を犯し、十一月、丙申、羽林に入る。又、五月甲午、歲、東井に入る。又、六月、辰、太微に入る。又、正月庚寅、塡、房心を守り、三月甲子、逆行して西咸を犯す。		
閼逢困敦	二	齊。正、甲戌。三、癸酉。六、壬寅。八、辛丑。十、庚子。十二、己亥の朔。○魏、同じ。○齊志に、四月丁巳、月食して南斗に在り。又、三月甲戌、太白、羽林に入り、四月丙申、東井鉞星を犯し、六月戊辰、熒惑と興鬼の度に合し、己巳、歲と合す。八月庚午、熒惑、太微の西上將を犯し、十月庚申、進
	八	初めて百官の俸祿を班つ。○李洪之、首として贓敗を以て死を賜ふ。○淮南王它、復た祿を斷たんと請ふ。高閭、之を駁す。○閭長城を築かんと請ふ。○高麗の使、齊の使に次ぐ。
卷第一百三十六		

賈を犯し、十一月壬辰、亢を犯し、十二月乙卯、氐に入る。又、八月甲寅、辰・太白、翼に合す。又、二月戊辰、塡、東咸を犯す。○魏志に、四月丁亥、月食す。		
旃蒙赤奮若	三	齊。二、戊戌。四、丁酉。六、丙申。八、乙未。十一、甲子。○魏、同じ。○齊志に、十一月戊寅、月食し、三分の井に在り、一を食す。又、五月戊子、太白、少月氐星を犯し、十一月壬申、氐に入り、十二月己酉、塡と箕度に合す。又、二月乙卯、熒惑、房を守り、四月戊戌、氐を犯し、六月乙亥、房を犯し、癸亥、天江を犯し、八月丁巳、南斗を犯し、十月丙戌、羽林に入る。又、
	九	圖讖及び卜筮・不經の者を禁ず。○皇誥を羣臣に班つ。○彭城王勰、賢行有り。○穆亮、宕昌王梁彌承を納る。○初めて民に口分田を均給す。○柔然、塞を犯す。任城王澄、拒ぎて之を却く。○柔然の子成卒し、子豆崙立つ。

五月丙子、歲、太白と合し、六月辛丑、辰と合し、十月己巳、太微に入り、十一月甲子、右執法を犯す。

柔兆攝提格

四

齊。正、癸亥。二、壬戌。四、辛酉。六、庚申。八、己未。十、戊午。十二、丁巳の朔。閏正。二日、春分。

○魏、朔閏同じ。二日、春分。

○齊志に、九月丙午、太白、南斗を犯し、十一月庚子、羽林に入り、天關を犯す。又、八月戊辰、熒惑、大微に入り、九月戊申、熒惑、大微に歲と合し、十月丁丑、亢を犯し、十一月庚寅、氐を犯し、十二月己未、又、八月房を犯す。又、進賢を犯し、又、熒惑と軫度に合す。又、十二月辛巳、塡、建星を犯す。

唐寓之、帝と錢唐に稱す。帝、禁兵を遣はし、討ちて之を誅す。

○陳天福、抄掠するに坐して弃市せらる。

十

○楊後起卒し、從弟集始立つ。

○李冲の議を用ひて三長を置く。賦調始めて均し。

○穆亮等、柔然を擊たんと請ふ。帝、許さず。

○初めて五等の公服を制す。

○明堂・辟雍を作る。

○州郡を分置す。凡そ三十八州。

○魏志に、九月、熒惑・歲、合す。

彊圉單閼

齊。三、丙戌。五、乙酉。七、甲申。九、癸未。十一、壬午の朔。

○魏、同じ。

○齊志に、三月庚子、月食して氐に在り。九月戊戌、又、食して胃に在り。又、五月庚子、太白、畢を犯し、六月、東井を犯し、八月甲寅、軒轅に入る。又、二月乙亥、熒惑・塡、南斗の度に合す。九月乙未、熒惑、哭を犯す。又、二月癸卯、歲、進賢を犯す。十月己未、歲・辰・太白、丑に合す。七月癸亥、熒惑・塡、南斗に合す。

○魏志に、三月丁丑、太白、軒轅の大星を犯す。

五

范雲、文惠太子に謂ふ、當に稼穡の艱難を知り、一朝の宴逸に徇ふ無かるべしと。

○桓天生、司雍の蠻及び魏の兵を以て邊に寇す。

○陳顯達等に命じて之を討たしむ。

○戴僧靜、天生を深橋に破る。

○殷公愍、天生を舞陰に破る。

○天生復た魏の兵を以て入寇す。公愍、又、之を破る。

十一

樂章の・雅に非ざる者を除く。

○桓天生、兵を請ひて齊を伐つ。

○高允卒す、年九十八。

○公孫邃等、齊の舞陰を攻め、克たず。

○韓麒麟謂ふ、前世、粟を入るる者は、敵を斬ると罪を同じくすと。田を力むる者は、孝弟と賞を同じくすと。

○又云ふ、衣食、室に置しく、麗服、路に溢ると。

○詔して、民の・關を出でて食に就くを聽す。

○柔然の豆崙、殘暴にして、其忠臣を族す。

○柔然、邊に寇す。陸叡等、擊ちて之を破る。

○高車の阿伏至羅叛く。柔然の豆崙、之を擊ち、克たず。

○起部の無益の作を罷め、宮人の・機杼を執らざる者を出す。

○尚方の錦繡の工を罷む。

○御府の金帛・內庫の弓刀を出して、百司に班賚し、戍卒餘寡に至る。

○李彪・崔光、國書の編年を改めて紀傳と爲す。

○高祐謂ふ、盜賊も人なり。之を化するは、皇虎よりも易しと。

○祐謂ふ、選舉は宜しく治を識るを采り、專ら年勞を取らざるべしと。

著雍執徐

齊。正、辛巳。三、庚辰。六、己酉。八、戊申。十、丁未。十一、丙午の朔。閏十。十一、一日、冬至。○魏。正、辛巳。三、庚辰。六、己酉。八、戊申。閏九、丁未。十一、一丙午の朔。十一、日小雪。○齊志に、九月癸巳、月食して、婁の九度に在り。加時、寅の少弱に在り。虧くること東北に起り、十五分の十一を食す。又、四月辛酉、太白・熒惑、東井に合す。六月己巳、太白、右執法を犯し、七月癸巳、氐を犯し、八月乙亥、房を犯し、十一月戊午、歲尾に合し、十二月壬寅、塡と斗に合す。又、四月癸丑、熒惑・太白。辰、參度に合す。甲戌、熒惑・辰、東井に入る。閏四月己卯、熒惑、氐に入り、乙巳、房を犯す。曆を案ずるに、是歲、閏四月ならず、疑ふらくは誤なら。十一月丙寅、歲と尾に合す。又、二月甲申、歲、逆行して氐に入る。○魏志に、九月、月食し既く。

六

巴東王子響出で、繼ぎて本に還る。○桓天生復た魏の兵を以て、出でて隔城に據る。○曹虎、擊ちて之を破り、隔城及び平氏を取る。○陳顯達、魏を侵し、沘陽を攻め、克たず。○帝、穀帛至つて賤しきを以て、中外に令して錢を出して糴買せしむ。○顧憲之以爲へらく、便宜とは、公に便にして民に宜しきを謂ふなりと。

十二

詔す、死罪を犯すも、父祖、兼侍無き者は、以て聞せよと。○桓天生、齊を侵し、克たず。○齊の陳顯達、醴陽・沘陽に寇す。韋珍、拒ぎて之を破る。○淮南王它卒す。帝、祭を廢して之を哭す。○柔然の伊吾戍、來降す。○李彪、封事七條を上り、請ふ、制度を立て、太子を教へ、常平倉を置き、河表七州の人を擢で、父子兄弟、罪有らば、咎を引きて職を解かし、喪有る者は、戎事に非ざれば、皆、服を終ふることを聽さんと。○百濟を擊ち、克たず。

屠維大荒落

齊。正、乙巳。三、甲辰。五、癸卯。七、壬寅。十、辛未。十二、庚午の朔。○魏、同じ。○齊志に、八月丁亥、月食して、奎に在り。又、二月辛巳、太白、羽林に入り、十月癸酉、歲と箕度に合し、十一月丁卯、羽林に入る。又、二月丙子、熒惑・塡、牽牛に合す。三月戊辰、熒惑、從ひて羽林に入り、八月

七

王曼、便僻を以て寵有り。豫章王嶷・王儉、皆、之に下る。○王儉卒す。晏、其諡を改めて文憲と爲す。○儉謂ふ、徐孝嗣必ず宰相と爲らんと。帝に薦む。○豫章王嶷、第に還らんことを求む。○張緒、長沙王晃に謂ふ、身の家の州鄉なり。何ぞ逼らるるを得んやと。○上、紀僧眞に謂ふ、士大夫は、江斅・謝淪に由ると。

十三

初めて大駕を備ふ。○樓に升りて物を散じて以て窮民に賜ふを罷む。○汝陰王天賜・南安王楨、皆、贓に坐して死に當す。特に官爵を削りて禁錮す。○帝、貪者をして位を辭せしむ。○慕容契、自ら、退黜せんことを請ふ。○游明根、復た使を齊に通ぜんことを請ふ。

戊戌、逆に羽林に入り、羽林に入りて、九月乙丑、句己月に成す。又、十二月、壙・辰に須女戊戌に合す。○魏志に、十五日、二月乙亥朔、食し、十分の七を食し、丑月、八月に丙戌に在り。月食して未

上章敦牂

齊。二、己巳。四、戊辰。六、丁卯。八、丙寅。十、乙丑。十二、甲子の朔。○魏、同じ。○齊志に、六月戊子、東井に入り、八月、庚辰、軒轅を犯し、九月、丙申、太微を犯し、辛酉、進賢を犯し、十月乙亥、亢を犯し、十一月戊戌、入り、甲申、氐に及び、捷閉を犯し、又、熒惑と合す。又、四月丙申、熒惑、輿鬼に入り、十月乙亥、氐に入り、北落門に入り、十一月乙未、鉤鈐を犯す。又、三月庚申、歲、牽牛を守る。又、三月庚申、塡、吳星を守る。○魏志に、二月己未朔、雲氣班駁にして、十五分、又、太白三たび守る。是の歲、一を食す。熒惑を犯す。

八

○隔城の俘を魏に歸す。○安陸侯綯、劫を得れば赦遣し、再び犯せば乃ち之を誅す。○丘冠先、拜せず、伏連籌、崖下に投ず。○東王子響、擅に長史劉寅等を殺す。○巴郡靜、帝が兵を以て子響を討つを諫む。○臧僧、帝が江陵に至りて羣小を檢捕せしむ。○孔顗、錢鑄を請ふ。○顗謂ふ、錢は用ひ難く、累たること輕し。輕錢は盜鑄す、重錢は禍たること深し。○謂ふ、盜鑄、禁ずるに能はざるは、上の・銅を惜みて工を愛するに由ると。○又謂ふ、五銖の久しくして變ぜざるは、輕重宜しきを得るが故なりと。○帝、錄の巧僞の淮に戍する者を還す。○帝、西昌侯鸞の淮を以て選を領せしめんと欲す。王晏、之を沮む。

十四

○陽平玉牘、地豆干を破る。○樓龍兒、庫莫奚を破る。○吐谷渾、庾易侯卒し、子伏連籌立つ。○馮太后殂す。帝、勺飲も口に入れざること五日。○羣臣、楊椿諫む。乃ち一たび粥を進む。帝、游明根・高閭等と喪禮を論じ、衰を服するより甚に至る。○帝謂ふ、公卿・平日以爲へらく、治、唐虞に勝ると。今、喪に居るに及びて、乃ち漢・魏に踰えざらんと欲す。○又謂ふ、豈に豫め軍旅を念ひて喪紀を廢すべけんや。○太后、帝を幽し、單衣にして食を絕ち、之を廢せんと欲す。帝、初めより、憾むる意無し。○官者譖して、帝、杖を被る。帝、追怨せず。○詔して、且く政事を以て機衡を掌る者に任せ、疑有れば論決す。○高車の阿伏至羅及び窮奇、降を請ふ。

重光協洽

齊。三、癸巳。五、壬辰。七、辛卯。八、庚寅。十、己丑。十二、戊子の朔。○齊志に、七月辛卯、太白、微に入り、九月、乙亥、又、南斗を犯す。○魏、五月、壬辰。閏六月、庚寅。八月、辛卯。十月、己丑。十二月、戊子の朔。日、秋分。閏七月、己丑。八月、一日、暑。○齊處の朔、七月、太白、微に入り、九月、乙亥、又、南斗を犯す。三月甲午、熒惑・

九

○孔廟、帝后の嗜む所を薦め、家人の禮を以て、別に青溪宮に祭る。○王植、張杜の律を集定す。○孔稚珪、律の助教を僭かんと請ふ。○范縝、根純を以て林邑王と爲す。

十五

○帝始めて政を聽く。○齊の使、裴昭明等、朝服を以て入弔せんと欲す。○成淹、之を責め、易ふるに衣帽を以てす。○帝、始めて蔬食を進むれども、終日、飯せず。○帝、雨を祈らず。○李彪、齊に使して樂を辭す。○明堂を作る。○帝、親しく律令を定む。○李沖、忠謹を以て帝に任ぜらる。中外推服す。○長孫百年、吐谷渾を擊ち、二戍に克つ。○烈祖を嫌びて太祖と爲し、二祧を更定す。○六宗を別に兆を龍む。○禘壇を乾に移す。○禘祫を合はせて一と爲し、五年に一たび祭り、四時、雜祀の非禮の者を罷む。

塡す。○四月、癸亥、熒惑、羽林に入り、畢を閏七月辛酉、畢を犯す。八月十四日、應劭に伏して昴の三度に在るべきに、曆度に先だち、二十畢の一度に在り、逆行し、冬に立て、北に轉じ、垂んとして及ぶ。形色彌盛なり。二月壬午に盛に及びて、塡・歲・塡、閏七月辛酉、歲、泣星を犯し、又、塡と合す。○太白、七星の度に合す。又、七月丙子、庚戌に塡、逆に泣す。十月甲午、星を犯し、從ひて又犯す。○魏志に、正月癸酉晦、是月は、癸亥の晦なり。疑ふらくは誤なり。又、己酉、月食し、十二月に在り、月食し盡く。案ずるに辛卯の誤なふ。疑ふらくは望に非ず。癸卯の日、第庫、見錢無し。○武興の氐楊集始めて漢中に寇す。陰仲昌等、擊ちて之を走らす。○帝、沈約に命じて宋書を撰せしむ。袁粲の傳を立て、孝武・明帝の惡を諱む。○復た范諸農を以て林邑王と爲す。

○朝日夕月に朔朏を用ふ。○祥日を卜せず。○帝謂ふ、飄風旱氣は、皆、誠慕未だ濃かならざればなりと。帝、羣臣を饗す。樂懸りて而も作らず。○帝、和太小歲の朝より、主を新廟に遷す。○高麗王璉卒す。帝、賀を罷む。素委貌・布の深衣にて、其使者を見る。○樂官を簡置す。○苻承祖を除して悖義將軍・佞濁子と爲す。○承祖の姨、饋遺を受けず。罪を免るを得たり。

らん。

玄默涒灘

齊。二、丁亥。五、丙辰。七、乙卯。十一、九、甲寅。○魏、同じ。○齊志に、十二月癸丑の朔。十二月癸未朔、食す。未の初め、始めて西に虧け、十分の四を食し、申の時、北に復す。十二月、柳故に復す。○又、二月丁酉、食して、東に在り。亥の時、七分の二を食し、子の時、東に起り。○十一月乙丑、軒轅に入り、太白、羽林を犯し、三月乙酉、東井に入り、六月壬寅、太微に入る。

十

豫章王嶷の齋庫、火あり、貲直三千餘萬を燒く。○嶷、諸子に遺令す、才に優劣有り、位に貴賤有り、相陵侮するに足らずと。○嶷卒する日、第庫、見錢無し。○武興の氐楊集始めて漢中に寇す。陰仲昌等、擊ちて之を走らす。○帝、沈約に命じて宋書を撰せしむ。袁粲の傳を立て、孝武・明帝の惡を諱む。○復た范諸農を以て林邑王と爲す。

十六

帝初めて明堂に祀り、靈臺に登り、月に隨ひて朔を十二室に聽く。齊の使に命じて禮を觀しむ。○高閭、魏を以て秦を承けて土德と爲さんと欲す。李彪等、晉を承けて金德と爲さんと請ふ。之に從ふ。○宗室及び功臣の後、王に封ぜらるる者は、皆降して公と爲す。公は皆侯と爲す。獨り太祖の子孫及び長孫觀王は故の如し。○太極殿を作る。○帝初めて日に朝し月に夕す。○帝初めて堯・舜・禹・周公を祀る。○帝親ら孔子を中書省に祀る。○西郊に壇を蹐み天を繞るを謂む。○吐谷渾王伏連籌、詔を受くるに不恭なり、羣臣、之を討たんと請ふ。帝、許さず。仍ほ其俘を歸す。伏連籌、世子を遣はして入朝せしむ。○伏連籌、宕昌を攻めんと欲す。張禮、之を禁ず。○宋弁謂ふ、齊主、身を沒するを得ば、幸なりと。○陽平王頠・陸叡、柔然を擊ち、大に之を破る。○柔然の人、豆崙を弑し、其叔父那蓋を立つ。○帝、養老の禮を行ひ、尉元を以て三老と爲し、游明根を以て五更と爲す。○帝、再期を以て永固陵に哭し、終日、聲を絕たず。二日、食はず。○李元凱曰はく、江北、好臣無く、百年に一たび主を易ふと。○帝、鄭義に諡して文靈と爲す。

昭陽作噩

齊。正、壬子。三、辛亥。五、庚戌。七、己酉。十、戊寅。十二、丁丑の朔。

○魏志に、同じ。○齊太白、正月戊辰に合す。○歲、奎・東井を犯し、太白、東井を犯し、四月戊子、辛丑、五諸侯を犯し、輿鬼に入り、十月丙戌、進賢を犯し、十二月戊戌、氐に入り、十二月壬辰、南斗を犯し、辛丑、西建の東星を犯す。又、二月戊戌、營室に合し、五月戊午、歲と婁に合し、八月辛巳、十一月丁丑に入り、諸侯を犯す。○魏志に、六月庚辰朔、食す。甲午、女に在り。太白・歲、危に合す。

十一

陳顯達、晉安王子懋の謀を折く。○蕭衍、鬱の爲めに畫策し、隨王子隆を召す。○帝、錢九を見て曰はく、今日、汝を用ふるを得るや未だしやと。三億萬を用ひて、盡くるに亟なんとす。○諸姬をして寶器を以て相擊たしむ。○帝、鄱陽王鏘と、西昌侯鬱を誅せんことを謀る。鏘、以て不可と爲す。蕭諶・蕭坦之が祖父の舊人なるを以て、之を親信す。○帝、禁ぜず。○何后、楊珉に私す。○鬱、坦之を遣はして奏して珉を誅せしむ。○鬱、又、徐龍駒を殺す。○帝、狂縱にして悛めざるを以て、更に鬱・坦之を廢立を勸む。○鬱、又、周奉叔・蔡母珍之・杜文謙を殺す。○帝、晏・徐孝嗣、鬱を誅せんことを謀り、果さず。○樂豫、孝嗣に謂ふ、皆、鬱と謀を合はす。人、褚公を笑ひ、今に至るまで齒冷かなりと。○鬱、諶等と、兵を引きて宮に入り、帝を取へて之を弑す。○法太微に入り、五月丁酉、右執法を犯す。○又、正月丙戌、辰・太白、危に合す。○魏志に、四月庚申、月食して斗に在り。

十七

上始めて籍田を耕す。○馮后を立つ。○帝、馮熙に命じ、上書するに臣とせざらしむ。○熙、敢て從はず。○上、四廟の子孫を宴し、親しく之と齒す。○上、公卿に命じて、日中以前は先づ自ら論議し、日中以後は共に之を決せしむ。○帝、都を遷さんと欲し、先づ大舉して南伐す。○任城王澄曰はく、臣は社稷の臣たり。以て言はざる可からず。○澄曰はく、陛下、聖心より斷ぜば、彼亦何ぞ能く爲す所あらんや。○盧淵、親征するを諫む。○太子恂を立つ。○帝、自ら三十餘萬に將として齊を伐つ。○帝、軍を行りて盜に遇ふ。之を赦さんと欲す。○王襲、安定王休、執りて不可とす。民に敎へて銘を立てしむ。號二等を降す。○帝、洛陽の石經を觀る。○鄧至王像舒彭、位を以て子に傳へんと請ふ。○帝、平城を發し、洛陽に至る。霖雨、止まず。○帝、鞭を執り馬に乘りて出づ。羣臣稽顙して固く諫む。○帝、乃ち遷都の計を定む。○支酉、于烈、謂ふ、深く不言の益を感ず。○關中に反す。盧淵等、討ちて之を平ぐ。○穆亮等に命じて、洛都を營ましむ。○齊來奔す。帝、之と語り、或は夜分に至り、相得るの晚き を恨む。○帝、徙りて鄴宮に居る。

閼逢閹茂

齊。二、丙子。四、乙亥。五、甲戌。七、癸酉。九、辛未。二、壬申。十一、庚寅。閏四、己丑。朔。夏至。○魏。二、丙子。閏三、甲戌。七、乙亥。五、癸酉。九、壬申。十一、辛未。朔。○齊志に、五月甲朔、日小滿。○齊志に、戊朔、一日食す。○時、午の時、故に復す。又、三月乙丑、熒惑、興鬼に入り、軒轅に入り、五月丁酉、太微に入り、又、右執法を犯す。○月丙戌、辰・太白、危に合す。○魏志に、四月庚申、月食して斗に在り。

齊高宗鬱建武元

陳顯達、晉安王子懋の謀を折く。○蕭衍、鬱の爲めに畫策し、隨王子隆を召す。○帝、錢九を見て曰はく、今日、汝を用ふるを得るや未だしやと。三億萬を用ひて、盡くるに亟なんとす。○諸姬をして寶器を以て相擊たしむ。○帝、鄱陽王鏘と、西昌侯鬱を誅せんことを謀る。鏘、以て不可と爲す。蕭諶・蕭坦之が祖父の舊人なるを以て、之を親信す。○楊珉に私す。○帝、禁ぜず。○何后、楊珉を遣はして奏して珉を誅せしむ。○鬱、又、徐龍駒を殺す。○帝、狂縱にして悛めざるを以て、更に鬱・坦之を廢立を勸む。○鬱、又、周奉叔・蔡母珍之・杜文謙を殺す。○帝、晏・徐孝嗣、鬱を誅せんことを謀り、果さず。○樂豫、孝嗣に謂ふ、皆、鬱と謀を合はす。人、褚公を笑ひ、今に至るまで齒冷かなりと。○鬱、諶等と、兵を引きて宮に入り、帝を取へて之を弑す。○法太微に入り、五月丁酉、右執法を犯す。○又、正月丙戌、辰・太白、危に合す。○魏志に、四月庚申、月食して斗に在り。

十八

○韓、顯宗、三齊を幸するを諫む。○帝、比干の墓を祭る。○帝、神を嘗めて、性を養はしむ。○又、謂ふ、士を擇ぶべし。宜しく專ら門望を取るべかるべしと。○又、謂ふ、羣臣、嚴酷を以て相尚ぶ。是れ堯舜すべしと。○又、謂ふ、代都は宜しく廢して郡國に同じくすべからずと。○又、謂ふ、衣冠と工伎とは、宜しく雜處すべからずと。○又、賞賚の太だ厚きを諫む。○帝、謂ふ、至人が未然を知るは龜よりも蓍かなりと。○帝、謂ふ、平城に如き、遷留を部分す。○帝、使人は和を以て貴しと爲す。迭に相矜して命かを將ふの體を失ふ勿れと。○帝、北のかた六鎭を巡る。○詔して三載に一考し、卽ち黜陟を行ふ。○陸叡、謂ふ、金日磾、漢に仕へすんば、安ぞ七世まで名を知らるることを得んやと。○蠻民に詔して、齊の境を暴掠するを得る毋らしむ。○宇文福、代の畜を石濟の西に徙し、乘失する無し。○薛眞度等、四道より齊を伐つ。

○孔琇之、食はずして死す。○謝朏、弟瀹に謂ふ、力めて酒を飲み、人事に豫る勿れと。○桂陽王鑠謂ふ、錄公、見接慇懃にして、而も愧づる色有り。必ず將に我を殺さんとすと。○江夏王鋒曰はく、遙光が殿下に於けるは、猶ほ殿下が高皇に於けるがごとしと。○巴陵王子倫、衣冠を正しくして、出でて詔を受く。

○諸王、皆、典籤の手に死す。○海陵王、蒸魚を食はんことを思ひ、得る能はず。○太后令して、海陵王を廢し、鸞を以て入りて太祖を纂がしめ、第三子と爲す。吾當に別館に歸老すべしと。○虞悰、佐命に豫るを願はず。○謝瀹謂ふ、王晏、天功を叨みて己の力と爲すと。○邑宰の貢獻を斷つ。○帝、始安王遙光を以て楊州に居らしむ。遙欣、上流を鎮撫す。○太子賓客を立つ。○詔して、致仕窮困する者、舊に依りて銓敍す。○誅する所の諸王の子を封じて侯と爲す。○海陵王を殺す。○魏人、徐・豫・司・梁の四州に寇す。

○盧淵、曹虎が周魴と爲らんことを恐る。○士民の胡服するを禁ず。○帝、劉芳・郭祚を親重し、舊臣を慰諭す。○高閭、齊を伐つを諫む。○任城王澄謂ふ、新遷の民は宜しく休息すべし。樊灑を平ぐるを待ちて親征するも、未だ晚からじと。○澄、穆亮を面折す。○帝、懸瓠に至る。○獲る所の齊の男女を放還す。

旃蒙大淵獻

齊。二、庚子。四、己亥、六、戊戌。八、丁酉。十、丙申。十二、乙未の朔。○魏、同じ。○魏志に、六月壬寅、熒惑、端門を犯す。○齊の張沖入寇し、數城を拔く。○帝、馮誕・鍾離に至り、乃ち還る。南のかた江に臨まんと欲す。○使を遣はして江に臨み、齊主の罪惡を數む。○帝、淮南に於て戍を置かんと欲す。高閭諫めて以爲へらく、大鎭未だ平がざるに、小戍益無し。帝、徒らに敵に禽を遺らんのみと。○陸叡、帝に早く還らんことを請ふ。○癸康生、淮南に留まりて殿を爲す。○楊播、蒸豆を食ふ。○盧昶、平陽公丕、帝に熙の喪に臨まんと請ふ。○馮熙卒す。○帝、令僕以下を貶す。○魏公英、兵を井せて蕭鑾の一營を敗る。四營皆走る。英、遂に南鄭を圍む。○英、將に還らんとして、○李英、討ちて叛氏を平ぐ。○帝、雍・涇・岐の三州の兵を發して南鄭に戍せんと欲す。○李沖謂ふ、東道未だ近力を以て固む可からず。西藩寧ぞ遠兵を以て守る可けんやと。○帝、親しく孔子を祠り、其後を封ず。○帝、河に泝りて洛に入る。○薛眞度等、赭陽を攻め、齊の垣歷生に敗らる。○帝、眞度を貶し、而して其爵を存して曰はく、進みては功を明かにするに足り、退きては罪を彰すに足ると。初めて王公の喪に臨むの制を定む。○李彪、趙郡王幹を彈す。帝、之を杖つ。○羣臣の・朝に北語するを禁ず。○遣書を求む。○詔して、代人の・洛に遷る者は、歸葬する を得ず、河南の人と爲らしむ。○長尺・大斗を行ふ。

十九

○劉昶・王肅、義陽を攻む。○淮北の人の侵掠を禁ず。○陽固、志意閑にして、敵に臨みて勇なり。○帝、壽陽に至り、八公山に登りて詩を賦す。○雨に遇ひて蓋を去る。○帝、淮に循ひて東し、侵掠するを禁ず。民皆悅附す。○劉昶・王肅、蕭誕に敗らる。

出づ。

二

○王廣之等を遣はして魏を拒がしむ。○魏主、壽陽に至る。○崔慶遠謂ふ、和親せば則ち生民、福を蒙らんと。○蕭衍、義陽を救ひ、蕭誕と、魏の軍を夾擊し、之を破る。○張沖等、魏の數城を拔く。○魏主、鍾離に至りて還る。張欣泰謂ふ、邵陽城を築くは、我が其後を躡まんことを懼るるなりと。○欣泰謂ふ、邵陽の歸兵は過む可からずと。○蕭穎胄、民を徙さず。○沈文季、門を開きて嚴備す。○拓跋英、南鄭を圍む。庾域、空倉を指して將士に示す。○拓跋鸞等、赭陽を攻む。○蕭諶、怨言有り。○帝、之を殺し、其兄弟に及ぶ。太子の褚妃を納る。

柔兆困敦		齊。二、甲午。五、癸亥。七、壬戌。九、辛酉。十一、庚申の閏。十二、己未の朔。○魏。二、甲午。五、癸亥。七、壬戌。九、辛酉。十二、十一、庚申。己未の朔。閏十一。
三		○帝、襄蒸を四破し、阜莢の餘業を收む。○帝、酒鍋を壞らんと欲す。蕭穎胄謂ふ、宜しく宴器に移すべしと。○鍾嶸、細務を親らするを諫む。○魏の薛法護、來降す。
二十		帝、姓を元氏と改め、幷に功臣の姓の複重する者を改む。○望族の女を後宮に納る。○諸州及び代人の姓族の高下を定む。○望族の女を納れて王妃と爲す。○薛宗起、郡姓に入らざるを以て、戟を庭に碎く。○李沖謂ふ、官を張り位に列するは、膏粱の爲めならず。傅說・呂望は、豈に門地を以て之を得可けんやと。

		十二、一日、大寒。○魏志に、九月庚寅晦、食す。十月丙午、月食し、畢に在り。
彊圉赤奮若		齊。二、戊午。四、丁巳。六、丙辰。九、乙酉。十一、甲申の朔。正、一日、雨水。○魏、同じ。○魏志に、十月壬午、熒惑・歲、端門の內に合す。
四		王晏、反覆輕淺にして防無きを以て誅せらる。○王思遠謂ふ、晏、自裁せば、今猶ほ未だ晚からじと。○阮孝緒謂ふ、親にして而も黨せず、何ぞ懼れんやと。○魏主、雍州に寇し、南陽を攻む。○房伯玉云ふ、將士を厲まし、以て職業を脩む。○應に責を垂るべからずと。○魏主、新野を圍む。劉思忌云ふ。兵食猶ほ多し。未だ汝小虜の語に從ふに暇あらずと。
二十一		○李彪謂ふ、魯の三卿は、四科に執若ぞやと。○韓顯宗謂ふ、豈に貴を以て貴を襲ひ、賤を以て賤を襲ふ可けんやと。○國老・庶老、皆、守令を假す。○薛法護、齊に降る。○方澤を河陰に營む。○馮后を譖し、之を廢す。○馮昭儀、馮后を譖し、之を廢す。○帝、久しく旱するを以て、三日、食はず。○太子恂、叛を謀る。平城に歸り、杖ちて之を囚ふ。○癸康生、吐京胡を破る。○帝、元彬に謂ふ、先づ刺史を斬り、乃ち兵を發す可しと。○太子恂を廢す。○穆泰・陸叡等、南遷を樂しまずして反を謀る。○帝、任城王澄をして討たしめ、之を禽にす。○帝、齊を伐たんことを議す。李沖、來秋を俟たんと請ふ。○崔挺、邊に戍して亡ぐる者は闔門・役に充つるを諫む。

太子恪を立つ。○任城王澄、穆陸の黨を案ず。一人も免を稱する無し。○新興公丕獨り衆座に胡服す。○陸叡、李沖・于烈と同じく、不死の詔を受く。○北方の酋長の侍子の秋朝し春還るを聽し、之を鴈臣と謂ふ。○李彪奏す、太子恂復た反を謀ると。死を賜ふ。

著雍攝提格

齊。正、癸未。三、壬午。五、辛巳。七、庚辰。九、己卯。十一、戊寅の朔。

○魏、同じ。

○魏志に、二月丁卯、月食し、角に在り。又、二月乙丑、歲・熒惑、披門內に合し、三月丙午、俱に出づ。

永泰元

魏、新野を拔く。劉思忌、降らずして死す。沔北大に震ひ、湖陽・赭陽・舞陰・南鄉の諸戍、皆、遁れ還る。

○帝、高武の子孫の日に益〻長大なるを嘆ず。陳顯達謂ふ、此等豈に介慮するに足らんやと。

○始安王遙光、帝に勸め、次を以て施行せしむ。

○上疾甚だし。河東等の十王を殺す。

○魏、南陽を拔く。房伯玉、之に降る。

○崔慧景・蕭衍、魏と戰ひ、大に鄧城に敗る。

○魏の裴叔業、魏を渦陽に圍む。廣陵王羽及び傅永等を敗る。

○肅、渦陽を救ふ。叔業退きて渦口を保つ。

○王仲雄、懊憹歌を作る。

○王敬則、猜懼して反を謀る。丁興懷曰はく、官祇だ應に作すこと爾るべしと。

○劉昶卒す。

○穆亮、位を遜る。

○馮后、母として太子恪を養ふ。

○帝、彭城王勰に謂ふ、二曹、才名を以て相忌む。吾、汝と遙德を以て相親まんと。

○楊靈珍、南梁州を以て齊に降り、襲ひて武興を取る。

○帝、自らを將として齊の南陽を攻む。

○李崇、大に楊靈珍を破り、復た武興を取る。

○帝、崇・新野を圍む。

○韓顯宗、露布を作らす。

○高昌王馬儒、內徙せんことを求む。國人、樂まず、儒を殺して麴嘉を立つ。

二十二

齊の新野・湖陽・赭陽・舞陰・南鄉を拔く。

○又、齊の南陽を拔く。房伯玉降る。之を赦す。

○齊の崔慧景・蕭衍を鄧城に敗る。

○帝、樊城を圍み、沔に臨みて還り、遂に懸瓠に如く。

○王肅、齊の義陽を攻め、克たず。

○齊の裴叔業、孟表を渦陽に圍む。廣陵王羽・傅永等、之を救ひ、皆敗る。

○肅、復た兵を請ひて渦陽を救はんとす。帝、之を責む。肅自ら渦陽を救ふ。叔業敗れ退く。

○李彪、沖と、俱に留守し、協ばす。沖、之を禁じ、僕射亦滿つと。帝謂ふ、道固は誠に溢れ、忽恚して疾を得て卒す。

○沖、彭城王勰を以て宗師と爲し、兵二十萬を發し、秋期を期して懸瓠に集らしむ。

屠維單閼

齊。二、丁未。四、丙午。六、乙巳。八、甲辰。九、癸卯。十一、壬寅の朔。閏八。九、一日、霜降。

○魏。二日、霜降。

○齊志に、八月己未、月食し、既く。

○魏志に、二月壬戌、月食して軫に在り。

○王公林曰はく、凡そ事、皆、悔ゆ可し。唯だ此のみ悔ゆ可からずと。

○帝、盡く諸王侯を誅せんと欲す。南康侯子恪自ら歸す。乃ち止む。

○敬則、舊將を以て事を舉ぐ。百姓隨ふ者十餘萬。

○左仲孚、濱水を瀉ぎて以て其の進むを阻む。

○興盛等、濱水を瀉ぎて以て其の進むを阻む。

○王瞻謂ふ、愚民は動かし易し。法を窮むるに足らずと。

○沈約謂ふ、讓は人情に出づ、豈に官の大小に關せんやと。

○蕭衍、雍州の刺史と爲る。

○帝、殂す。

○帝、東出すれば西と云ひ、南出すれば北と云ふ。

○太子、東、位に卽く。羊闡の幘脫す。帝、哭すること輟めて大に笑ふ。

○褚后を立つ。

齊東昏侯寶卷永元元

陳顯達・崔慧景等、魏を擊つ。

○顯達、馬圈に克ち、慧景、順陽を圍む。

○魏主、馬圈に至る。陳顯達敗れ、慧景退く。

○馮道根、顯達に說き、船を弃てて陸進せしむ。

○太子詢を立つ。

○始安王遙光等の六貴、事を用ふ。蕭衍、朝廷將に亂れんとするを知り、陰に張弘策と武備を脩む。

○呂僧珍、私に檣數百張を具ふ。

○衍、弘策をして蕭懿に說かしめ、郢雍を以て朝廷を拒がしむ。從はず。意を行はんと欲す。江祏・江祀、之を制す。

○帝、廢して江夏王寶玄を立てんことを謀り、劉暄、延安王寶寅を立てんと欲し、始安王遙光、自ら取らんと欲す。

○蕭坦之以爲へらく、次に非す。恐らくは人、服

二十三

齊の陳顯達・崔慧景等、入寇す。

○帝、李沖の冢を望みて泣く。

○帝、任城王澄を責むるに、胡俗を變ずる能はざるを以てす。

○令史、李彪が太子恂の手書を匿すを告ぐ。

○馮后、高菩薩に私し、具に厭禱を爲す。斥けて後宮に居らしむ。

○崔光謂ふ、馮氏終に衰敗せんと。

○齊の陳顯達、馬圈を拔き、崔慧景、順陽を圍む。帝自ら將として之を救ふ。側を離れず。

○彭城王勰醫藥に侍し、晝夜、帶を解く。

○勰に命じて中外を都督せしむ。

○帝、馬圈に至る。顯達、敗走す。順陽の圍も亦解く。

○馮后に自盡を賜ふ。

○勰、政を輔くるを辭し、以爲へらく、陛下、

○謝朓、祏の謀を泄し、坐して死す。
○喧、祏の謀を發く。帝、祏・祀を誅す。
○遙光、陽狂して東府に還り、城に據りて反す。
○垣歷生、臺城を夜攻し、及び軍を出さんことを勸む。
○徐孝嗣・遙光、皆、聽かず、自ら變有らんことを冀ふ。
○孝嗣、宮に入る、衆情乃ち安んず。
○沈文季と、世事を論ず。文季引くに它辭を以てす。
○坦之等、遙光を攻め、之を斬る。
○夏侯祥、潘紹を斬り、荆州、安きを獲。
○魏の沈陵、來降す。
○嘉坦之・劉喧・曹虎を誅す。
○帝、嘉坦之・劉喧・曹虎を誅す。
○高宗、事を作すこと、人後に在る可からず。
○劉季連、嚴酷なり。蜀人、之に叛く。
○許準、徐孝嗣に廢立を勸む。孝嗣疑ひて、決せず。帝、沈文季を并せて之を誅す。沈昭略、孝嗣を罵りて死す。
○陳顯達、枕に枕して死せんと乞ひ、老を告ぐ。許さず。顯達、尋陽に舉ぐ。崔慧景等に命じて之を拒がしむ。
○顯達、勝に乘じて宮城を襲ひ、西州の前に至り、敗死す。
○庾弘遠、帽を著けて死す。
○帝、出づる毎に、長圍を作して屏除す。
○帝、齋上に白虎幢を擔ふ。
○逐馬左右を置き、市里を周遊す。

○北海王詳等六人、遺詔を受けて政を輔く。
○帝、穀塘原に殂す。
○帝、諸弟を友愛し、始終、間無し。
○帝謂ふ、人主能く公平にして誠を推さば、胡越も兄弟と爲る可しと。
○郊廟は必ず親らす。
○道を脩むるに、草を除きて剗平せしめず。
○淮南に軍を行り、樹を伐れば、絹を留めて之を償ふ。
○能く指を以て羊骨を碎けども、殺を止めて、獵せず。
○謂ふ、史、惡を書せずんば、人君何の畏忌する所あらんやと。
○司徒鄧等、祕して・喪を發せず、密に于烈に告げ、太子を迎へ、魯陽に至り、位に卽かしむ。
○鄧、咸陽王禧に謂ひて曰はく、彥和、蛇を操り虎に騎り、艱難を覺えずと。
○馮后死す。
○高祖既に葬る。鄧、位を辭し、出でて定州と爲る。
○任城王澄、擅に王肅を禁ず。坐して官を免ぜらる。
○高后を追尊す。高肇始めて貴し。
○盧淵、沈陵が將に叛かんとするを知り、密に備を爲す。又、其餘黨を赦す。
○元匡、帝が茹皓を引きて車を同じくするを諫む。
○王肅・官品を制す。皆、江南の如し。
○郭祚、選を典る。徘徊して筆を下して曰はく、此人は貴しと。

臣を愛すること、未だ始終の美を盡さずと。帝、太子に敕して、鄧が位を辭するを聽さしむ。

上章執徐

齊。正、辛丑。四、庚午。六、己巳。十、丁卯。十二、丙寅の朔。
○魏、同じ。
○魏志に、正月辛丑朔、食す。七月己亥朔、又食す。
又、正月丙辰、月、十五分の三を食して、翼に在り。

二

裴叔業、豫州を以て魏に附かんと欲す。蕭衍勸む、家を遣りて建康に還らしめよ。不ずんば則ち馬・步二萬を勒して直に橫江に出でよと。
○叔業、州を以て魏に降る。
○叔業、巴西に過る。李奉伯、擊ちて之を斬る。
○雍道晞、合肥・建安等の城を取り、淮南を略定す。
○魏の彭城王勰、
○崔慧景、壽陽を討ち、廣陵に至り、兵を還して建康に向ふ。江夏王寶玄、京口を以て之に應ず。
○張佛護等戰死す。
○慧景、左興盛を殺し、宮城を圍む。
○帝密に蕭懿を召す。懿、兵を引きて入りて援く。
○慧景、高談を好む。崔恭祖、崔慆と功を爭ひ、其謀を用ひず、城に詣りて降る。
○慧景を怨み、且つ慧景、敗走して死す。
○慧景、士民多く寶玄に投ず。帝悉く其名を焚く。
○步鄣を以て寶玄を裹む。
○荒民、「王肅、降らんと欲す」と稱す。詔して豫州の刺史に除す。
○赦後、嬖倖、富家を誣ひて賊黨と爲す。再赦、又然り。
○徐世瀏、貨主の惡を稱す。
○帝、嬖倖を呼びて阿丈・阿兄と爲し、數〻刀敕の家に往き、遊宴慶弔す。
○王張子、天子を詆訶す。
○陳伯之、再び壽陽を討ち、魏の傅永と肥口に戰ひ、敗れ還る。
○後宮、火あり。帝、重斂して以て宮室を修め、夜を以て晝に繼ぐ。
○茹法珍等、蕭懿を譖し、之を殺す。
○或るひと懿に勸めて襄陽に奔らしむ。懿曰はく、豈に叛走する尙書令有らんやと。

魏世宗恪景明元

齊の裴叔業、壽陽を以て來降す。彭城王勰等に命じて、兵を將あて之に應ぜしむ。
○叔業卒す。兄の子植代りて其衆を領す。
○癸康生、壽陽を安集し、以て援軍を待つ。
○勰、合肥・建安等の城を取り、淮南を略定す。
○太陽變田育丘等來降す。吐谷渾の伏連籌、魏に事へて禮を盡し、而して其國に僭し、制を四鄰に稱す。帝責めて而も之を赦す。
○齊の陳伯之、壽陽に寇す。傅永、汝陰の兵を以て之を救ひ、彭城王勰と與に擊ちて伯之を肥口に破る。
○彭城王勰、勢利を樂しまず。
○甄琛、鹽禁を弛べんと乞ふ。勰、邢巒と與に、以て不可と爲して曰はく、所謂天地の產を資りて、天地の民を惠むと。
○楊椿、楊集始に書を遺る。集始、來降す。

○帝、鄒植を以て衍に告ぐ。植の弟紹叔、衍、兵を襄陽に舉ぐ。

○○帝、劉山陽を襄陽に遣して蕭穎胄に敕して荆州の兵を以て衍を襲はしむ。衍、王天虎を遣して穎胄に書を遺らし、天虎口具すと云ひ、而して穎胄には言無し。

○○穎胄、南康王寶融を奉じて、兵を江陵に舉ぐ。

○○穎胄、心を虛しくして、宗夬等に委す。衍、以て不可と爲す。

○宣德太后の命を以て、寶融を相國に進め、宣城王に封ず。曹景宗・王茂、許さず。衍、南康王を迎へて襄陽に置かんと欲す。

○○韋叡・康絢・馮道根・柳惔、皆、兵を起して衍に應ず。

○○房僧寄、魯山を守らんと請ふ。

○○鄧元起、武寧を以て衍に應ず。

○楊公則、湘州を擊ち、之を取る。

重光大荒落

齊。二、乙丑。四、甲子。六、癸亥。九、壬辰。十一、辛卯の朔。同じ。

○○魏志に、七月癸巳朔、食す。又、正月己未、太白・熒惑、奎に合す。三月戊午、塡、井に合す。八月戊午、太白・熒惑、翼に合す。

齊和帝寶融中興元

○南康王始めて相國と稱す。

○蕭衍、襄陽を發す。

○蕭偉・蕭憺、裴師仁・顏僧都を破り、以て雍州を安んず。

○衍、兵を分ちて郢・魯山の兩城を圍み、以て雍の兵糧の道を通じて曰はく、天下、以て荆・取る可しと。

○張沖卒す。薛元嗣代りて郢城を守る。

○○王、位に江陵に卽き、郊廟を立つ。

○遙に東晉侯を封じて涪陵王と爲す。

○魯休烈・蕭惠訓、兵を擧げて蕭穎胄を擊つ。穎胄、劉孝慶・任漾之等をして之を拒がしむ。

○東晉、吳子陽等十三軍を遣はして郢州を救はしむ。

○穎胄、救を魏に請はんと欲す。衍曰はく、攻取は、但だ以て付せられよ。捷たざるを患ふる無し。

○但だ鎭軍が之を靜鎭するを借るのみと。

○吳子陽、加湖に屯し、郢城と、火を擧げて相應ずれども、相救ふ能はず。

○房僧寄、卒す。張樂、祖代りて魯山を守る。

○○蕭穎胄、自ら市の廬陵より起り、范僧簡、安城を拔く。

○○晉、東宗を爲して之を縛し、高祖を爲して之を斬る。

○○蓋欣泰等、諸璧倖を誅し、東昏を廢し、延安王寶寅を立てんことを謀り、杜姥宅に及びて潰ゆ。

○王茂等、吳子陽を加湖に襲ひ、破りて之を走らす。

○魯山・郢城、相繼ぎて降る。

○房長瑜、張孜に謂ふ、當に幅巾して命下るを待ちて使君に從ふべしと。

○韋叡、郢を守り、死か癒め生を撫す。

○張弘策・庾域、衍に勸めて、直に建康を指さしむ。

○衍、司州を取る。

○崔偃、父及び江夏王の爲めに寃を訟へて死す。

○衍曰はく、兵を用ふるは未だ必ずしも實力ならず。聽く所は威聲なりと。人をして陳伯之を說き下さしむ。

○伯之云ふ、軍未だ遽に下るを須ひずと。衍直に往きて之に逼る。

○席謙曰はく、我家世〻忠貞なり。隕つる有らんも二せずと。

○魯休烈等、任漾之を殺す。穎胄、兵を召して自らを救はんと欲す。衍、可かず。

○衍、姑孰に克つ。

○于后を立つ。

○北海王詳、司徒と爲る。

○于忠、王遇が公を損して私を惠むを責む。

○又謂ふ、若し應に王の手に死すべくば、避くるも亦免れじと。

○圓丘を伊陽に遷す。

○源懷、蕭衍が未だ建康に克たざるに乘じて江南を取らんと請ふ。

○田益宗・元英、間に乘じて義陽を取らんと請ふ。

二

咸陽王禧、驕奢貪淫なり。

○于烈、禧に羽林を與へず。

○北海王詳、彭城王勰を譖す。

○帝、于烈をして兵を以て禧等を召さしめ、其政を奪ふ。

○帝始めて政を親らす。嬖臣趙脩等、事を用ふ。

○廣陵王羽、勰に代りて司徒と爲る。固辭す。

○○帝、北邙に獵す。禧、反を謀りて誅せらる。

○○廣陽王嘉、洛陽に三百餘坊を築く。

○東昏、江・郢の陷るを聞けども、遊騁すること舊の如し。
○曹景宗、李居士を江寧に破り、諸軍、進みて建康を圍む。
○王寶孫、諸將を罵る。席豪、陳を突きて死す。
○王茂等、王珍國を朱雀の南航に敗り、遂に進みて宮城を圍む。
○衍、降者をして陳伯之を詐らしめて云ふ、城中、其手足を斷たんと欲すと。
○徐元瑜・桓和・李居士、皆降る。楊公則、矢、胡牀を貫く。曰はく、幾ど吾が脚に中らんとすと。
○公則、湘州の怯兵を將ゐて、克獲すること更に多し。
○京口・廣陵・瓜步、皆降る。
○蕭穎胄卒す。夏侯詳、蕭僧を迎へて軍國に與參せしめ、又、荆州を以て僧に讓る。
○東昏、蔣子文を尊びて靈帝と爲す。
○又、好みて宮人・宦者と軍陣の戲を爲し、創を被りて輿し去らるを作す。
○又、太官に敕しして檇米を辦ぜしめ、百日の調を爲す。
○茹法珍、士民の逃潰せんことを恐れ、城を閉ぢ、兵を出さず。故に長圍、成るを得。
○東昏、金錢を惜みて曰はく、賊來り、獨り我を取らんやと。
○又、金銀の雕鏤、倍〻常よりも急なり。衆、怨怠し、用を爲さず。
○王珍國・張稷、兵を引きて殿に入り、東昏を弑し、首を蕭衍に送る。
○王志、挼みて樹葉を服し、牖に名を署せず。衍謂ふ、王亮、顯して而も扶けずと。
○楊公則、親ら公卿士民を衞送す。
○馬仙琕、衍の使を戮し、運道を鈔す。
○東昏侯を追廢す。
○衍、虐政を除き、滯訟を理め、事に死せしものを葬り、逆徒を赦む。
○袁昂、吳興を守り、下らず。
○劉坦、城を開き、以て鍾玄紹を疑はず。
○王僧粲潰え、湘州平ぐ。

玄黓敦牂

梁。正、庚寅。三、己丑。五、戊子。閏六、丁亥。八、丙戌。十、乙酉の朔。
○魏。正、庚寅。三、己丑。五、戊子。六、丁亥。八、丙戌。十、乙酉の朔。閏五。六、二日、大暑。
○隋志。八月壬寅、熒惑、南斗を守る。
○魏志に、七月丁巳朔、食す。十一月己巳、月食盡して井に在り。又、熒惑、房を犯す。癸巳、塡、逆行して井を守る。三月、太白・辰、須女に合す。

梁高祖衍天監元

宣德太后を迎へて朝に臨ましむ。范雲・沈約・任昉を引きて腹心と爲す。
○約曰はく、公、牙を樊沔に建つ。此時、應に思ふべし。今、王業已に成る。何ぞ復た思ふ所あらんやと。
○又曰はく、若し天子、都に還らば、君臣の分定まらんや。豈に復た人の、公に同じく賊を作すものあらんやと。
○約、雲を給きて先づ入る。
○位を相國に進め、百揆を綜べ、梁公に封ぜられ、九錫を備ふ。
○湘東王寶晊を殺す。
○梁國、百官を置く。
○范雲、余氏を納るるを諫む。
○封を梁王に進めらる。
○邵陵王寶攸等を殺す。
○顏文智等、牆を穿ちて鄱陽王寶寅を奉じて魏に奔る。
○蕭僧、荆州に鎭す。民、皆、安悅す。
○和帝歸りて姑孰に至り、位を梁に禪る。
○宣德太后、軒に臨み、使を遣はして璽紱を授けしめ、別宮に遜る。
○梁王、帝位に卽き、和帝を奉じて巴陵王と爲し、一日を間て之を殺す。
○顏見遠、食はずして卒す。
○蕭寶義を以て巴陵王と爲す。
○帝、南康侯子恪に謂ひて曰はく、宋の孝武は猜

三

齊の蕭寶寅、來奔す。
○魯陽の蠻、潁州に寇す。
○李崇擊ちて、叛蠻を滅ぼす。
○梁の陳伯之、來奔す。
○元丕を以て三老と爲す。
○范紹謂ふ、兵有るも糧無くば、何を以て敵に克たんと。
○洛陽の宮殿始めて成る。
○高肇、張彝と、公主に尙するを爭ひ、彝を譖す。沈廢すること累年。

忌多く、卿の祖、材異を以て疑はれ、而も之を如何ともする無かりき。湘東、凡愚を以て、免るを獲、而して子孫、其手に死せりと。○又曰はく、齊梁、革命すと云ふと雖も、宗室未だ遠からず、卿兄弟果して天命有らば、我が殺すに非ず、適〻度量無きを示すに足るのみと。○所謂木・肺石の函、以て廉能を勸む。○盜、南北披に入り、張弘策を殺す。○陳伯之、鄧繕を以て別駕と爲す。帝、之に代らしむ。繕及び褚緒、伯之に勸め、江州に據りて反せしむ。

昭陽協洽

梁。正、甲寅。三、癸丑。五、壬子。七、辛亥。九、庚戌。十一、己酉の朔。○魏、同じ。○隋志に、七月丙子、太白、軒轅の大星を犯す。○魏志に、五月丁卯、月食し、地より出で、十五分の十二を食す。

二

○劉季連、食盡きて困窮す。帝、使を遣はして其降を受けしむ。○初めて梁律を行ふ。○范雲卒す。帝、沈約を捨てて、徐勉・周捨を以て之に代ふ。○郡縣の獻奉を斷つ。○帝、謝朏の宅に幸す。

三

○魏の元英、義陽に寇し、賢首柵を取る。元澄、東關に寇し、五城を拔き、司馬素を虜にす。○馮道根、防に怯に戰に勇にして、門を開きて魏の党法宗等を擊ち、之を却く。○捨、言諱すること終日、機事を泄らさず。○吉粥、父に代りて死せんと請ひ、械を易へ及び舉に就くを肯ぜず。

四

○彭城王勰、太師と爲る。○元英、梁の義陽を侵し、賢首柵を拔く。任城王澄、東關を侵し、五城を拔き、司馬明素を虜にす。○楊集始卒し、子紹先立つ。○源懷、元尼須に謂ふ、故人飲酒の坐にして、鞫獄の所に非ずと。○懷、邊鎮の官五分の二を損せんと請ふ。○東荆の蠻、樊素安叛く。○高貴嬪、趙脩、罪を納るを得、鞭うたれて死す。

閼逢涒灘

梁。正、戊申。四、丁丑。六、丙子。八、乙亥。十、甲戌。十二、癸酉の朔。○魏。正、戊申。四、丁丑。六、丙子。八、乙亥。十、甲戌。十二、癸酉の朔。閏、十二。

三

○姜慶眞、魏の壽春を襲ひ、其外郭に入る。○張惠紹等、魏の劉思祖と、邵陽に戰ひ、魏に虜にせらる。既にして惠紹復還す。○王僧炳、魏の元逞と戰ひ、樊城に敗る。○蔡道恭、義陽を守ること百餘日。魏、克つ能はず。會〻病みて卒す。靈恩を戒むるに節に死するを以てす。○柴慶宗、角城を以て魏に降る。○馬仙琕、義陽を救ひ、克たず。蔡靈恩、城を以て魏に降る。○司州を南義陽に徙す。○罪を贖ふ科を除く。

正始元

楊大眼、樊季安を討ちて之を平ぐ。○梁の姜慶眞、襲ひて壽陽の外郭に據る。蕭寶寅、擊ちて之を却く。○劉思祖、梁の張惠紹等を邵陽に破り、之を禽にす。○元逞、梁の王僧炳を樊城に破る。○任城王澄、鍾離より還り、雨に遇ひて失亡多し。○北海王詳、貪淫驕侈なり。○高太妃、母子相保して市を掃ひて生を爲さんことを願ふ。○茹皓、事を用ふ。詳、亦、之に附く。○高肇、朝政を專らにせんと欲し、詳、皓等と逆亂を爲さんことを謀る」と譖す。帝、皓等を殺して詳を囚ふ。○高太妃、劉妃が妬まざるを以て之を杖つ。○劉妃、笑ひて罰を受く。○家奴、劫して詳を出さんことを謀り、果さず。詳、暴に卒す。○崔光の對に、鷄の四翼・四足なるを小臣相扇動するの象と爲す。

旃蒙作噩

梁。二、壬申。三、辛未。五、庚午。八、己亥。十、戊戌。十二、丁酉朔。閏二。三、二日、穀雨。

○魏。正、壬申。三、辛未。五、庚午。八、己亥。十、戊戌。十二、丁酉朔。正、一日、雨水。

○魏志に、九月癸未、月、十五分の十を食し、鼎に在り。又、六月己未、歲、鼎を犯す。

四

○初めて五經博士を置き、儒術大に興る。

○夏侯道遷、梁州を以て魏に降る。

○李凱、交州に據りて反す。李晏、之を平ぐ。

○魏の邢巒、梁州に寇し、巴西等の郡を取る。

○王足、劒閣に入る。

○鄧元起、逗遛して敵を縱す。蕭淵藻、之を殺す。

○淵藻自ら焦僧護を擊ち、之を平ぐ。

○臨川王宏等に命じて魏を伐たしむ。

○魏の王足、涪城を圍む。蜀人震恐す。

○巴西復た魏より來歸す。米舟ごとに三十錢。

○高肇、帝に說きて、禁兵をして諸王の第を守らしめ、始ど囚禁に同じくす。邢巒謂ふ、明王は栗帛を重んじて金玉を輕んずと。

○梁の柴慶宗、角城を以て來降す。

○李崇、梁の東荊の蠻、馬仙琕を破り、樊素安を禽にす。

○元英、梁の蔡靈恩、城を以て降る。

○傅永、胶を傷く。

○柔然、北邊に寇す。

○永、露板を改めて、以爲へらく、夏を用つて夷を制するは、公孫崇、鍾離郭に如くは莫しと。

○孫崇、律を考正せんと請ふ。

○四門學を置き、儒業大に盛なり。

○小學を置き、律令を議定せしむ。

○袁翻等に詔して、禁兵をして諸王の第を守らしめ、始ど囚禁に同じくす。邢巒謂ふ、明王は栗帛を重んじて金玉を輕んずと。

二

○梁の夏侯道遷、梁州を以て來降す。邢巒を遣はして兵を將ゐて之を援けしむ。

○王足、巴西等の郡を略定す。

○崔光謂ふ、劒閣に入る。蜀は當に殿堂高華の處に生ずべからずと。

○又曰はく、家利ありて怪先だち、國興りて妖豫めすと。

○楊集起等、羣氐を帥ゐて梁州に反す。

○王足、梁の洛陽を圍む。

○邢巒、勝に乘じて益州を取らんと請ふ。

○王足、刺史を得ず。輒ち兵を引きて還る。

○巴西復た梁に入る。

○源懷、梁州の叛氐を討つ。

柔兆閹茂

梁。二、丙申。四、乙未。六、甲午。八、癸巳。十、壬辰の朔。

○魏、同じ。

○梁紀に、三月丙寅朔、食す。

○魏志に、正月庚辰、月、食盡して氏に在り。

五

○魏の元翼等、來奔す。

○魏の陳伯之、來奔す。

○王茂先、魏の楊大眼に敗らる。

○張惠紹、魏の宿預を攻む。

○昌義之、魏の梁城を拔く。

○韋叡、魏の小峴を拔く。

○又、肥水に堰し、合肥に灌ぎ、之を拔く。

○叡、體羸れども、未だ嘗て馬に乘らず、常に板輿に坐して戰を督し、頓舍の牆宇、皆、準繩に應す。

○豫州の治を合肥に徙す。

○桓和、魏の朐山を拔く。

○太子統、出でて東宮に居る。

○魏の邢巒、桓和を孤山に破る。

○又、張惠紹等を宿預に破る。

○魏の元英等、梁城を攻む。

○臨川王宏、懦怯にして退かんと欲す。柳惔等、之を薦娘と謂ふ。魏人、之を受けずして曰はく、徒らに卿等之を爭ふ。降者を失はしむと。

○張惠紹、諸將と走り還る。

○洛口の軍潰え、宏、圍む。帝、船の風に遇ふを以て、曹景宗、鍾離を救ふ。

○元英進み、鍾離を圍む。

○景宗、賊を破ると爲す。

三

○皇子昌生る。

○傅堅眼、武興を滅ぼし、楊紹先を執ふ。

○秦州の呂苟兒・涇州の陳瞻、反す。

○元翼等、梁に奔る。

○陳伯之、梁に奔る。

○甄琛、鹽禁を罷めんと請ふ。彭城王勰・邢巒、以て不可と爲す。

○中山王英、諸軍を都督し、以て梁を拒ぐ。

○楊大眼、梁の王茂先を敗る。

○張惠紹、宿預を攻む。

○梁の昌義之、梁城を陷る。

○韋叡、小峴を陷れ、又、合肥を陷る。

○桓和、朐山を陷る。

○源懷謂ふ、貴人は當に細務を親らすべからずと。

○呂苟兒を擊ち、之を降す。

○元顥、楊椿、陳瞻を斬る。

○桓和を孤山に破る。

○邢巒、梁の桓和を宿豫に破る。

○又、張惠紹等を宿豫に破る。

○中山王英、梁城を攻む。

○大に梁の兵を洛口に破る。

○英、勝に乘じて鍾離を圍む。邢巒固く諫め、還らんことを求む。

○盧昶・元暉、共に巒を譖す。蠻、暉に賂して、免るるを得たり。官を用ふる、皆、定數有り。

○暉、吏部に在り、子伏圖を立つ。帝、伏圖が柔然の那蓋卒し、落禮を俯めむるを許さず、通和するを許さず。

○邢巒・傅堅眼、梁・益に在り、能く獠和を得。

彊圉大淵獻

梁。正、辛酉。三、庚申。五、己未。七、戊午。九、丁巳。閏十、丙辰。十二、乙卯の朔。十一、一日、冬至。○魏。正、辛酉。三、庚申。五、己未。七、戊午。九、丁巳。十、丙辰。十二、乙卯の朔。閏、九月。十一月、小雪。

六

昌義之、鍾離を守り、方に隨ひて魏を拒ぐ。韋叡奔りて鍾離を救ふ。○帝、曹景宗に救して善く叡を敬せしめ、曰はく、二將和せば、師必ず濟らんと。○景宗・叡、淮水の漲るに乘じて、高艦を以て魏の橋を焚き、大に元英を破り、二十餘萬を斬獲す。○徐勉、吏部尚書と爲り、虞暠に謂ふ、今夕、止だ風月を談ず可しと。

四

公孫祟、高肇が大樂を監せんことを請ふ。○中山王英、橋を邵陽洲に作り、以て鍾離を攻む。○詔して英を召して還らしむ。英固く請ひて留まり攻む。○梁の曹景宗・韋叡、淮水の漲るに乘じて橋を焚き、大に英を邵陽洲に破る。中山王英・薦寶寅、皆、死を免じて民と爲す。楊大眼、荊州に徙され、兵と爲る。○辛琛、方正の長史を得んことを願ふ。○于后殂す。人、咎を高氏に歸す。

卷の第十五

著雍困敦

梁。三、甲申。五、癸未。七、壬午。九、辛巳。十一、庚辰の朔。○魏、同じ。○魏志に、八月壬子朔、食す。又、熒惑、東壁に在り。五月癸未、填、逆行して太微に入る。六月庚辰、太白・歲、柳に合す。

梁高祖天監七

初めて州望・郡宗・鄉豪を置く。○蕭昺、領軍と爲り、峻切にして、近幸、命に堪へず。○初めて十二卿を置き、百官を十八班に、將軍を二十四班に分つ。○魏の三關、來降す。○魏の白早生、懸瓠を以て來降す。○安成王秀、輒ち馬仙琕を遣はして懸瓠に赴かしむ。○魏の宿豫、來降す。○魏の元英・邢巒、懸瓠を拔き、白早生を斬る。○魏の辛祥、胡武城を金山に敗る。○初めて大裘を造る。

魏世宗永平元

皇子昌卒す。人、高肇が之を爲せるを疑ふ。○高后を立つ。高肇益〻事を用ふ。○元匡、棺を造り、諫めんと欲す。坐して死を免せらる。○京兆王愉、冀州に據りて反し、帝と稱す。○安樂王詮、在北の州鎭を撫安す。○李平、擊ちて愉の兵を破り、遂に信都を圍む。○高肇、彭城王勰、愉と謀を通ず。召して禁中に入らしめ、之を殺す。士民流涕す。○愉、城を棄てて走る。李平追ひて之を執ふ。帝、命じて洛陽に送らしむ。肇潛に之を野王に殺す。○崔光、李氏を屠割するを諫む。○高顯、愉の黨千餘人の死を救ふ。○高肇、奏して李平の名を除く。○楊椿、柔然を濟州に徙すを諫めて曰はく、必ず後患を爲さんと。○三關叛きて梁に入る。○中山王英、鄆州を救ふ。○白早生、司馬悅を殺し、懸瓠を以て梁に降る。○邢巒、擊ちて早生を破り、懸瓠を圍む。○成景儁、宿豫を以て梁に降る。○梁、開府郡公を以て田益宗を誘ふ。從はず。○楊椿、宿豫を攻む。○中山王英・邢巒、共に攻めて懸瓠を拔き、

屠維赤奮若

梁。正、己卯。三、戊寅。五、丁丑。八、丙午。十、乙巳。十二、甲辰の朔。

○魏、同じ。

○魏志に、八月丙午朔、食す。又、三月、熒惑、鬼に入る。四月乙丑、太白、積尸を犯す。五月、太白・歲、合す。九月甲申、歲、太微に入り、十二月乙酉、又、逆行して太微に入る。

八

或るひと會稽に封じ國山に禪せんと請ふ。許懋以爲へらく、古は巡狩有りて封禪無し。若し聖主は封禪を須ひず。若し凡主は應に封禪すべからずと。

○魏の元英復た三關を取る。馬仙琕走る。

○韋叡、三關を救はんとし、先づ安陸に城きて曰はく、將と爲りては、當に怯なる時有るべし。專ら勇なる可からずと。

○帝、董紹を遣りて歸りて和を魏に求めしめ、曰はく、吾、先づ和を言ふを恥ぢず。彼此の民を息はす。魏人、許さず。蕭昺、群蠻の降を受け、

○魏の元志、潺潺に寇す。

○志を擊ちて之を破る。

○魏の元樹、來奔す。

自早生を斬る。

○辛祥、梁の胡武城等を金山に敗る。

○桓叔興、太陽蠻萬餘戶を招降す。

○高昌王麴嘉、內徙せんことを求む。之を迎ふれども至らず。

○柔然の伏圖、高車を擊ち、敗死す。子醜奴立つ。

上章攝提格

梁初めて大明曆を用ふ。二、癸卯。四、壬寅。六、辛丑。七、庚子。九、己亥。十二、戊辰

九

沈約、三司の儀を求むれども得ず。

○帝、國子學に幸す。太子以下に命じて皆入學せしむ。

○士流を選びて尙書五都令史と爲す。

○宣城の吳承伯、亂を作す。蔡撙、討ちて之を平ぐ。

○初めて祖沖の曆を行ふ。

二

中山王英謂ふ、三關相須つ、難を攻むるは易を攻むるに如かずと。乃ち先づ東關を攻めて之に克つ。二關皆潰え、梁の馬仙琕を走らす。

○帝、獲る所の梁の將を以て、司馬悅の首及び董紹を贖はんと欲す。梁、紹歸を遣はして和を求めしむ。帝、許さず。

○元志、梁の潺潺を侵し、蕭昺に敗らる。

○劉芳・公孫崇に命じて、各〻樂器を造らしむ。

○帝、朝臣の爲めに佛經を講ず。

○裴延儁、帝に勸めて五經を覽しむ。

○閑居寺を作る。

○元樹、梁に奔る。

三

皇子詡生る。

○胡充華曰はく、一身の死を愛みて國をして嗣無からしむ可からずと。

○劉芳等の新樂成る。止だ二舞を用ひ、餘は舊に仍る。

の朔。閏六。七、一日、處暑。

○魏、朔・閏同じ。二日、處暑。

○魏志に、正月戊子、月食して赤に在り。閏月乙酉、又、食して危に在り。十二月壬午、又、食して赤に在り。又、閏月壬申、太白、太微を犯す。

重光單閼

梁。二、丁卯。四、丙寅。六、乙丑。八、甲子。十、癸亥。十二、壬戌の朔。

○魏、同じ。十二月壬戌朔に、食す。

○魏志に、十月己巳、歲、房を犯す。

十

張稷・王國珍、怨望を以て罪を得。

○朐山、叛きて魏に降る。馬仙琕、之を討つ。魏の盧昶、朐山を援ふ。

○朐山降り、昶、敗走す。僵尸二百里。

○梁、二十三州有り。是後、州名浸く多し。

○秣陵の老人、帝を遮りて言ふ、陛下、法を爲り、庶民に急に、權貴に緩なりと。

玄默執徐

梁。三、辛卯。五、庚寅。七、己丑。九、戊子。十一、丁亥の朔。

○魏、同じ。

○魏志に、五月己巳、歲、房を犯す。

十一

初めて老小の遣謫質作を免ず。

○五禮を修めて成る。

四

汾州の劉龍駒反す。薛和、討ちて之を平ぐ。

○梁の朐山、來降す。盧昶、之を援ふ。

○梁の馬仙琕、朐山に克つ。昶敗れて奔走す。士卒の免るる者什に一二。游肇、梁と朐山を爭ふを諫む。

○甄琛、里尉の任を重くして以て洛城の盜賊を除かんと請ふ。

延昌元

高肇、司徒と爲り、猶ほ怏怏たり。

○清河王懌、肇を以て王莽に比す。又謂ふ、肇、擅に囚徒を錄し、君臣の分を亂ると。

○太子詡を立つ。始めて其母を殺さず。

○人、郭祚を謂ひて黃鵠少師と爲す。

未晦、食す。又、三月丙申、歲、鍵閉を犯し、丙午、房を掩ふ。是月、塡、氐を守ること九十餘日。

昭陽大荒落

梁。正、丙戌。三、乙酉。四、甲申。七、癸丑。九、壬子。十一、辛亥の朔。閏三。四、二日、小滿。

○魏。正、丙戌。閏二、乙酉。四、甲申。七、癸丑。九、壬子。十一、辛亥。三、一日、穀雨。

○魏志に、五月甲寅朔、食す。又、四月己亥、地より食して出でて三分を生じ、漸くつ。十月丙申、滿つ。食盡して參に又、在り。又、四月庚午、熒惑、軒轅を犯す。三月乙丑、塡、房を守る。

十二

鑾洲の民、强稷を殺して魏に降る。康絢、討ちて之を平ぐ。

○沈約、赤章を奏し、禪代は已に由りて出でずと稱す。

二

梁の鑾洲、來降す。兵を遣はして之を援けしむ。

○壽陽、游肇諫む。大水あり。李崇、船に乘りて女牆に依り、去らずして曰はく、吾、足を動かさば、則ち揚州は國の物に非ざらんと。

○裴絢叛く。崇、討ちて之を禽にす。

○梁、反間を設く。帝、崇を委信して、疑はず。

○恒肆の地震ひて年を踰ゆ。

○帝、太子に命じて少傅崔光を拜せしむ。

閼逢敦牂

梁。正、庚戌。三、己酉。五、戊申。七、丁未。九、丙午。十二、乙亥の朔。

○魏、同じ。

○魏志に、四月癸巳、月、地より、十五分の十四を食して、尾に在り。又、八月、太白、軒轅を犯し、九月、執法を犯す。

十三

魏の高肇等、益州に寇す。

○康絢に命じて、淮水を浮山に堰し、以て壽陽に灌がしむ。

三

田益宗、貪を以て代へらる。子魯生等叛きて梁に入る。

○帝、百官を考して黜陟す。

○李苗・淳于誕、蜀を取るの策を獻ず。高肇等に命じて、兵十五萬を將ゐて梁の益州を伐たしむ。游肇諫む。

○楊津、物を輸して善なる者に杯酒を賜ふ。

○楊昱、宮臣をして太子の出入に從はしめんと請ふ。

○陽固、王顯に謂ふ、庫を實するは益無しと。

旃蒙協洽

梁。二、甲戌。四、癸酉。六、壬申。八、辛未。十、庚午。十二、己巳の朔。閏十二。

○魏。二、甲戌。四、癸酉。六、壬申。八、辛未。十、庚午。閏十一、己巳の朔。十二、一日、大寒。

○魏志に、十一月庚寅、歲、熒惑、室に合す。十月、太白、斗牛を犯す。

十四

任太洪、魏の關城を圍み、克たず。

○淮堰、成らんと欲して壞る。鐵器數千萬斤を沈む。

○趙祖悅、魏の西硤石を襲ひて之に據り、以て壽陽に逼る。

○魏の崔亮、趙祖悅を硤石に圍む。

○魏の任令宗、晉壽を以て來降す。

○淮堰の士卒の凍死するもの什に七八。

四

帝殂す。

○崔光、明を俟たず、中宮に奏せず、太子を迎へて位に卽かしむ。

○高后、胡貴嬪を殺さんと欲す。光、子忠等と、別所に置きて之を守衞す。

○西伐東防の兵を召す。

○廣平王懷、殿に上りて哭し及び肅宗に見えんと欲す。崔光、趙烹の事を引きて之を拒む。

○于忠、高陽王雍を引きて西柏堂に入り、庶政を決せしめ、任城王澄を尙書令と爲す。

○王顯、皇后の令を矯めて高肇を以て尙書を錄せしめんことを謀る。于忠、顯を執へて之を殺す。

○高太后を尊ぶ。

○高肇還りて入りて哭し訖る。雍・忠、執へ

卷第一百四十八

柔兆涒灘

梁。正、戊辰。四、丁酉。六、丙申。八、乙未。十、甲午。十二、癸巳の朔。正、二日、雨水。

十五

○て之を殺す。
○梁の任太洪、關城を圍む。傅豎眼、擊ちて之を走らす。
○高后、尼と爲り、徙りて金墉に居る。
○于忠、百官の祿を復し、民稅の綿麻を罷む。
○冀州の僧法慶反し、自ら大乘と號す。
○郭祚・裴植、高陽王雍に說きて于忠を出さしむ。
○祚・忠、詔を矯めて第に還らしむ。
○胡太后、元叉を尊ぶ。始めて進用せらる。
○太后、朝に臨みて制を稱す。
○于忠、胡國珍を出して冀州の刺史と爲す。
○胡國珍、大務に參咨す。
○元遙、法慶を斬る。
○梁の趙祖悅、西硤石に據り、壽陽に逼る。
○高雍王雍、子忠の罪を疏す。太后、問はず。
○胡國珍、三王と、門下に居り、同じく庶政を詹む。
○崔亮、梁の趙祖悅を硤石に圍む。
○元法僧、貪虐なり。任令宗、晉壽を以て梁に降る。
○趙王謐、岐州城を閉ぢて大に索む。城人に囚へらる。
○崔光、胡太后をして祭を撫せしむ。

魏、浮山を攻む。康絢、擊ちて之を却く。
○魏、攻めて西硤石を拔き、趙祖悅を斬る。
○淮堰成る。康絢、反間を縱ちて、蕭寶寅をして黎を開かしむ。
○張豹子、絢を譖す。徵して還らしむ。
○張齊、魏の東益州の諸戍を攻め、皆、之を下し、遂に武興を圍む。魏の傅豎眼、之を救ひ、任太洪を殺す。齊退きて白水を保つ。
○豎眼、白水を取り、張齊を敗る。東益州復た魏に入る。
○淮堰壞れ、死する者十餘萬口。
○李憬、阮宗孝を斬る。

魏肅宗詡熙平元

李崇・崔亮、乖異して、壹ならず。太后、李平に命じて、行臺と爲り、諸軍を節度せしむ。
○崔延伯、竹絙を以て車輪を貫き、鹿盧を施して梁の水路を塞ぐ。
○李平等、西硤石を拔き、趙祖悅を斬る。
○崔亮、詔に違ひ、擅に還る。平、死刑に處せんと奏す。太后、赦して、問はず。
○元匡、于忠を誅せんと請ふ。從はず。
○又請ふ、去年の正月後、八月前、階を超えて官を授けしは、並に追奪に從はんと。
○袁翻謂ふ、侯剛、故らに人を掠殺す、邂逅に非ずと。
○梁主、手書して蕭寶寅を誘ふ。
○李崇、浮橋及び魏昌城を作る。
○復た崇・崔光を封ず。
○梁の張齊、元法僧を武興に圍む。傅豎眼、之を救ひ、梁の任太洪を殺す。齊遁れ去る。
○荷金龍の妻劉氏、關城を守る。
○李平、淮堰必ず自ら壞れんことを料る。
○崔光、太后が數〻勳貴の家に幸するを諫む。
○司空澄、北邊の鎭將を選び守備を嚴にせんと請ふ。
○袁翻、王公をして東南の將吏を舉げしめんと請ふ。
○太后、永寧等の寺を作る。李崇以爲へらく、明堂・太學を修むるに如かずと。
○李瑒、佛を謂ひて鬼教と爲す。
○柔然の醜奴、高車を滅ぼし、彌俄突を執へ、駑馬を以て之を曳殺す。

○梁紀に、三月戊辰朔、食す。
○魏志に、八月己酉、十五分の八を食して奎に在り。又、三月丙子、太白・歲・熒惑・房を犯し、四月、逆行して、又、之を犯す。

强圉作噩

梁。二、壬辰。四、辛卯。七、庚申。九、己未。十一、戊午の朔。同じ。
○魏志に、二月丁未、月食して軫に在り。八月癸卯、又、食盡して婁に

十六

救して、文錦をもて仙人鳥獸の形を爲るを得ざらしむ。
○宗廟初めて麪牲を用ふ。
○薦羞を去りて蔬果を用ふ。
○帝謂ふ、馮道根が在る所、朝廷をして復た一州有るを憶はざらしむと。

二

○大乘の賊、瀛州に入る。字文延、討ちて之を平ぐ。
○任城王澄奏す、錢、鷄眼・鍰鑿に非ざるは、並に盧同、勳簿を檢覈す。
○任城王澄、元匡が景明の舊案を取るを聽さず。北京の士民の未だ遷らざる者は、留まるを聽す。
○王屋等の山銅を采りて錢を鑄る。

在り。

著雍閹茂

梁。正、丁巳。三、丙辰。五、乙卯。七、甲寅。閏八、癸丑。十一、壬午の朔。九・一日、霜降。

○魏、同じ。

十七

安成王秀、帝の布衣の昆弟にして、小心なること疎戇よりも過ぐ。○始興王憺、半祿を分つ。秀、多きを辭せず。○竊に發する者、皆、臨川王宏を指す。帝、泣きて責めて而も誅せず。

神龜元

張倫、使を遣はして柔然と抗禮するを諫む。○胡國珍卒す。太上秦公と號す。張普惠諫む。○尚書復た紬麻の稅を徵す。普惠、先づ稱尺を正さんと請ふ。帝が佛法を崇び郊廟を簡にするを諫む。○崔光、石經を補はんと請ふ。○却鐵忽、反す。源子恭、虜掠を禁じ、輕々しく戰はず。○鐵忽、自ら降る。○劉騰、儀同と爲る。○胡太后、高太后を殺し、以て天變に應じ、葬るに尼の禮を以てす。○任城王澄、都城內の寺を郭外に徙さんと奏す。○鹽禁を復す。

屠維大淵獻

梁。正、辛巳。三、庚辰。五、己卯。七、戊寅。九、丁丑。十一、丙子の朔。

○魏、同じ。○魏志に、正月辛巳朔、食す。又、十二月庚申。月、五分の十を食し、又、柳に在り。八月己亥、太白、軒轅を犯す。

十八

二

太后初めて詔を稱す。○張仲瑀、選格を銓削し武人を排抑せんと請ふ。羽林・虎賁、相帥ゐて其弟を焚き、父彝を毆殺し、兄始均を燒殺す。朝廷、八人を捕斬し、其餘大赦とし、以て安んず。識者、魏の將に亂れんとするを知る。○詔して、武官は、賢に依りて選に入る。崔亮、停年格を作り、賢愚を問はず。○劉景安、書を以て薛琡を規る。琡、表諫して以爲へらく、簿を執りて名を呼ぶは一吏にて足ると。○高歡、魏の政を覩、財を散じて客に結ぶ。○太后、歡の失を以て自ら絹を負はしむ。○權貴、豪侈を以て相高ぶる。

上章困敦

梁。正、乙亥。四、甲辰。六、癸卯。八、壬寅。十、辛丑。十二、庚子の朔。

○魏、同じ。○梁紀に、正月丙子、日食す。正月乙亥朔、食す。又、十二月甲寅、月食す。又、四月庚戌、太白・熒惑、井に合す。七月、太白、角を犯す。

○任城王澄、佛事を營むに財力を費耗するを諫む。○源子恭、明堂・辟雍を成さんと請ふ。○陳仲儒、律準を修めて以て八音を調へんこと欲す。曰はく、之を知る者は教へんと欲すれども師無しと。從る無く、心達する者は體知すれども師無しと。○元匡、復た、棺を造りて任城王澄を攻めんと欲し、坐して官爵を削らる。○辛雄、匡を理せんと奏す。○楊昱言ふ、元乂、賂を受くと。○郎官を沙汰す。

普通元

帝、春祠を總めて馮道根を哭す。○帝、使を遣はして高句麗王に衣冠を授けしむ。○魏人、之を執ふ。○魏の元略、來奔す。○韋叡、俗に隨ひて佛を奉ぜず。○魏始めて使を通ず。

正光元

清河王懌、幸を太后に得。元乂・劉騰、懌を怨み、懌、帝を毒殺して自立せんと謀ると稱す。乃ち太后を北宮に幽し、懌を禁中に殺し、二人表裏して權を擅にす。○中山王熙、兵を鄴に起し、乂・騰を誅せんと欲し、元略を匿して死す。○柔乂雙、克たず。○醜奴、其の兄示發、及び大臣に殺さる。弟阿那瓌、兵を求めて自ら送りて國に還らんと欲す。元乂、其金を受けて之を許す。○始めて梁と使を通ず。

重光赤奮若

梁。二、己亥。四、戊戌。六、丁卯。八、丙寅。十、乙丑。十二、甲子の朔。閏五。六、一日、大暑。

○魏、朔・閏同じ。二日、大暑。

○魏志に、五月丁酉、日食す。又、丁未、月食す。案ずるに、五月に、丁未無し。疑ふらくは癸未の誤ならん。十一月己酉、又、食して井に在り。又、四月甲辰、熒惑・塡、危に合す。十一月辛亥、太白・塡、奎に合す。又、九月癸丑、歳、左執法を犯す。

二

蠻酋桓叔興、魏の南荆州を以て來降す。文僧明、義州を以て魏に降る。

○琬琰殿、火あり。

○裴邃、義州を攻めて之を取り、魏の封壽を獲。

二

南秦州の氐、反す。

○楊鈞をして阿那瓌が國に還るを送らしむ。張普惠諫めて以爲へらく、累世の勍敵を救ひ、天亡の醜虜を資くと。

○阿那瓌の從兄婆羅門、示發を擊ちて之を殺し、自立して可汗と爲る。牒云其然に詔して、婆羅門を諭して、阿那瓌を迎へしむ。

○帝、太后に、朝す。太后を留めて宿せんと欲す。賈粲、太后を給き、帝を扶けて宮に還る。

○奚康生、元叉を殺さんことを謀り、克たずして死す。

○八坐・九卿、且に劉騰の宅に詣り、乃ち省府に赴く。

○騰、貨を納れ、利を權す。中外、之に苦しむ。

○京兆王繼、司徒を讓る。

○婆羅門、兵を遣はして阿那瓌を迎ふ。阿那瓌懼れ、敢て往かず。

○鞏酋桓叔興、南荆州を以て梁に降る。梁の文僧明、義州を以て來降す。

○梁の裴邃、復た義州を取り、封壽を獲。

○楊侃、裴邃の詐を辨ず。

○高車王伊匐、柔然の婆羅門を擊ち、大に之を破る。婆羅門、涼州に詣りて降る。

○柔然、阿那瓌を迎ふ。寰翻、柔然を分ちて二と爲す。阿那瓌を以て高車に侵、畔を防がんと請ふ。乃ち阿那瓌を吐若奚泉に置く。婆羅門を故の西海郡に置く。

○河間王琛、南秦の氐に敗らる。

玄黓攝提格

梁。二、癸亥。四、壬戌。六、辛酉。八、庚申。十一、己丑の朔。

○魏、同じ。

○梁紀に、五、壬辰、食す。

○魏志に、十一月己丑朔、食す。又、正月癸丑、歳、逆行し、左執法を犯し、五月甲辰、又、左執法を掩ふ。

三

西豐侯正德、魏に奔る。既にして復た逃れ歸る。

三

宋雲等、西域より還る。

○高車王伊匐の弟越居、初めて正光曆を行ふ。

○梁の蕭正德來奔す。既にして復た梁に奔る。

○蕭寶寅、正德を殺さんと請ふ。

○柔然の婆羅門、叛きて獻蹋に奔る。費穆、擊ちて之を涼州に破り、婆羅門を禽にす。

昭陽單閼

梁。正、戊子。三、丁亥。五、丙戌。七、乙酉。九、甲申。十一、癸未の朔。

○魏初めて正光曆を用ふ。同じ。

○梁紀に、十一月癸未朔、食す。

○魏紀に、十月乙卯、太白、斗口に入る。十一月庚戌、歳、房を犯す。

四

始めて鐵錢を鑄る。民多く盜鑄し、物價騰貴す。

四

阿那瓌、塞に入り、飢を告ぐ。

○劉騰卒す。

○元孚、なして柔然を撫慰せしむ。阿那瓌、孚を劫して剽掠す。

○李崇等、なして之を追はしむ。塞を出づること三千里、及ばず。

○于謹、少騎を以て鐵勒を走らす。

○劉蘭根請ふ、鎮を改めて州を置き、府戶入仕、一に準ぜしんと。

○梁の其舊に、州鎮多く其人に非ず。

○元叉、驕恢荒怠にして、亂を思ふ。

○懷荒鎮の人、反して于景を囚ふ。

○沃野鎮の人、反し、南のかた武川・懷朔の二石窟を攻む。

○韓・拔陵、反し、北邊の民夷響應す。

○伊闕の作を用ふ。

二十四年、十八萬餘

閼逢執徐

梁。正、壬子。三、辛亥。五、庚戌。七、己酉。九、戊申。十一、丁未。閏正。二、一朔。日、春分。○魏。二、壬子。三、辛亥。五、庚戌。七、己酉。九、戊申。十一、丁未。閏二。三、一朔。日、穀雨。○魏志に、四月癸丑、歲、逆行して房を犯す。

五

裴邃に命じて、諸軍を督して魏を伐たしむ。○成景儁、魏の童城を拔く。○邃、魏の壽春を襲ひ、其外郭に入る。魏の邊城多く降る。○李國興、魏の郢州を攻め、克たず。○朱异始めて事を用ふ。

○初めて令して、朝官の致仕するものに半祿を給せしむ。○崔光、寬和にして、時人、張禹・胡廣に比す。○賈思伯曰はく、衰至れば便ち驕る、何の常か之れ有らんと。

五

臨淮王彧に詔して北のかた拔陵を討たしむ。○高平鎭の人胡琛、反す。○賀拔勝、救を彧に求む。衞可孤、武川・懷朔を陷る。○彧、五原に敗れ、李叔仁、白道に敗る。○帝謂ふ、李崇、鎭戶の非冀の心を開くと。○崇に命じて、廣陽王淵等と與に拔陵を討たしむ。○梁の裴邃、入寇す。○秦州の人、莫折大提、反し、刺史李彥を殺す。○南秦州の人、刺史崔遊を殺し、以て之に應ず。○大提卒し、子念生、天子と稱す。○元脩義に命じて念生を討たしむ。○崔暹、白道に敗れ、李崇、引きて雲中に還る。○廣陽王深、鎭を改めて州と爲さんと請ふ。○崔暹、元乂に賂し、坐せざるを得。○魏の子建、東益の民を慰諭し、分ちて諸郡を成り、卒に保全を獲たり。○于苦提、反し、刺史宋穎を執ふ。○涼州の景儁、童城を拔く。○梁の成景儁、大將を勒し、壁を堅くして、賊と戰ふ。○李苗請ふ、勿らしめよと。○莫折天生、元志を隴口に敗る。志退きて岐州を保つ。○莫折天生、東西部の敕勒、皆叛く。○始めて六鎭を改めて州と爲す。而して六鎭

已に沒す。○爾朱代勤、獵し、箭、髀に中る。拔き去りて、問はず。○爾朱榮、財を散じて衆を合す。豪桀多く之に歸す。○梁の裴邃、壽春を襲ひ、外郭に入る。邊城多く梁に入る。○薛寶寅に命じて諸將を督して西討せしむ。○吐谷渾、宋穎を救ひ、涼州を復す。○譽州の民、子源、就德興、反す。○雍州の民、子伯延、を殺して統萬を守らしめ、自ら出でて糧を求め、胡に貪にせらる。胡に說きて之を降し、卒に二夏を全くす。○李崇・廣陽王深、退きて平城を保つ。○崇、費穆、雲中を守らしむ。○賀拔度、衞可孤を襲ひ殺す。○廣陽王深、李崇に代りて戎を總ぶ。○高平鎭、莫折天生、元志を殺す。○莫折天生、岐州を陷れ、下胡を殺し、胡琛を迎ふ。○楊昱、姜神達を斬る。○京兆王繼、雍州を救ひ、西討す。○梁の李國興、郢州に寇し、克たず。○汾州の胡、反す。○魏子建、羣氏を說き下し、南秦州を復し、○韓祖香を斬る。○莫折念生、涼州を陷る。

旃蒙大荒落

梁。正、丙午。三、乙巳。六、甲戌。八、癸酉。十、壬申。十二、辛未の朔。

六

魏の元法僧、彭城を以て來降す。○裴邃、魏を侵して鄒城に至る。汝潁響應す。○邃、魏の長孫稚・元琛を壽陽に敗る。○元略、魏の元鑑と戰ひ、彭城の南に敗る。元法僧復た鑑を敗る。

孝昌元

元法僧、彭城に據りて叛きて梁に降る。○元顥和謂ふ、寧ろ忠鬼と爲るも叛臣と爲らじと。○薛寶寅・崔延伯、莫折天生を黑水に破る。○隴東皆平ぐ。將士采掠し、隴道遂に塞がる。

○魏、同じ。○隋志に、三月丙午、歲、南斗に入る。庚申、月食す。九月壬子、太白、右執法を犯す。○魏志に、九月丁巳、月食す。又、五月、太白、軒轅を犯す。十二月、熒惑、鬼を犯す。

○法僧、吏民を驅りて來奔す。○豫章王綜に命じて彭城に鎭せしむ。○斐邃卒す。○樊文熾、魏の小劍を圍み、魏の淳于誕に敗らる。○豫章王綜、自ら齊の東昏の子と謂ひ、陰に叛亂を謀る。而して帝、知らず。○綜、夜亡げて魏の軍に入る。彭城潰え、諸士の論沒するもの、什に七八。復た徐州を失ふ。○西豐侯正德、凶險なるに坐して臨海に徙さる。未だ至らざるに、復たこれを赦す。○祖暅之、魏の爲めに銘を作る。江革、之を唾罵す。○曹義宗、魏の順陽・馬圈を拔き、魏の裴衍と戰ひ、淅陽に敗る。○邵陵王綸、老叟を以て帝と爲して之を捶つ。坐して免削せらる。

○魏蘭根、宛川の奴婢を受けず。○長孫稚・河間王琛、梁の裴邃と戰ひ、壽陽に敗る。○安樂王鑑、梁の元略を彭城の南に敗り、復た元法僧に敗らる。○太安豐王延明に命じて彭城を討たしむ。所に往來する聽す。○阿那瓌、破六韓拔陵を擊ち、屢〻之を破り、自ら可汗と稱す。○元叉の侍中を解く。叉、宮に入らんと欲すれども得ず。太后復た朝に臨み、叉の名を除く。○韓子熙、清河王懌を訟ふ。○宋弁謂ふ、子維疎險なり、必ず家を敗らんと。李崇等も亦以て然りと爲す。太后に謂ふ、奈何ぞ一妹を以て元叉の罪を正さざると。○韓子熙謂ふ、事、生殺に關す。豈に鐵卷に繫らんやと。○叉、反を謀るに坐して死す。○元順、太后の粧飾するを諫む。○元順、穆紹の寢所に入る。紹、事を謝して家に還る。郟儼、幸を太后に得、徐紇・李神軌・袁翻と、皆、事を用ふ。○盧義僖、神軌と婚せず。○萬俟醜奴、涇州に寇す。蕭寶寅・崔延伯、之を討つ。延伯敗沒す。以て太后に悅媚す。○羣臣皆言ふ、賊弱しと。○梁の樊文熾、小劍を圍む。淳于誕、擊ちて之を敗る。○梁の蕭綜、降を請ふ。鹿悆、單騎、彭城に入り、其虛實を驗す。

柔兆敦牂

梁。二、庚午。四、己巳。六、戊辰。八、丁卯。閏十、丙申。十二、乙未の朔。十一、二日、冬至。○魏。二、庚午。四、己巳。六、戊辰。八、丁卯。十

七

魏、江革を以て元略に易ふ。○元樹・夏侯亶、魏の壽陽を攻む。○丁貴嶺卒す。○夏侯亶等、壽陽を拔く。

○綜、夜出でて降り、彭城潰ゆ。安豐王延明等復た徐州を定む。雲州を棄てて逃れ還る。北邊皆沒す。○費穆、包列河に說きて之を下し、因りて破る。○于謹、拔陵を敗る。○韓大に拔陵を破る。拔陵、衆を帥ゐて南に徙る。○柔然の阿那瓌、廣陽王深、郡縣を恒州の北に立てて以て降る。戶を處かんと請ふ。詔して徙して冀・定・瀛の三州に置く。深曰はく、此輩復た乞活と爲らんと。○杜洛周、上谷に反し、燕州を圍む。○吐谷渾復た魏の爲めに涼州を取る。又、高徽を河州に救ふ。○荊蠻の羣蠻叛く。○辛雄、臨淮王彧に說きて梁の汝蠻を擊たしめ、之を破る。○雄、上疏して稱す、寇盜の除かれざるは、賞罰の明信ならざるに由ると。○梁の賈義宗、入寇し、順陽・馬圈を拔く。○裴衍等、之を淅陽に敗る。○山湖劉蠡升、反す。○斛律金、爾朱榮に歸す。

二

常景・元譚、杜洛周に敗らる。○城陽王徽、廣陽王深を譖す。召して還らしむ。○鮮于脩禮反し、定州を攻む。陽津、之を救ふ。○元順、徐紇を謂ひて魏の宰嚭と爲す。魏若し亡びんば、紇終に死せじと。○河間王琛・長孫稚、鮮于脩禮に敗らる。○江革を以て義陽王略に梁に易ふ。

一、丙申。十二、乙未の朔。閏十一。十二、二日、大寒。○隋志に、正月癸卯、太白・歲、牛に合す。○魏志に、十一月戊申、又、女に合す。

強圉協洽

梁。二、甲午。四、癸巳。六、壬辰。八、辛卯。十、庚寅。十二、己丑の朔。○魏。二、甲午。四、癸巳。六、壬辰。八、辛卯。十、庚寅の朔。

大通元

湛僧智、魏の渦陽を圍む。夏侯夔、三關を拔く。○成景儁、魏の彭城を攻め、克たず。○帝、同泰寺に幸し、捨身す。○彭羣等、魏の鹿悆に敗らる。○魏の元慶和、廣陵を以て降る。○湛僧智、城を以て夏侯夔に讓る。○陳慶之、魏の渦陽に克つ。

○廣陽王深、脩禮を討ち、城陽王徽を畏れ、敢て軍政を決せず。○崔秉、燕州を棄つ。○陳雙熾反す。薛脩義、說きて之を下す。○鮮于阿胡、平城を陷る。○梁の元樹、壽陽に寇す。○元洪業、鮮于脩禮を殺して降を請ふ。葛榮、洪業を殺す。○爾朱榮、肆州を襲ひ、尉慶賓を執へ、從叔羽生を以て刺史と爲す。○葛榮、章武王融を白牛邏に殺す。○葛榮、天子と稱す。○毛于謹、自ら膀下に詣り、廣陽王深を辨理す。○就德謐、深を逐ふ。深、葛榮に獲られて死す。○呂伯度、莫折念生を破る。念生、降を請ふ。○復た反す。薛寶寅、制すること能はず。○梁の夏侯亶等、壽陽を拔く。○杜洛周、幽州を陷る。○辛雄請ふ、停年選法を更め、守令を擇びて以て民を靖んぜんと。

三

葛榮・殷州を陷れ、崔楷を殺す。○楷、家を城內に留む。將士、叛志無し。○薛寶寅、涇州に敗れ、東秦・岐・豳、相繼ぎて陷沒し、關中大に擾る。楊椿、雍州を以て之を拒ぐ。○羊侃、莫折天生を殺す。○路思令、貴遜を以て將帥と爲すを諫む。○梁智、渦陽を圍み、彭羣・王辯、琅邪を圍み、夏侯夔、三關を拔く。

○魏志に、九月、熒惑、再び軒轅の大星を犯す。

○屠景伯、不孝の子をして其の母を養ふを觀しむ。○秦の賊、潼關に據る。○梁の成景儁、彭城に寇す。崔景茂、擊ちて之を却く。○帝、詔を下し、自ら、西討せんと欲す。會〻潼關を得。又、詔して、北討せんと欲す。皆、行はれず。○柔然の阿那瓌、賊を討たんと請ふ。許さず。○薛寶寅を以て楊椿に代りて長安に鎮せしむ。椿奏す、寶寅、異志有り、宜しく爲めに上佐を置くべしと。○劉獲・鄭辯、反す。曹世表、討ちて之を斬る。○安樂王鑒、鄴に據りて葛榮に降る。○鹿悆等、彭羣を擊ち、之を破る。○源子邕等、鄴を拔き、元鑒を斬る。○杜槃、莫折念生を殺す。○辛琛、南秦州を以て降る。○元慶和、廣陵を以て梁に降る。○薛寶寅、關之、渦陽を拔く。○梁の陳慶之、梁に降る。○寶寅、關道元を殺し、長安に據りて反し、自ら齊帝と稱す。百口屠滅す。云何ぞ哭せざらんと。○蘇湛曰はく、

薛脩義等、走り出づ。獲て之を釋す。○葛榮、冀州を陷れ、元孚を獲。孚、將士と、死に就くを爭ふ。五百人、皆、免るるを得。○邕・裴衍、漳曲に敗死す。○李神、相州を守る。榮攻め、克つ能はず。○駱超、杜槃を殺して降る。

著雍涒灘

梁。正、己未。三、戊午。五、丁巳。七、丙辰。九、乙卯。十一、甲寅の朔。

○魏、同じ。

○魏志に、正月、熒惑、逆行して、軒轅の大星を犯す。七月癸亥、太白、左角を犯す。

二

魏の元悅・元彧・元顥、來奔す。元顥逢、郢州を以て、元世儁、北青州を以て來降す。李志、南荊州を以て來降す。

○元彧、魏に還る。

○元顥を立てて魏王と爲し、陳慶之をして兵を將ゐて之を送らしむ。

○曹義宗、費穆に禽にせらる。

○魏の羊侃、來奔す。

魏敬宗子攸永安元

楊津、杜・葛の間に居り、北人を殺さず。

○津、救を柔然に求む。

○杜洛周、定州を陷れ、津を執へ、又、瀛州を陷る。

○楊侃、長孫稚に說きて、潼關を捨て、蒲阪を取らしむ。

○侃、諸村の降る者をして烽を擧げしむ。

○薛脩義等降る。長孫稚、鹽稅を言ふ。

○侯終德、蕭寶寅を攻む。寶寅、萬俟醜奴に奔る。

○李洪、攻燒して關口に及ぶ。

○葛榮、杜洛周を殺し、其衆を併す。

○太后、霸宗の愛信する所の者を殺す。是に由りて、母子、隙有り。

○高歡・元天穆・賀拔岳、爾朱榮に勸めて徐鄭を討たしむ。榮、山東の盜賊を討たんと請ふ。許さず。

○徐紇、鐵券を以て榮の左右を間す。

○鄭儼・徐紇、榮をして兵を擧げて內に向はしむ。

○肅宗、榮に、肅宗を酖し、詐りて皇女を立つ。太后と與に、臨洮の世子釗を立つ。又、生れて三歲。

○爾朱榮、抗表して入朝す。

○爾朱世隆、復命せんことを求む。

○葛榮、滄州を陷る。

○爾朱榮、密に長樂王子攸を召す。

○徐紇、謂ふ、爾朱榮は小胡なりと。李神軌・鄭先護等をして之を拒がしむ。

○長樂王、漕に河を渡りて爾朱榮に會し、遂に帝位に卽き、建義と改元す。

○鄭先護、河橋を以て降る。李神軌退き走る。

○徐紇、兗州に奔り、鄭儼、滎陽に奔る。

○太后、明帝の後宮と、皆落髮して尼と爲る。

○百官出でて河陰に迎ふ。爾朱榮、太后・幼主を河に沈め、王公以下二千餘人を殺す。慕容紹宗、費穆、朝士を殺さんことを勸む。

諫む。

○爾朱榮、帝を河橋に遷し、禪文を作る。

○高歡、榮に帝と稱せんことを勸む。賀拔岳、歡を誅せんと請ふ。

○榮、金像を鑄て、成らず。劉靈助言ふ、吉ならずと。榮乃ち愧悔し、帝を迎へて罪を謝す。

○帝、洛に入る。惟だ山偉一人、赦を拜す。

○洛中の士民竄匿す。榮稍や安んず。

○官を追贈す。榮奏して、河陰の死者に鄭儼、部下に殺さる。

○汝南王悅・臨淮王彧・北海王顥、皆梁に奔る。

○元顥逢、郢州を以て、元世儁、北青州を以て、李志、南荊州を以て梁に降る。

○爾朱榮、自ら、二心無きを誓ひ、醉ひて禁中に宿す。帝、榮の女を納れて后と爲す。

○榮、晉陽に還り、元天穆をして入りて朝政を秉らしむ。遂に榮の意を稟く。

○樊子鵠、平陽を拔く。

○王羆、荊州を守り、箭の・額に中らんことを祝す。

○臨淮王彧、梁より還る。

○高乾兄弟、兵を河・濟の間に起す。元欣、諭して之を降す。

○葛榮、南侵して沁水に至る。

○邢杲、青州に反す。

○萬俟醜奴、帝と稱す。

○徐紇、羊侃に勸めて、泰山を以て叛きて梁に降らしむ。

○葛榮、相州を圍み、衆、百萬と號す。爾朱

屠維作噩

梁。正、癸丑。三、壬子。六、辛巳。七、庚辰。九、己卯。十一、戊寅。閏六。七、朔。處暑。一日、

○魏。正、癸丑。三、壬子。六、辛巳。閏七、庚辰。十一、己卯。九、戊寅。閏月壬戌、秋分。八、一日、

○隋志に、閏月壬戌、熒惑、積尸を犯す。

○魏志に、十月己酉朔、地より、十五分の七を食し、

中大通元

陳慶之、魏の梁國を取る。元顥、帝と稱す。慶之、遂に滎陽・虎牢を取り、顥を送りて洛陽に入る。七、庚辰。九、己卯。十一、戊寅。閏六。七、朔。

魏主、北に走る。慶之、三十二城を取り、四十七戰して皆克つ。

○顥、密に、梁に叛かんことを謀る。慶之、兵を益し及び徐州に赴かんと請ふ。皆、聽かす。上書して梁の兵を境上に止む。

○魏の爾朱榮、魏主を奉じて顥を擊つ。顥敗れ死す。慶之、沙門と爲り、逃れ歸る。

○魏の元延明、來奔す。

○嚴始欣、巴州を以て來降す。蕭玩を遣はして之を援けしむ。

○帝、同泰寺に捨身す。羣臣、錢一億萬を以て、奉贖す。

榮、從子天光をして晉陽を守らしめ、自ら精騎七千を帥ゐて葛榮を討ち、大に葛榮を滏口に破り、之を禽にす。其衆に各〻樂む所に從ふを聽す。一朝に散じ盡く。冀・定・滄・瀛・殷の五州皆平ぐ。

○宇文泰、統軍と爲る。

○梁の陳慶之、北海王顥を奉じて入寇す。

○于叔仁、羊侃を討つ。

○李賀穆、邢杲と戰ひ、惟水に敗る。

○于暉等、荆州を救ひ、梁の將曹義宗を禽にす。

○乞伏亦、梁に奔る。

○韓樓、幽州に據りて反す。

二

彭城武宣王を尊びて文穆皇帝と爲し、廟を肅祖と號し、彭城王劭を孝宣皇帝と爲す。臨淮王彧・李神儁諫むれども聽かず。

○上黨王天穆、邢杲を擊たんとす。薛琡、先づ元顥を擊たんと請ふ。

○顥、陳慶之と虛に乘じて睢陽を取る。顥、帝位に卽き、孝基と改元し、進みて考城を拔き、濟陰王暉業を禽にす。

○天穆、邢杲を破り、之を斬る。

○慶之、滎陽を拔き、楊昱を禽にす。顥、殺さず。

○慶之大に天穆を破り、遂に虎牢を拔き、辛纂を禽にす。

○帝、將に出でて顥を避けんとす。高道穆、帝に勸めて、北のかた河を渡り、遂に河內に如かしむ。

○臨淮王彧等、法駕を備へて顥を迎ふ。顥、洛陽に入り、建武と改元す。

西北に起る。又、八月乙丑、月食し、十月甲子、危に在り。又食して參に在り。十一月、熒惑、鬼より太微の西掖門に入り、上將を犯し、上東掖門を出で、上相を犯し、東行し、累日、旬已去來し、逆行して西す。

○崔孝芬、梁國を拔き、天穆、大梁を拔き、費穆、虎牢を攻む。陳慶之出でて之を擊つ。

○溫子昇、河を渡るを諫む。

○陳慶之復た天穆が大梁・梁國を取る。

○沛郡王欣、齊州を以て顥に附かんと欲す。

○崔光韶、從はずして止む。

○顥遽に驕怠にして、近習、政に干り、南兵陵暴す。

○朝野、望を失ふ。

○爾朱榮、帝に長子に見え、糧仗繼ぎて至る。

○榮、費穆を殺す。兵榮大に集まり、攻めて河內を拔き、宗正珍孫を斬る。

○顥、榮、密に、梁に叛かんことを謀る。陳慶之、梁に請ふ。顥、逆へて之を止む。

○顥、河に緣りて拒守す。榮、北に還らんと欲す。

○爾朱兆自殺す。渚濟、顥の子冠受を禽にす。

○顥の軍潰えて走る。

○楊津、臨潁に死す。公主の車を擊破す。帝、之を謝す。

○高道穆、楊侃と、奏して永安五銖錢を鑄る。

○宋遊道、臨淮王彧を責む。

○唐永を以て魏子建に代ふ。遂に東益州を失ふ。

○嚴始欣、巴州を以て梁に降る。

○傅敬紹、山民を誘ひて南鄭を圍む。父豎眼恥ぢ恚りて卒す。侯淵、機に臨み變を設くるは、是だれ其の長ずる所なり。若し大衆を總ぶるは、未だ必ずしも用ふる能はじと。

○淵、七百騎を以て韓樓を禽にし、幽州を定む。

○萬俟醜奴、東秦州を陷る。就德興降る。

上章閹茂

梁。正、丁丑。三、丙子。五、乙亥。七、甲戌。十、癸卯。十二、壬寅の朔。

○魏、同じ。

○魏志に、甲申、望前、月食す。又、正月癸未、熒惑、逆行して東掖門に入り、三月己卯、右執法の北に在り、留まること十四日、順行して東し、四月己未、端門を出で、左執法の南よりして東す。五月己亥、太白、參に在り。

二

魏の梁益州、嚴祖欣を攻めて之を殺す。蕭玩も亦敗れ死す。

○魏の汝南王悅を以て魏王と爲し、境上に置く。

○悅、魏に入る能はずして還る。

○陳慶之、魏の懸瓠を圍む。

魏東海王曄建明元

梁益州、嚴祖欣を攻めて之を殺し、梁の蕭玩に及ぶ。

○爾朱榮、爾朱天光・賀拔岳・侯莫陳悅を遣はして、萬俟醜奴を擊たしめ、唯だ兵千人を配す。天光淹留して未だ進まず。之を杖つ。

○醜奴、岐州を圍む。

○岳、醜奴に高平に追ひ及ぶ。侯莫陳崇、單騎、陳に入り、醜奴を馬上に禽にす。

○醜奴、退きて平亭に屯す。

○高平の人、蕭寶寅を執へて以て降る。

○天光、天熱しと稱して未だ進まず、而して醜奴を襲ひ擊ちて、之を破り、遂に涇州に克つ。

○梁、汝南王悅を以て魏王と爲す。

○萬俟洛、走りて王慶雲に歸し、水洛城を保つ。

○爾朱天光、降を約して水を給し、而して木槍を以て之を取る。三秦河渭瓜涼鄯等の州、皆降る。

○宇文泰、原州と爲る。民、亂に從ふを悔ゆ。

○帝、親ら獄訟を聽く。

○帝、太宰天穆に謂ふ、天柱猶ほ臣節を存せば、天下の百官を代ふるの理無しと。

○皇后、妬忌なり。其父の自ら作らざるを恨む。

○帝、諸賊の漸く平ぐを見て、意、喜ばず。

○榮、諷して九錫を求む。帝、其忠を稱す。

○榮、獵を好む。一鹿、圍を出づれば、數人、坐して虎を避くるが如し。天穆、之を諫む。榮曰はく、獵せずんば則ち士卒怠惰せんと。

○城陽王徽・李彧・楊侃等、帝に榮を誅せんことを勸む。李侃晞等諫む。

○奚毅曰はく、契胡に事ふる能はずと。

○榮、密書を毀り、地に唾して曰はく、世隆、贈無しと。

○帝、榮に謂ふ、人亦言ふ、王、我を害せんと欲すと。豈に之を信ず可けんやと。

○帝、止めんと欲す。徽、可かず。

○榮の下人、皆、帝の左右を陵侮す。故に不遜の語、皆、上聞す。

○帝曰はく、寧ろ高貴鄉公と作りて死すとも、漢の獻帝と爲りて生きじと。

○王道習、爾朱世隆・司馬子如・朱瑞を誅せんことを勸む。

○徽詐りて皇子を生むと稱し、以て榮を召す。

○溫子昇、赦書を執る。榮、見て之を問ふ。顏色、變ぜず。

○帝、榮を手刃し、并せて天穆を殺す。

○帝、榮の手板を得て曰はく、今日を過ぎなば、制す可からざらんと。

○大赦す。

○爾朱世隆、榮の妻子を奉じて河陰に奔る。

○田恬、門を攻めんと欲す。賀拔勝、之を止む。

○司馬子如、世隆に勸む、河橋に據り、京城を攻め、以て彊を示せと。

○爾朱拂律歸、胡騎を將ゐて來りて尸を求む。

○世隆謂ふ、兩行の鐵字、何ぞ信ず可きに足らんやと。

○李苗、火船を以て河橋を燒く。世隆、北に遁る。

○世隆、建州を屠りて以て怨を肆にす。

○斛斯椿、汝南王悅に歸す。

○爾朱兆、汾州より晉陽に據り、世隆に長子に會し、長廣王曄を立つ。
○爾朱仲遠、兵を徐州に起す。
○爾朱天光、兵を關中に起す。
○侯淵、兵を平州に起す。
○城陽王徽、帝に勸めて、羣臣の策を納れざらしめ、前に忌み、賞賜を靳惜し、糜費すれども而も恩、物を感ぜず。
○仲遠、西兗州及び滑臺を陷る。
○爾朱榮、兵を關中に起す。
謂ふ、兆は三千騎に將たるに過ぎず。我に代はるに堪ふる者は、唯だ賀六渾のみと。高歡を召し、洛に向はしむ。歡、之を辭す。
○兆、源子恭を丹谷に破り、河橋より、西し河陽を沒せず。宮門を叩く。
○敬宗、乃ち覺る。
○寇祖仁、城陽王徽を斬り、其首を獻ず。
○兆、世隆の耳目の廣からざるを責む。
○紇豆陵步蕃、秀容を襲ふ。兆、晉陽に歸り、
○世隆等をして洛陽に送る。
○兆、敬宗を守らしむ。
○高歡、兆を諫む、宜しく天子を害すべからずと。
○世隆、高道穆を殺す。
○世隆、李苗を追ひて贈謚せず。
○世隆、暐の母を殺す。
○兆、敬宗を弒す。
○步蕃、大に兆を秀容に破る。
○高歡、兆と共に步蕃を破り、之を斬る。
○兆、歡をして三州・六鎭を統べしむ。降民、食に就く。
○趙洛周、蕭寶夤を逐ふ。寶夤、山中に走りて死す。
○趙脩延、李琰之を執ふ。

重光大淵獻

梁。二、辛丑。四、庚子。六、己亥。八、戊戌。十、丁酉。十二、丙申の朔。
○魏。二、辛丑。四、庚子。六、己亥。八、戊戌。十、丁酉の朔。
○魏志に、六月己亥朔、食し、西南に起る。又、五月甲申、月、食盡す。又、十月甲寅、太白・熒惑・歲・塡、觜參に聚まる。

三

昭明太子卒す。小民、宮門に走り、號泣するもの、路に滿つ。
○東宮に在りて坐起するに常に西向す。
○道士謂ふ、墓地、長子に利あらず。蠟鵝を埋めよと。鮑邈之、太子厭禱すと譖す。帝、是に由りて歡を捨てて綱を立つ。
○周弘正、綱に勸めて、太子に讓らしむ。
○宗璇、服有る者、皆、邑を食み、鄉亭侯と爲す。
○樂山侯正則、反して誅せらる。
○魏の南兗州、來降す。

魏安定王朗中興元

○汝南王悅、南に還る。斛斯椿復た降る。宮を空しくすること百日。
○爾朱世隆、曄が疎遠にして人望無きを以て、更に君を立てんことを議す。
○廣陵王恭、陽り瘖し、以て元叉の難を避く。
○世隆、迎へて之を立つ。
○節閔帝、自ら赦を撰し、普泰と改元す。
○但だ帝と稱す。
○劉季明謂ふ、廢立の謀に預らざりしを以て、世隆を攻めんと欲す。
○爾朱兆、史仵龍、國に於て功無しと。
○節閔謂ふ、師子を殺す者を罪せず。
○崔祖螭、反して青州を圍む。
○劉靈助、兵を起して燕王と稱す。
○高乾、兵を引きて東下す。乾密に之を迎へ、遂に冀州に入る。歡に說きて爾朱を討たしむ。
○李元忠、歡に至り、士卒の侵暴するを禁ず。
○歡、山東に心を歸す。
○遠近、歡を徵す。至らず。
○爾朱世隆・仲遠・兆・天光、皆、驕淫にして貪暴なり。中外、之を患ふ。
○侯淵・叱列延慶、劉靈助を襲ひ擊ちて之を斬る。
○靈助の首函、三月にして定州に入る。
○天光、宿勤明達を討ちて之を禽にす。
○荊州の民、趙脩延を斬る。
○仲遠、崔祖螭を討ちて之を斬る。
○高歡、兵を信都に起す。李元忠、殷州に據りて以て之に應ず。

	玄黓困敦	梁。三、乙丑。四、甲子。六、癸亥。八、壬戌。十、辛酉。十二、庚申の朔。閏、三。四、一日小滿。○魏。正、丙寅。三、乙丑。閏四、甲子。六、癸亥。八、壬戌。十、辛酉。十二、庚申の朔。五、一日、夏至。○魏志に、十月辛酉朔、地より食し、西南に起る。又、四月戊寅、月食し、
	四	元法僧を以て東魏王と爲す。○邵陵王綸、强市して人を殺すに坐して免削せらる。○魏の爾朱仲遠、來奔す。魏の樊子鵠、譙城を拔き、元樹を貪にす。

○世隆・天光、楊椿・楊津の族を滅ぼす。○爾朱彥伯、擧するを以て位を遜る。世隆を以て儀同三司と爲す。○兆復た殷州を取る。○仲遠、兆と會して高歡を攻む。○歡、元朗を立てて帝と爲す。○歡、反間を縱ち、互に相猜貳せしむ。仲遠南に走る。○賀拔勝謂ふ、兆、策を失すと。○段韶謂ふ、衆き者は衆人の死を得、强き者は天下の心を得と。兆を廣阿に破る。○歡、鄴を攻む。○王乞德、劉世明を劫して南兗州を以て梁に降る。

魏孝武帝脩永熙元

高歡、鄴を拔く。○安定王朗、徙りて鄴に居る。○爾朱世隆、辭を卑くし禮を厚くして以て兆に謝し、其女を納れて后と爲す。兆乃ち悅ぶ。○斛斯椿・賀拔勝、爾朱氏を聚めて之を誅せんことを謀る。○世隆固く天光に請ふ。天光乃ち來るを肯んず。○賀拔岳、天光に謂ふ、心を同じくし力を勠せば、克たざる無からんと。又、留まりて關中を鎭し兵を遣はして東討せよと勸む。○爾朱度律・仲遠・天光・兆、同じく鄴に會す。○高昂、自ら漢の兵を將ゐ、鮮卑を用ひず。○歡、大に度律等を韓陵に破る。○慕容紹宗、軍を整へて去る。○兆、晉陽に奔り、仲遠、滑臺に奔る。

		箕に在り。十月丙子、又、食し、參に存り。又、三月癸巳、熒惑、逆行して氐を犯す。閏月丙申、歲、鬼に入る。十一月、熒惑、南斗に入り、十餘日にして出で、逆行して復た入り、六十日にして乃ち去る。

○斛斯椿、先づ河橋に據り、度律天光を禽にし、賈顯智をして入りて爾朱彥伯及び世隆を誅せしむ。○仲遠、梁に奔る。○歡、喬寧・張子期を責むるに不忠不信を以てして之を斬る。○賀拔岳、侯莫陳悅、長安を襲ひ、爾朱顯壽を禽にす。○馮紹隆、爾朱弼を給き、心血を割かしめ、之を刺す。○安定王、邙山に至る。歡、王の疎遠なるを以て、魏蘭根をして節閔帝を視しめ、之を奉ぜんと欲す。蘭根、帝の英特なるを以て、崔悛と與に歡に勸めて之に廢せしむ。爾朱度律・仲遠・天光・兆、同じく鄴に會す。○高昂、自ら漢の兵を將ゐ、鮮卑を用ひず。○歡、大に度律等を韓陵に破る。○慕容紹宗、軍を整へて去る。○兆、晉陽に奔り、仲遠、滑臺に奔る。

○解斯椿、歡を斬る。○歡、汝南王悅を立てんと欲す。其の狂暴なるを聞きて止む。○陽王脩を迎へて之を立つ。○歡、鄴に還る。○封隆之謂ふ、斛斯椿等反覆す、必ず患を爲さんと。○歡、度律天光を洛陽に送り、之を斬る。○節閔帝を殺す。○敬宗を追謚す。○歡、兆を擊つ。兆、秀容に奔る。歡留まりて晉陽に居る。○郭遷、青州に反す。侯景、討ちて之を平ぐ。○樊子鵠、梁の譙城を攻めて之を拔き、元樹を禽にす。○安定王朗・東海王曄を殺す。○又、汝南王悅を殺す。○李忠、歡の贊を持づ。○元寶泰をして爾朱兆を襲はしむ。

昭陽赤奮若

梁。二、己未。五、戊子、七、丁亥。九、丙戌。十一、乙酉の朔。
○魏志に、四月己未朔、食し、丙に在り、正南に起る。又、九月丁酉、太白・歲、翼に合す。甲寅、熒惑・太白、軫に合す。

五

魏の耿翔、膠州を以て來降す。
○王早・簡實、下邳に據りて來降す。
○翔、州を棄てて來奔す。
○魏の賀拔勝、雍州に寇し、數城を拔く。

二

兆、兵敗れ、自ら縊る。慕容紹宗、爾朱榮の妻子を以て降る。歡厚く之を待つ。
○行臺を罷む。
○武穆帝を追尊す。
○斛斯椿等、帝に說きて密に歡を圖らしめ、閤內の部曲を增置す。
○帝、賀拔勝兄弟に倚り、以て歡に敵す。
○高乾、歡に說きて禪を受けしむ。歡、其口を掩ふ。
○歡、阿至羅を招撫す。
○帝、高乾を殺す。弟昂、晉陽に奔る。
○耿翔・王早、叛きて梁に降る。
○賀拔岳、宇文泰をして、晉陽に至り、高歡を覘しむ。
○泰、岳に說きて、平涼に屯し、紇豆陵伊利等を招撫せしむ。
○岳、泰を以て夏州と爲す。
○邸珍、下邽を討つ。
○賀拔勝、沔北を侵し、數城を拔く。
○歡、翟嵩をして賀拔岳・侯莫陳悅を間せしむ。

關逢攝提格

梁。正、甲申。三、癸未。五、壬午。七、辛巳。十、庚戌。十二、己酉の朔。閏十二。同じ。
○魏志に、四月丁卯、熒惑、南斗に

梁高祖中大通六

魏の賀拔勝、來奔す。
○元慶和、東魏を伐つ。
○瀨鄉に克つ。
○西魏の獨孤信、來奔す。

魏孝武帝永熙三

丞相歡、紇豆陵伊利を禽にす。
○泉企、商洛の命を世襲す。
○永寧の浮圖、災あり。
○宇文泰、賀拔岳に謂ひて云ふ、曹泥は未だ憂ふるに足らず。宜しく先づ侯莫陳悅を圖るべしと。
○悅、岳を河曲に殺し、其衆を撫せず。皆奔りて平涼に還る。

東魏孝靜帝 善見天平元

孝武帝、西のかた長安に奔る。丞相歡、洛に入り、辛雄等を責むるに、位に大臣の處に備はるに諫爭せず、出づるに陪從せざるを以て

在り。
○魏志に、四月癸丑朔、食す。又、三月戊戌、月食し、月亢に在り。又、五月己亥、熒惑、逆行して南斗の魁第二星を掩ひ、遂に斗口に入る。

○薛憕、悅が必ず敗れんことを知る。
○洛、衆を齊ふる能はず、位を避けんと請ふ。
○寇貴・赫連達、宇文泰を迎へんと請ふ。
○韓褒、泰に行かんことを勸む。
○泰、悅が平涼に據らず、必ず能く爲す無きを知りて曰はく、遠かに往かずんば、衆心將に離れんとす。
○蔡祐、彌姐元進を殺す。
○赫連達、避難の民を掠めず。
○歡、侯景をして岳の衆を招かしむ。泰に遇ひて還る。
○泰、張華原を劫す。華原、從はず。
○王基、歡に謂ふ、宜しく泰が未だ定まらざるに及びて、擊ちて之を取るべしと。
○帝、岳の衆を召して洛陽に還らしむ。泰、辭して、赴かず。
○李虎、賀拔勝に說きて、岳の衆を收めしむ。
○泰、侯莫陳崇をして襲ひて原州を取り、史歸を擒にせしむ。
○李彌、悅に說きて、兵を解きて泰に謝せしむ。
○泰、悅を擊ちて上邽に克つ。悅走りて死す。
○劉亮、二十騎を以て、襲ひて幽州を取り、孫定兒を斬る。
○瓜鄴に至るまで、皆、氐羌の據る所。南岐より瓜鄴に至るまで、皆、氐羌の據る所。
○泰、李彌等をして討たしめ、之を平ぐ。
○于謹、泰に勸めて、天子を迎へて長安に都せしむ。
○歡、使を使はして泰に結ばしむ。泰、受けず。
○梁禦、賈顯度に說きて之を下し、遂に長安に據る。
○帝、泰を以て關西大都督と爲し、制を承けて拜せしむ。
○封隆之・孫騰、逃れて晉陽に歸る。
○歡、邸珍をして徐州の管籥を奪はしむ。
○帝、建州の韓賢・濟州の蔡儁を惡み、之を去し、悉く之を誅す。
○清河王寬を推して制を承けて事を決せしむ。
○歡、兵を引きて西し、孝武を迎ふ。潼關に克ち、華陰に屯し、退きて河東に屯す。凡そ四十日。
○歡乃ち洛に還る。
○侯景、譬を稱す。歡、寬、之を醜とし、更に其世子善見を立てて帝と爲す。
○西魏復た潼關を取る。
○梁の元慶和入寇す。
○汝陽王暹、齊州に克ち、侯淵、青州に克つ。
○歡、都を鄴に遷さんとし、書下り、三日にして卽ち發す。四十萬戶、狼狽して道に就く。
○樊子鵠、瑕丘に據りて命を拒む。
○六坊の・北に徙る者、皆、常廩を給す。
○元慶和、潁鄉に據る。
○李廣、辛纂が樊五能を討つを諫む。
○西魏の獨孤信、穰城に克ち、辛纂を殺し、遂に三荆を定む。高昂等復た之を取る。

らんと欲す。○帝、詔を下して戒嚴して云ふ、梁を伐たんと欲す。密に諸州の兵を發し、大に洛陽に閲す。詔して云ふ、荆雍を討たんと欲す。○獸、兵を發して四道俱に進まんと請ふ。帝復た詔して獸を止め、且つ獸を誚讓す。王思政・柳慶・宇文顯和、帝に勸めて關に入らしむ。○裴俠、泰に謂ふ、已に干戈を操る。寧ぞ肯て人に授くるに柄を以てせんや。湯を避けて火に入るなる無しと。○獸、兵を置き、糧を聚め、都を鄴に遷さんと欲す。○任祥、官を棄てて走る。帝、北來の文武に敕して、去留自ら便にせしむ。○詔して獸を罪狀し、荆雍の兵を召し、來りて迎へ援けしむ。○獸、盧柔・賀拔勝の爲めに三策を陳ず。○獸、晉より、兵を興して南下し、斛斯椿を誅する を以て名と爲す。○泰、高平より東に出づ。○帝、兵十餘萬を勒して河橋に屯す。○泰、椿・河を度りて逆へ戰はんと請ふ。許さず。○泰謂ふ、長河萬里、扞禦すること難しと爲す。○賈顯智、滑臺を守り、衆を帥ゐて獸に降る。○獸、洛に入る。帝、西に走る。○獸、河を濟る。○民、麥飯を獻ず。帝、一村を復すること十年。○泰、帝を迎へしむ。○泰、趙貴等をして帝に陽に謁す。帝、長安に入り、泰を以て大將軍・東魏に謁す。帝、長安に入り、泰を取らしむ。尚書令と爲し、軍國の政、咸、決め○獸、潼關に克ち、華陰に屯す。○賀拔勝、潼關に入り、崔謙、勝に勸めて、渭陽に至る。崔謙、勝に勸めて帝に見え、泰と同じく獸を拒

がしむ。勝、從はずして還る。○獸、退きて河東に屯し、遂に東に還る。○侯景を遣して荆州に逼らしむ。州民鄧誕、之に應ず。賀拔勝、梁に奔る。○趙剛、馮景昭に謂ふ、忠臣と爲らんと欲せば、請ふ、馮道和を斬れ。如し賊に從はんと欲せば、速かに殺さる可しと。○大將軍泰、復た潼關に克つ。○泰、復た靈州に擊つ。○李虎等、曹泥を靈州に擊つ。○泰、平原公主明月を殺す。帝復た泰と隙有り。遂に酖に遇ひて殂す。○泰、南陽王寶炬を立てて帝と爲す。○泰、獨孤信、東魏の穰城を攻め、之に克ち、遂に三荆を定む。東魏の高昂等、復た之を取る。信、梁に奔る。

旃蒙單閼

梁。正、戊申。三、丁未。五、丙午。七、乙巳。九、甲辰。十一、癸卯。正、一日、雨水。○魏。正、戊申。三、丁未。五、丙午。七、乙巳。九、甲辰。十二、癸酉の朔。○魏志に、七月壬戌、太白・塡、七星に合す。

大同元

鄱陽王範等、西魏の晉壽を攻めて之に克つ。○徐勉卒す。梁の世の賢相、范・徐を稱す。○蘭欽、西魏の漢中を攻めて之に克つ。復た梁州を得。○陸襄、鮮于琛を禽にす。

魏文帝寶炬大統元

○可朱渾道元、渭州より東魏に奔る。○曹泥降る。○乙弗后・太子欽を立つ。○東魏の司馬子如等、潼關を攻め、華州を襲ひ、其城に入る。王羆、祖跳を擊ちて之を走らす。○泰、二十四條の新制を行ふ。曙に逢するまで厭はず。○綽始めて案籍の程式を造る。○梁の蕭範、東益州に寇し、晉壽を拔く。○趙貴、梁より召す。○梁の蘭欽、漢中を拔き、梁州を取る。○庫狄時、梁を柔然と和親を約せしむ。

二

西魏の可朱渾道元、來奔す。○衞既隆等謂ふ、高后の孝武に於ける、未だ絶たず。宜しく服を爲すべしと。○丞相歡、劉蠡升を擊ちて之を破る。○司馬子如、勃海の世子澄及び妻妃を和解す。○子如等、西魏の潼關を攻め、華州を襲ひ、克たず。○婁昭、瑕丘を拔き、樊子鵠を斬る。○昭、子鶴の餘兵を誅せず。

柔兆執徐

梁。二、壬申。四、辛未。六、庚午。八、己巳。十、戊辰。十二、丁卯の朔。○魏、同じ。○魏志に、二月丁亥、月食す。八月癸未、又、食す。十一月、又、熒惑、歲、合す。

二

上、皇基寺を作る。孟少卿、弘氏を殺し、其良材を取る。○人、陶弘景を謂ひて山中の宰相と爲す。○弘景の詩、玄談を刺る。○詔して諫を求めて稱す、屋漏、上に在り、之を知るは下に在りと。○賀拔勝、西魏に還る。○兵を發して東魏を伐つ。侯景、楚州を破り、

二

東魏の高歡・夏州を襲ひ、斛拔彌俄突を虜にす。○曹泥復た叛き、之を圍む。歡、阿至羅をして之を救はしむ。泥、劉豐と、東魏に奔る。○阿至羅、秦州に寇す。○萬俟普、其子洛と、東魏に奔る。北千餘里に至り、梁より還る。○賀拔勝、梁より還る。○東魏の高歡、三道より入寇す。

三

丞相歡、夏州を襲ふ。身、火食せざること四日にして至り、斛拔彌俄突を禽にす。○西魏、曹泥を靈州に圍む。歡、阿至羅をして之を救はしむ。泥、劉豐と、來奔す。○高澄、年十五にして、入りて朝政を輔く。中外振肅す。○高季式、醉ひて孫搴を殺し、陳元康を薦めて代りて主簿と爲す。

○歡、詐りて劉蠡升に結昏を許し、襲ひて之を滅ぼす。○侯淵、青州を襲ひ、梁に奔らんと欲す。○高隆之、道に死す。○高隆之、新宮を作らしむ。○隆之、任欣集を誣譖し、之を殺す。○歡、其子洋を謂ふ、吾の幼時に過ぐること。○洋、亂絲を斬り、彭樂と相格す。○文武、祿を量給す。○公主を以て柔然の阿那瓌に妻す。

桓和を虜にす。陳慶之、景を破る。北伐の兵を罷む。

强圉大荒落

梁。二、丙寅。五、乙未。七、甲午。九、癸巳。十、壬辰。十二、辛卯の朔。閏九。十、二日、小雪。○魏、同じ。○隋志に、三月乙丑、歲、建星を掩ふ。

三

初めて東魏と和親す。○獨孤信等、西魏に還る。

三

歡、蒲津に在り。丞相泰、寶泰を潼關に襲ひ、之を斬る。歡退く。○高昂、上洛を拔く。泰敗ると聞き、亦退く。○泉元禮復た洛州を取る。○獨孤信等、梁より還る。○泰、十二將を帥ゐて、東魏を伐ち、恒農を拔く。○歡、河北の城堡多く降る。二十萬人を將ゐて蒲津に出で、高昂、三萬を將ゐて河南に出で、來りて會戰す。○泰、兵を引きて渭北に度り、歡が新に至るに乘じて之を擊たんと欲す。宇文深、賀して曰はく、歡、衆に違ひて遠く來りて決す。忿るは必ず敗る。○遠奚武、先づ渭曲に據らんと請ふ。○李弼、歡の軍に入りて覘察す。○泰、歡と、沙苑に戰ひ、大に之を破る。○李穆、身、小兒の如くにして而も勇戰す。○泰、穆、歡を追ひて河上に至りて還る。李穆、急に追ひて許さざらんと請ふ。

○歡、阿至羅をして、西魏の秦州の萬俟普に逼らしむ。○普及び子洛來奔す。○侯景、梁を伐ち、桓和を虜にす。景、陳慶之に敗られて還る。○清河王亶卒す。○丞相歡、西魏を伐つ。

四

寶泰、潼關に敗死す。歡、蒲津より退く。高昂も、亦上洛より退く。○歡、瑞石を得。陽休之・杜弼に禪を受けんことを勸む。歡、從はず。○初めて梁と和親し、李諧等を以て使に充て、梁と競ふに才雋を以てして相高ぶる。○西魏の宇文泰、恒農を拔く。河北の城堡多く西魏に附く。○柔然、三堆を侵す。歡、擊ちて之を走らす。○杜弼、文武の貪汚の者を治めんと請ふ。歡曰はく、此の如くせば、督將は皆、黑貂に歸し、士子は盡く蘧衍に奔らんと。

○柳を以て武功を旌す。○李泰、薛崇禮を獲。○獨孤、彌、蒲反に克ち、絳を略定す。○東魏、宇文泰、種、蒲反を以て洛陽に克つ。○貴の信、因りて汾州・梁州・熒陽、皆、降る。○潁川に據り、東魏を擊つ。任祥、潁川を破る。○東魏の豫州を攻めて之を拔く。○東魏の東荊州を攻め、慕容儼に敗らる。○彌、又、勳貴を言ふ。○歡、軍士に命じて弓を張り刃を拔かしめ、彌をして其間を冒出せしむ。○歡、鮮卑に號令して、常に漢民を輕んずること勿らしめ、華人に令して、常に鮮卑を疾むこと勿らしむ。○劉貴謂ふ、一錢漢、其死に從ふと。○高昂、之を斫る。○歡、蒲津に出で、昂、河南に出で、以て西魏を擊つ。○薛琡、河を渡る勿らんと請ふ。○侯景謂ふ、軍、大にして收め難し。請ふ分ちて二と爲さんと。○斛律羌舉、精兵を分ちて、常に鮮卑を疾むこと勿らしむ。○侯景謂ふ、泰、焚死すとも誰か信ぜんと。○彭樂、戰を勸む。○歡、泰と沙苑に戰ふ。○歡大に敗る。○彭樂、腸出づ。○歡、去りて復た戰ふ。○歡、更に戰はんと欲す。○斛律金、其馬を鞭つ。乃ち奮て河を度る。○甲馳に跨りて士八萬を

喪ひ、鎧仗十八萬を棄つ。○侯景、還りて泰を取らんと請ふ。妻妃曰はく、泰を得るも、景を失はば、何の益あらんと。乃ち止む。○高昂、退きて洛陽を保つ。○西魏の李弼、蒲反に克ち、薛崇禮を獲。○西魏、汾・絳を略定す。○薛脩義、晉州を全くす。○潁州・梁州・熒陽、皆、西魏に降る。○任祥等、潁川を救ひ、西魏の字文貴に敗らる。○西魏の韋叔裕、豫州に寇して之を拔く。○西魏の郭彎、東荊に寇す。○慕容儼、擊ちて之を敗る。○邢麟納等、兵を海隅に起し、以て西魏に應ず。○高季式、私兵を遣はして、境外の盜を平ぐ。

著雍敦牂

梁。二、庚寅。四、己丑。六、戊子。九、丁巳。十一、丙辰の朔。

○魏、同じ。

○梁紀に、六月辛丑、食す。疑ふらくは己丑の誤ならん。

○魏志に、正月辛酉朔、食す。又、六月癸卯、月食す。又、二月庚戌、三月甲子、歲、逆順行して再び上相を犯す。六月、太白、東井に入る。

四

李胤之が舍利を得たるを以て大赦す。

四

東魏の賀拔仁、南汾州を取る。

○侯景等、復た潁・豫・廣の三州を取る。

○泰、帝を廢し、柔然の女を迎へて后と爲さしむ。乙亥、后を廢す。

○東魏の侯景等、獨孤信を金墉に圍む。

○帝、太子欽を留めて長安を守らしめ、泰と東魏の侯景等、獨孤信を金墉に圍む。

○洛陽に如く。東魏の將莫多婁貸文に遇ひ、擊ちて之を殺す。

○李弼、園を解く。

○景等、馬より墜つ。李穆、其背を扶ち、馬を以て之に授く。

○泰、與に河橋に戰ふ。

○高昂等を殺す。

○獨孤信等、先づ敗走し、泰も亦遁る。

○降卒、弘農に據る。攻めて之を拔く。

○泰、蔡祐の股を枕とし、乃ち安寢するを得。

○祐、口、功を言はず。泰曰はく、我當に之に代りて論敍すべしと。

○太子欽、出でて渭北に屯す。

○趙青雀、長安に據り、于伏德、咸陽に據りて反す。

○王羆、門を開きて、軍士の去留に任す。

○宇文導、襲ひて咸陽を取り、泰と會して長安を攻め、之を拔く。

○帝、長安に入る。泰還りて華州に屯す。

○是云、寶、襲ひて洛陽を取る。

○趙剛、襲ひて廣州を取り、復た襄廣以西を得。

○李長壽、伊川に據り、以て東魏を拒ぐ。子延孫、之に繼ぎ、韋法保、又、之に繼ぐ。

○權景宣、陽を保つと詐り、遂に西に遁る。

○韋孝寬、宜陽を取る。

○王思政、玉壁に築き、恒農より、徙りて之に

元象元

賀拔仁、西魏の南汾州を攻め、之を取る。

○侯景等、兵を虎牢に治め、復た潁・豫・廣の三州を取る。

○盧勇、百騎を以て西魏の兵を破る。

○歡、兵敗れたるを以て、大丞相を解かんと請ふ。

○侯景等、西魏の獨孤信を金墉に圍む。

○西魏主、宇文泰と與に之を救ふ。

○莫多婁貸文先づ西魏と戰ひて敗死す。

○景等、園を解き、泰と河東に戰ふ。

○高昂、敗死す。

○泰、敗走す。

○歡、金墉を攻め、之を毀ちて還る。

○裴讓之、諸葛亮を謂ふ、事へ、兄弟・劉吳を盡せりと。各〻其心を

○賀狄仁、邢磨納等を討ち、之を平ぐ。

○歡、盧景裕を赦し、諸子を教へしむ。

○西魏の是云寶、襲ひて洛陽を取る。王元軌走る。

屠維協洽

梁。正、乙卯。三、甲寅。五、癸丑。七、壬子、九、辛亥。十一、庚戌の朔。

○魏。正、乙卯。三、甲寅。五、癸丑。七、壬子。九、辛亥。十二、庚辰の朔。

○魏志に、十二月甲午、月食す。又、二月壬子、熒惑、井の北・軒轅の第一星を犯し、四月、鬼に入る。

五

晉宋以來、宰相多く文義を以て自ら逸す。何敬容獨り簿領を勤め、時俗に嗤鄙せらる。

○敬容、質慤を以て、朱异、文華を以て、皆、帝に寵任せらる。

○异、阿諛、食饋、奢侈、吝嗇にして、權任に當ること三十年、車馬、門に塡つ。

○郊祀し、初めて輦に乘る。

○州を分ちて五品と爲す。凡そ一百七州。州、郡、多し。雖も、而も戶口日に耗す。

○襄廣以西復た西魏に入る。

○僧尼、二百萬人に至り、寺、三萬餘あり。

○西魏の韋孝寬、宜陽を取る。

○高澄、選を典り、始めて年勞の制を改め、英俊を引擢す。

鎭す。

五

泰、行臺に於て學を置く。

○紙筆を陽武門に置き、以て得失を求む。

○周惠達等に命じて、禮樂を修定せしむ。

興和元

歡、房謨等の政績を褒稱し、諸の刺史を勸諭す。

○高后を立つ。

○十萬人を發して鄴に城く。

○新宮成る。

○興和曆を行ふ。

上章涒灘	梁。二、己卯。四、戊寅。閏五、丁丑。七、丙子。九、乙亥。十一、甲戌の朔。六、一日、大暑。○東魏初めて興和曆を用ひ、西魏仍ほ正光曆を用ふ。竝に同じ。○魏志に、閏月丁丑朔、食す。又、十一月甲戌、太白。塡、氐に合す。	六
重光作噩	梁。正、癸酉。四、壬寅。六、辛丑。八、庚子。十、己亥。十二、戊戌の朔。○魏志、同じ。○魏志に、四月壬辰、月食す。疑ふらくは丙辰の誤ならん。又、四月己丑、太白・歲・奎に合す。丙午、熒惑・歲・奎に合す。	七
玄默閹茂	梁。二、丁酉。四、丙申。六、乙未。九、甲子。十一、癸亥の朔。同じ。○魏志に、七月壬午、熒惑・歲、井に合す。	八
昭陽大淵獻	梁。正、壬戌。二、辛酉。四、庚申。六、己未。八、戊午。十、丁巳の朔。閏正。二、一日。春分。○魏。正、壬戌。二、辛酉。四、庚申。六、己未。八、戊午。十一、丁亥の朔。○魏志に、三月丙午、月食す。	九

上章涒灘

六

○五銖錢を鑄る。○東魏の侯景、荆州を復せんと欲す。李弼等、拒ぎて之を却く。○柔然入寇して夏州に至る。○乙弗后に死を賜ふ。周惠達、○王羆謂ふ、恒怯にして、帝城の驚擾を致すと。○郁久閭后卒す。○宮延和等、東魏に降る。

二

侯景、荆州を復せんと欲し、克たず。○西魏の宮延和等來降す。○吐谷渾伏籌連卒す。子夸呂立ち、始めて可汗と稱す。

重光作噩

七

○宕昌王梁企定死し、弟彌定立つ。○宇文測、東魏の・寇を爲したる者を禮遣す。或ひと其の外に交はるを譖す。丞相泰、之を斬る。○蘇綽奏して六條を頒つ。○新に十二條を制す。

三

○初めて麟趾格を行ふ。○漳瀕河に倉を置き、穀を漕す。海に傍ひて鹽を煮る。穀、斛ごとに九錢、民稍や蘇息す。○高澄、子孝瑤を生む。○禮遣、十室に滿つ。○臨淮王孝友、三長を省かんと請ふ。

玄默閹茂

八

劉敬躬、反す。張綰、討ちて之を平ぐ。○盧子略、廣州を攻む。陳霸先、擊ちて之を平ぐ。

八

初めて六軍を置く。○東魏の高歡、玉璧を圍む。王思政、之を拒ぐ。大雪に値ひて退く。○太子、蒲反に鎭す。○帝、華陰に狩す。泰、來朝す。

四

丞相歡泣きて尉景を請ふ。○歡、西魏を伐ち、玉璧を圍む。克たずして還る。○李元忠謂ふ、僕射と作るは、酒を飲みて樂しむに如かずと。

昭陽大淵獻

九

林邑王、李賁を攻め、九德に敗る。

九

東魏の高慎、虎牢を以て來降す。○泰、東魏の河橋を圍む。○泰、高歡を邙山に襲ひ、利あらず。○臨洮王東等、東魏の彭樂に虜にせらる。○泰、樂に謂ふ、急に前營に還りて、汝の金寶を收めよと。○若干惠等、東魏の兵を敗る。○賀拔勝、歡を逐ひ、刃及ぶに垂なんとして逸す。○左軍敗れ、泰遂に遁る。○若干惠、食畢り、旗を建て角を鳴らし、散兵を收めて去る。○泰、敗走す。○歡追ひて陝に至りて還る。○王思政、恒農を守り、門を開きて敵を待つ。○泰、自ら貶せんことを求む。許さず。○王に勇、耿に豪、王に傑の名を賜ふ。○趙昶、李鼠仁に說きて之を下す。○東魏、虎牢を拔き、復た北豫・洛の二州を取る。○泰、裴俠に命じて獨り立たしめ、以て諸牧守を激厲す。

武定元

高慎、虎牢を以て叛きて西魏に降る。○歡、西魏の軍を河北に拒ぐ。○斛律金、鎖釘火缸を以ふ。○歡謂ふ、西軍、乾飯を食ふ。當に渴死すべしと。○歡、泰を邙山に敗る。○彭樂、西營に入り、王公等を虜にして還る。○樂、泰を追ひて幾どこれを獲んとす。歡、絹三千を取りて樂を壓し、因りて之に賜ふ。○歡、西魏に敗らる。○尉興慶、百筒を以て死す。○西魏の賀拔勝、歡を

閼逢困敦

梁。正、丙戌。三、乙酉。五、甲申。七、癸未。九、壬午。十一、辛巳の朔。

○魏、同じ。

十

李賁、帝と稱す。帝、蘭陵・京口に幸す。

○何敬容、官を免ぜらる。

十

泰、賀拔勝を謂ひて眞勇と爲す。

○權衡度量を更む。

○蘇綽に命じて、新制を損益せしめて之を行ふ。

逐ひ、槊刃、及ぶに垂なんとす。段韶、其馬を射殺し、免るるを得。

○西軍大に封子繪を敗る。陳元康、歡に勸めて之を追はしむ。從はず。陝に至りて還る。

○封隆之、高澄が叛者の家屬を收めんとする。聽さず。

○侯景、諜書を改め、虎牢を取り、復た北豫・洛の二州を得。

○土墻の長城を築く。

二

歡、冀・定を巡りて戶口を校す。

○高澄、大將軍・中書監と爲り、門下の機事を移して中書に歸す。

○澄、崔季舒をして帝を左右せしむ。

○澄、崔暹に在らしむ。假に威勢を借り、其赤棒を避けて諸弾劾せしむ。

○司馬子如、贓に坐して免ぜらる。

○歡、子如の爲めに、子澄を擇ぶ。

○高澄、及び歡、崔暹を褒美し、諸貴を戒厲す。

○楊愔謂ふ、狗、數〻

旃蒙赤奮若

梁。正、庚辰。四、己酉。六、戊申。八、丁未。十、丙午。十一、乙巳の朔。閏十。十一、一日、同じ。冬至。

○魏志に、四月丁巳、熒惑、南宮の上將を犯し、戊寅、右執法を犯す。

十一

楊暄・陳霸先、李賁を討つ。

○復た人に罪を贖ふことを聽す。

○賀琛、四事を陳す。上、詰責して其主名を求む。

○帝、恭勤慈儉にして、而も刑法を疎簡にす。

○枉濫なる者多し。或は殺掠を行ふ。上、禁ぜず。

十一

突厥の土門始めて彊大なり。使を遣はして之と通ず。

○蘇綽、大誥を作り、以て文章の流弊を革む。

○申徽、單使を以て鄧彥を瓜州に貶にす。

吠ゆるを以て之を殺さば、恐らくは復た吠狗無からんと。

○孫騰・高隆之に命じて、無籍の戶を括せしめ、六十餘萬を得。

○歡、山胡を襲ひ、之を破る。

○魏收、梁に與ふる書を改定す。

柔兆攝提格

梁。正、甲辰。三、癸卯。五、壬寅。八、辛未。十、庚午。十二、己巳の朔。

中大同元

楊暄、交州を平ぐ。李賁、逃れて獠中に入る。

○上、同泰寺に留まりて經を講ず。寺、災あり。更に十二層の浮圖

十二

宇文仲和、涼州に據り、張保、瓜州に據りて反す。

○獨孤信、涼州を定め、令孤整、瓜州を定む。

○王思政、韋孝寬を擧げ、代りて玉壁に鎭せしむ。

三

爾朱文暢等、歡を殺さんと謀り、克たずして死す。

○晉陽宮を置き、吐谷渾の女を納れて容華と爲す。

○歡、厚く崔暹に謝し、之を顯賞す。

○暹、刺を墜し、公主に見えんことを求む。

○妻妃、歡に勸めて柔然の女を娶らしめ、正室を避けて以て之を處く。

四

石經を鄴に遷す。

○歡、山東の衆を擧げて、西、魏を伐ち、玉壁を圍む。西師、以て西師を挑む。死

○魏、同じ。○魏志に、九月壬寅、太白、左執法を犯す。

を作る。○初めて犯罪者の祖父母・父母をして坐せざらしむ。○詔して足陌錢を通用す。○上の諸子、心、相下らず、互に相猜忌す。○陳羣先、李賁を典澈湖に破る。○岳陽王詧、襄陽に鎮し、陰に土を待ち民を撫し、以て大功を圖る。

○東魏の高歡、入寇し、玉壁を攻むること五十日。○孝寛、機に隨ひて之を拒ぐ。歡、克つ能はず。○侯景、疾を發して退く。○安定公泰、齊子嶺に寇す。楊綱拒ぎて之を却く。○侯景、齊子嶺に寇す。○隨ひて處分せしむ。空紙に署し、以て蘇綽に授け、事に綽謂ふ、國を爲むるには、當に人を愛すること、父の如く、人を訓ふること嚴師の如くなるべしと。○綽卒す。泰、薄葬し、以て廉讓を彰す。

する者七萬人、克たず。○侯景、齊子嶺に趣く。亦、克たず。○歡、段韶をして太原公洋に傅とし、世子澄を召し、鄴に鎮せしめて晉陽に詣らしむ。○侯景、澄と隙有り。之を召せども至らず。○歡謂ふ、侯景に敵するに堪ふるは、唯だ慕容紹宗のみと。

國譯資治通鑑目錄上終

昭和五年四月十七日印刷
昭和五年四月二十日發行
昭和五年五月廿三日再版發行

著作權所有

續國譯漢文大成 經子史部 第十七卷
（岡山製本）
【非賣品】

編輯兼發行者 國民文庫刊行會 東京市神田區小川町一番地
右代表者 鶴田久作 東京市本郷區西片町十番地
印刷者 君島潔 東京市小石川區久堅町百八番地
印刷所 共同印刷株式會社 東京市小石川區久堅町百八番地

發行所 國民文庫刊行會
電話神田（五三五番）（八三八番）
振替東京一八五七二番

654
56

國學基本叢書